北海道千歳リハビリテーション大学

シラバス

令和2～6年度(2020～2024年度)の入学生適用

北海道千歳リハビリテーション大学
Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

科目名	理解と表現	担当教員	和田 義哉 伊藤 俊一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	①、②					

科目概要	教育と研究を遂行するには、適切なコミュニケーション能力を必要とする。単なる情報や知識のやりとりを超えた対話状況では、他者の話を聴き取る力や、共感的な対人関係の維持および関係構築能力が不可欠である。本講義では、広い意味でのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。
学習目標	① 英語圏における異文化コミュニケーションに関連した学びを体験する。 ② 医療・社会的コミュニケーション能力の向上を目指す。 ③ 教育的コミュニケーション能力の向上を目指す。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	イントロダクション 他者の視点で世界を見てみる－1	・講義の見通し ・写真・記事・メッセージと dictation を通して他者の置かれた立場や思いを想像・共感する	・講義の見通しをつかむ ・同時代を生きる他者の立場や思いを想像・共感し、自分と世界の人々との繋がりを捉える	
2	他者の視点で世界を見てみる－2	・写真・記事・メッセージと dictation を通して他者の置かれた立場や思いを想像・共感する ・ペアワークを通して、お互いを知り、基礎的な文法項目を練習・整理する	・自分と世界の人々との繋がりを捉える ・ペアでのやり取りを通して、英文の組み立て方や文法項目を練習・整理する	
3	多様性の理解.1	医療・介護でのセラピスト業務、介護・看護経営業務など、他職種も含めた多様性を整理する	社会人、職業人としてのアイデンティティを理解する（Guest speaker、GS：鈴木 満 先生）	
4	多様性の理解.2	社会人として communication の重要性を整理する	コミュニケーションに対する姿勢や注意点を理解する（GS 黒川 美知恵 先生）	
5	Glocal な出来事	・Dictation と Guided interview を基に、「忘れられない出来事」作文を書く	・サンプルエッセイの構成を捉える ・自己と他者の視点を含んだ essay「忘れられない出来事」の 1st draft を書く	
6	多様性の理解.3	対人関係を円滑にする、より良い姿勢を整理する	対人関係に於ける「姿勢」の重要性やそのポイントを理解する（GS：岡田莉奈 先生）	
7	多様性の理解.4	目標設定、キャリアデザイン、ライフプランをを考える	キャリアデザイン、ライフプランの構築に関して理解する（GS：平山奏那子 先生）	
8	Glocal な視点、今と未来を繋ぐ行動－1	Self-editing, Peer-editing 等を通し、より自然で簡潔に message を伝える仕方を学び、essay に活かす	・Self-editing, Peer-editing を通して、より自然で分かり易い表現を工夫できる	
9	自分を理解する	自分を知ることの大切さ チェックリストによる自己理解	自分がどういう人間かを振り返るだけでなく、今まで気づかない自分を理解できる	
10	多様性の理解.5	社会人として他者や組織との関わり方を整理する.①	経営面からの視点から組織に対して要求されることを理解する（GS：小松弘宣 先生）	
11	多様性の理解.6	社会人として他者や組織との関わり方を整理する.②	人事、経営者からの視点から社会人に要求されることを理解する（GS：小松弘宣 先生）	
12	Glocal な視点、今と未来を繋ぐ行動－2	・Chunk reading, Dictation ・発表タイム ・講義のまとめと振り返り	・より自然で簡潔に message を伝える方法を活かして 2nd draft を完成する ・Glocal な視点を今後に活かそうとする	
13	文章で表現する	文章表現方法の見直し	日本語の使い方で、見落としがちな間違った表現方法を学習し利用できる。	

14	手紙文の書き方	手紙文の約束事　敬語の基本知識	手紙を書く時の基本的なルールを理解し、相手に失礼のない手紙とは何か理解できる。	
15	自分を表現する	プレゼンテーションの仕方	相手にわかりやすく魅力のあるプレゼンテーションとは何かを獲得する。	

評価方法	各講義担当者により、レポート試験または筆記試験等が実施される。伊藤（50 点）、和田（50 点）満点とし、その合計を総合評価とする。
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教科書は使用しない。適宜、講義資料を配布する。
参考図書	講義時に随時紹介する。
学習の準備	事前に配布された資料がある場合は、それを予習し、関連情報にもあたっておく。（2 時間） 授業後は配布資料や実践した内容、授業内で出された課題について学習する。（2 時間）
オフィスアワー	木曜日　12:30~14:00
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	学びの技法	担当教員	佐藤 公博 和田 義哉 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13A	⑤

科目概要	学びの本質と学びの技法について講義する。高校までの「勉強」と「学び」の違いについて理解し、主体的な学びが実践できるようになるための「技法」の修得を目標とする。技法の修得にあたっては、問題・課題の本質をまず明確にし、それに対する従来の解決法を批判的に理解しつつ、自ら能動的・創造的に思考し、有効な対処が可能な能動的能力を身につける。
学習目標	① 学びの意味や問うことの意味、個性等について、学ぶ主体性と絡めて自らを振り返る。 ② 本学の教育特質である障害予防リハビリテーション教育を生かした教育学に関する知識を修得する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	学びの基礎１	「主体的に学ぶ」ための準備	「勉強」と「学び」の違いについて理解できる。	
2	学びの基礎２	自分で「考える」ことができるようになるための準備①	「問い」を持つことの大切さについて理解できる。	
3	学びの基礎３	自分で「考える」ことができるようになるための準備②	「わからない」ことを「わかる」ようになるための具体的な方法を理解し実践する。	
4	学びの基礎４	医療者のための「教育学」の基礎知識	教育学に関する基礎理論と医療者のための教育の関係について理解できる。	
5	アクティブラーニング	チーム学習　ブレインストーミング	グループで学習することによるメリットを認識し、普段でも活用できるようになる。	
6	議論の方法	グループによる議論の仕方	自分の主張に対する根拠をはっきりさせ、反論もできるようになる。	
7	個性と教育	認知特性を知る　知識の習得方法	自分の得意な学習方法を理解し、活用することができる。	
8	効果的な学習	図解のすすめ　文章の要約	長文をいかにまとめるか、また、複雑な内容を図にすることで理解しやすくできる。	

評価方法	各講義担当者により、レポート試験または筆記試験等が実施される。佐藤（50 点）、和田（50 点）で採点し、その合計を総合評価とする。
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、即時回答を行う。
教科図書	教科書は使用しない。各回、適宜講義資料を配布する。
参考図書	講義時に随時紹介する。
学習の準備	事前に配布された資料がある場合は、それについて予習をしておくこと。さらに各回の講義テーマを見て、事前に関連情報にもあたっておくこと。事前・事後学習時間は各 2 時間以上、合計 4 時間以上とする。
オフィスアワー	水曜日 13:00~14:30
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	社会貢献の方法と実践	担当教員	中尾 学人 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AB	①、⑥

科目概要	多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。日本国内および世界には多様な文化や価値観があり、また豊かさの指標も多種多様です。近年、この多文化共生を背景とした多くの取り組み事例が国内外で増えてきています。本科目では、日本国内に加え世界の現状や課題、多様な文化について理解することを目的に、様々なアクティビティやグループワークを通じた社会貢献の方法と実践を学習します。それらを通じて、社会における自身の役割について認識し、自身が社会で主体性をもって実践できる方法を学びます。
学習目標	多様性について学習し、異文化に対し理解することを目標とする。また異文化理解に対する具体的な方法と実践をとおして、社会における自らの役割について理解することを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	社会貢献とは	社会の利益に役立てる実践例を紹介します。	社会の利益とは何かを理解する。	
2	社会貢献の実際;スポーツ現場	リハビリ職のスポーツ現場における取り組みを紹介します。	理学療法士のスポーツ現場の役割について理解する。	
3	社会貢献活動の実際;国際活動①	国際的な健康問題についてリハビリ職が担うべき役割について学習します。	国際的な健康問題についてリハビリ職が担うべき役割を理解する。	
4	社会貢献の実際;国際活動②	貧困などの国際問題を学習し，その具体策について，参加型ワークショップを行います。	貧困などの国際問題を理解し、具体策について議論できる。	
5	社会貢献の実際;スポーツを通じた国際活動	スポーツを通じた国際活動を実践するための参加型ワークショップを行います。	スポーツを通じた国際活動について理解し、自らプログラムを立案することができる。	
6	チームビルディングとは	チームビルディングと社会貢献の関係性をグループワーク形式で学習します。	チームビルディングと社会貢献の関係性について理解できる。	
7	チームビルディングの実践	チームビルディングの実践について学習します。	チームビルディングについて理解し、自身が果たせる役割を理解することができる。	
8	社会貢献の展望	これからの社会貢献のあり方について学習します。	社会貢献の展望について理解し、自身が果たせる役割を理解することができる。	

評価方法	講義出席(60%)、レポート提出(40%)で評価します。
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	各回の授業で紹介します。
参考図書	とくに必要ありません。
学習の準備	（事前学習）前回講義の資料に目を通し復習しておくこと（2時間） （事後学習）講義終了後は配付資料を通読し、講義内容をまとめ疑問点を整理すること（2時間）

オフィスアワー	講義の前後
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	情報学	担当教員	松田 竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	③、④、⑤					

科目概要	情報学はコンピュータスキルの基礎を修得し、学習に際して自在に活用できるようになることを目標とする。具体的には、コンピュータの仕組みやオペレーションシステムの基本を学び、ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作、および電子メールやインターネットの利用法、文献検索の方法などを実習的に学習する。さらに、セキュリティや情報倫理について理解を深める。
学習目標	① 各種情報の取扱いとコンピュータの仕組みについて理解する。 ② コンピュータの基本操作を学び、安全な利用とその応用を理解する。 ③ 情報操作のセキュリティや情報倫理のあり方について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション／情報資源の活用	情報学とは. 情報リテラシー. 情報資源・文献検索・学習に活用するアプリやシステムの導入説明.	情報学の概要を理解し、身近な情報資源を活用して今後の学習に活用できる。	
2	コンピュータや端末の仕組みと演算	OS(オペレーティングシステム). CPU(中央処理装置). メモリ(記憶装置). 進数変換. ビットとバイト. 論理演算. 機器の規格ほか.	OS の種類とその内容を習得し、CPU の役目や各種記憶装置を説明できる。数値的動作原理を理解し、説明できる。	
3	ネットワークとインターネット	ネットワークの構築. インターネットの現状. 無線 LAN. IP アドレス. 電子メール、クラウドサービスほか	従来のネットワークがどのようなものか、また現在のインターネットについて説明ができる。	
4	ワードとエクセルの利用法	Office. Word(ワード). Excel(エクセル). レポート作成. 表と計算.	文章ソフトの Word で報告書を作成し、Excel による表作成や統計処理を行うことができる。	
5	パワーポイントの利用法	プレゼンテーション. スライド. 作図とデザイン. カラー表現.	パワーポイントを用いて図の作成やデザイン化を行い、プレゼンテーションを実行できる。	
6	セキュリティと情報倫理	情報セキュリティ. 電子保存. パスワード. 暗号化. ファイアーウォール. 情報倫理.	各種情報とそのセキュリティの必要性を学び、情報倫理に則ったコンピュータ操作ができる。	
7	社会環境の中の情報	社会の中の情報活用事例. アナログ情報とデジタル情報. IC タグ. サンプリング. 情報活用の今日的課題１（数理・データサイエンスの基本).	現在の社会環境における情報内容とその取扱いを習得し、基礎的情報処理や今日の情報活用の基本的な事柄を説明できる。	
8	資料作成と文献検索／情報活用のまとめ	資料作成. 各種文献検索サービス. 情報活用の今日的課題２ (AI サービスほか).	資料作成時の注意事項や各種文献検索サービスの必要性を理解し説明できる。今日の情報活用の利便性と危険性を説明できる。	

評価方法	筆記試験(60%)、レポート等(40%)で評価する。
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成教材
参考図書	各回の授業に先だって指示をする。
学習の準備	事前に配布した資料のある場合は予習をしておくこと 情報に関連したニュースの指定がある場合は事前にあらましを押さえておくことが望ましい。(計 4 時間)

オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：50。その他は、随時対応する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	心理学	担当教員	山田　仁子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開　講　専　攻	分　野	種　別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	①、②、③					

科　目　概　要	心理学の各領域の基本的な知見を広く取り上げ、心理学的に考える視点を提供する。また、心理学に基づいた対人場面での概念についてディスカッションやロールプレイを用いて、体験的に理解を深める。
学　習　目　標	心理学の基本を理解し、教養としてだけでなく、日常生活や職業場面において心理学的に説明したり考察できるようになる。

回	項　目	主　な　学　習　内　容	到　達　目　標	実務経験教員担当項　目
1	心理学の概要	心理学の歴史、研究法について概観する。	心理学の概要について理解する。研究法について知る。	
2	心理学的アセスメント	心理学的アセスメントの歴史と発展、心理学的測定の考え方、操作的定義と心理学的測定、信頼性と妥当性、各種アセスメントについて学ぶ。	心理学的アセスメントの基礎を理解する。	
3	感覚・知覚	感覚・知覚についての仕組みを学習する。錯覚・錯視について実例を見ながら学ぶ。	感覚・知覚についての基礎を理解する。	
4	学習と行動	生得的行動と習得的行動、本能と反射などの学習の基礎を学ぶ。学習される行動としてレスポンデント条件付けとオペラント条件付けについて学ぶ。	学習についての基礎を理解する。	
5	記憶	記憶の種類、プロセス、初頭効果と新近効果、記憶の錯覚について学ぶ。	記憶についての基礎を理解する。	
6	心の発達	発達心理学の歴史、新生児期、乳児期、幼児期、児童期、思春期青年期、成人期中年期、老年期、各時期における心理について学ぶ。発達検査について知る。	発達心理学の歴史、発達段階について理解する。	
7	思考・意思決定・行動選択	思考、意思決定、行動選択、認知バイアスなどについて学ぶ。	思考、意思決定、行動選択の基本を理解する。	
8	心理学の基礎的側面のまとめ	前半に学習した心理学の基本的な知見を振り返り、学びを深める。達成度をみるために中間試験を行う。	前半に学習したことの理解を深める。	
9	神経心理と高次脳機能	神経心理学の基礎、高次脳機能について学ぶ。WCST、BADS など高次脳機能の神経心理学的なアセスメントについて紹介する。	神経心理学の基本的を理解する。高次脳機能について学び、アセスメントについて知る。	
10	動物心理学から見るヒト	動物心理学の知見のうち、行動の遺伝学的研究、知能の発達とエピジェネティクス、脳の性分化などについて学ぶ。	動物心理学から見たヒトについて理解する。	
11	感情とパーソナリティ	感情、情動の諸学説について学ぶ。性格心理学の歴史、類型論と特性論、ビッグファイブ、病理的な性格特性について学ぶ。	感情とパーソナリティについて心理学的に理解する。	
12	動機づけ	欲求の分類、マズローの欲求５段階説を学ぶ。内発的動機付け、外発的動機付け、動因低減説、自己決定感などについて学ぶ。	欲求と動機付けの基本を理解する。	

13	聞くこと	聞くワーク：医療者としてのコミュニケーションにおいて重要な聞く姿勢についてロールプレイを交えながら体験的に学習する。	リハビリテーション臨床においても重要な、聞く態度について学ぶ。ロールプレイを通して体験的な理解を深める。	
14	アサーション	アサーションの基本を学ぶ。アサーティブな態度が必要な臨床の場面を想定し、どのような表現をするかディスカッションを通して学ぶ。	アサーティブな態度、アサーティブな表現について基本を理解する。ディスカッションに主体的に参加する。	
15	産業・組織の心理	メンタルヘルスリテラシー、医療者のメンタルヘルス、心理的安全性、アンガーマネジメントについて学ぶ。	メンタルヘルスリテラシーについて理解する。産業メンタルヘルスを知る。	

評価方法	中間試験 40%　期末試験 40%　授業参画度 20%（小テストまたはレポート、ディスカッションなどの参加、応答などで評価する）
課題に対するフィードバック	講義の終わりに質疑応答の時間を設ける。
教科図書	特定の教科書は用いない。資料は適宜配布する。
参考図書	講義時に随時紹介する。
学習の準備	シラバスに沿って事前学習を 2 時間以上行い、概要を知り疑問点をみつけ、受講時の主体的な学習につなげる。事後学習は 2 時間以上、受講内容を整理し学習を深める。講義の前後で合計 4 時間以上の学習を行う。
オフィスアワー	木曜　10：40～12：10　その他はアポイントメントを取ってください
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	倫理学	担当教員	堀 雅彦 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AB	①、④					

科目概要	「正義は人それぞれ？」「人は愛なしには生きられない？」など、身近に接する人生の諸モンダイを取り上げながら、倫理学の基本的な考え方（問いの立て方）を学びます。学生の皆さんには随時、自分なりの考えを記してもらい、それを紹介しながら議論を深めます（口頭での発言の機会も設けますが、発言を強いることはないので、話すのが苦手な人も恐れることはありません）。
学習目標	①　高校の「倫理」とは明確に異なる「倫理学」という学問の基本的な意味を理解する。 ②　倫理学の基本的な問題を自分なりの言葉で理解し、自己の見解を自他に伝えることができるようになる。 ③　互いの意見にしっかりと耳を傾けることで、はじめて本当の意味で自分自身の考えを持つようになれるということを、実践を通して理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	倫理は人生の必修科目？	高校の「倫理」と大学の「倫理学」との違いなど	倫理学という学問の概要を知る。	
2	善と悪は、どう違う？	善と悪、それぞれの具体例などを、これまでの生活の中から拾い上げつつ、両者の違いを考える。	身近な問題として倫理を考える視点をもうける。	
3	正義は人それぞれ？	正義とはそもそも何か、「正義の味方」は本当に正義なのか、など。	正義がいくつあるにせよ、それが「みんなの問題」であることを理解する。	
4	人は愛なしには生きられない？	人はいつ・誰（何）を愛するのか、生きるために愛は本当に必要なのか、など。	愛について根本から問い直し、それが「よく生きること」と深い関係にあることを理解する。	
5	自由すぎるのは良くない？	自由とは一体何か、何が自由をもたらし、あるいは自由を阻むのか、など。	自由について根本から問い直し、それが「よく生きること」と深い関係にあることを理解する。	
6	生まれること／死ぬことに良し悪しはあるのか？	生まれてこないほうが良かった、と考える人たち、また、死ぬ権利を求める人たちの主張とはどのようなものか、また、それへの反論は可能か、など。	反出生主義や死ぬ権利など、昨今話題となる諸説の倫理的問題についての理解を深める。	
7	哲学対話をしてみよう	テーマは皆さんの希望から。	いわゆる「安楽死」問題も含めて、人の生き死に関わる選択に含まれる倫理学的な問題を理解する。	
8	まとめ	これまでの学習内容を振り返る。	この授業を受ける前と受けた後で、各人の中で何が変わったのか（あるいは、変わらなかったのか）を明らかにする。	

評価方法	平常点（各回の授業への参加度と、授業後に提出するコメントの内容を総合して評価）を 80%、 最終回の課題（各人による全体のまとめ）への回答内容を 20% として評価する。
課題に対するフィードバック	各回終了時に講義へのコメントを回収し、次回の講義にてフィードバックを行う。 また、質問は講義中、講義終了後とも、随時受け付ける。
教科図書	特に指定せず、自作の資料を使用する。また、ニュース映像やテレビドラマ等、視聴覚資料も一部使用する。
参考図書	平尾昌宏・著『ふだんづかいの倫理学』晶文社、2019 年 その他、授業の中で適宜、紹介する。
学習の準備	次の回で扱うことを予告した問題について、自分なりに気になる点や主張したい事柄をまとめておく。 （計 4 時間）

オフィスアワー	授業の前後、およびメール等、オンラインで相談、質問を受け付ける。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	社会調査法	担当教員	世古 俊明 小川 峻一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AB	④、⑥					

科目概要	計量社会学を展開していくのに必要な①社会学的な思考法、②社会調査の方法論、③統計学の知識を学び、研究テーマのみつけ方から仮説を確かめるための方法の吟味、そして実際の社会調査とデータ分析を通した結論の導き方のプロセスを教授する。
学習目標	社会調査（フィールドワーク）の理論と方法を学習し、質的調査というものの理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	社会調査の準備①	研究テーマのみつけ方について	研究上のルールとマナーおよび、テーマをみつける様々なきっかけについて理解する。	
2	社会調査の準備②	先行研究の探し方について	文献検索を経験する。	
3	社会調査法の実際①	社会調査の概要と公的データの閲覧	社会調査の概要と公的データの閲覧方法を理解する。	
4	社会調査法の実際②	社会調査課題の検討	興味のある公的データをまとめることができる。	
5	社会調査法の実際③	社会調査課題の検討	公的データに対する疑問を考え、疑問に対する先行研究論文を検索することができる。	
6	社会調査の準備③	データ分析の基礎について	統計手法の用途について理解する。	
7	社会調査法の実際④	社会調査課題の検討	先行研究論文の理解と批判的吟味を行い、社会調査課題を検討できる。	
8	社会調査法の実際⑤	社会調査課題のまとめ	社会調査課題をレポートにまとめることができる。	

評価方法	レポート（90%）、授業における応答・態度などの講義への関心度（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック）。 2 試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	教員作成資料
参考図書	講義中に適宜指示する
学習の準備	1（予習）事前資料を参考に社会調査方法に関する基礎知識について予習しておくこと（2時間） 2（復習）授業中に学んだ知識の整理および専門用語の意味等を理解しておくこと（2時間）
オフィスアワー	月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	生命科学概論	担当教員	曽我部 いづみ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AC	③、④、⑤					

科目概要	生命科学は人間を中心とした生物学であり、生命に関する学問分野である。人間が生きていく上で、必要な酸素や栄養の運搬、老廃物、二酸化炭素の回収を行う血液や、生命活動を行うために必要な筋肉の概要、また、活動するための骨格筋の筋収縮メカニズム、外来からの刺激を受け取る感覚器系のメカニズムについても学ぶ。
学習目標	① 血液について、機能や組成、それぞれの働き、また、血液凝固や生体防御反応のメカニズムを理解する。 ② 筋の概要、骨格筋については、詳細な構造と筋収縮のメカニズムもしっかり理解する。 ③ 感覚器系は、体性感覚とともに疎かになりやすい特殊感覚についてもそれぞれメカニズムを理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	血液（1）	血液の機能、組成（赤血球、白血球、血小板、血漿）	血液の機能と組成、それぞれ赤血球、白血球、血小板、血漿についても理解する。	
2	血液（2）	血液型、血液凝固のメカニズム	ABO 型血液型、Rh 式血液型を理解し、凝集、溶血の仕組みについて説明できる。また、血液凝固のメカニズムについても説明できる。	
3	血液（3）	身体の生体防御	生体防御の機構、それに関わる細胞や因子を理解する。アレルギーや拒絶反応についても説明できる。	
4	筋肉の基本構造と骨格筋	筋肉（骨格筋、心筋、平滑筋）の構造と機能、骨格筋の詳細な構造と筋収縮のメカニズム	筋肉の分類と理解。骨格筋の詳細な構造と筋収縮のメカニズム、また神経支配についても理解する。	
5	骨格筋（2）	骨格筋の収縮の仕方、筋肉の長さと張力の関係、線維による種類、骨格筋の感覚器	等尺性・等張性収縮の理解、筋肉の長さと張力の関係、骨格筋の感覚器（筋紡錘）の理解	
6	感覚	感覚とは何か、適刺激と閾値、Weber の法則、感覚の順応。体性感覚と内臓感覚	感覚に関して、適刺激と閾値、Weber の法則、順応について説明できる。また、体性感覚や内臓感覚を分類しそれぞれの特徴を知る。	
7	特殊感覚（1）	味覚、嗅覚、聴覚、平衡覚について受容器、大脳皮質に伝わるまでの神経路とメカニズム	特殊感覚（味・嗅・聴・平衡覚）について適刺激や受容器、神経路について理解する。	
8	特殊感覚（2）	視覚：眼の構造、光の受容機序、視野と両眼視、遠近調節	目の構造を理解し、光受容機序を理解する。明暗反応や、視野、遠近調節についても理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	毎回、授業時に確認テストを配布します。その日のうちに自分で行い、フィードバックさせて下さい。講義資料をみてもわからない場合は、調べるか、メールにて質問して下さい。対応します。
教科図書	奈良勲、他・監『標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）生理学第５版』医学書院、2018 年 貴邑富久子、根来秀雄、共著『シンプル生理学　改訂第８版』南江堂、2021 年
参考図書	まずは、しっかり教科書を読んでみて下さい。図書館にはわかりやすい解剖・生理の DVD もあります。
学習の準備	1　可能な場合は、事前に該当する教科書の内容に目を通しましょう（2 時間）。 2　講義後は、配布した資料を自分なりに（図を描いてみる等）まとめましょう（2 時間）。

オフィスアワー	月、火、金の昼休み（12 時～13 時 30 分）。その他、在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	自然科学概論	担当教員	限元 庸夫 久保 勝幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13C	③、④、⑤					

科目概要	医療・健康科学・リハビリテーションを学ぶ上で、自然科学の知識や考え方は必須のものである。本講義では、医療人としてこれからの時代を担うために必要な自然科学の知識、特に物理学・生物学・化学と人体の構造・機能・運動との関係を広く概観する。高等学校で未履修の学生が理解出来るよう、基礎的な事項から学習していく。本講義を通して、生理学・運動学等の専門基礎分野を学ぶ上で必要な基本的自然科学の事項を理解し、説明できる能力を養う。
学習目標	① 我々を取り巻く自然環境や物理現象、さらに生体の神秘を理解する。 ② 自然科学の知識、物理学・生物学・化学と人体の構造・機能・運動との関係を広く理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	リハビリテーションと自然科学	リハビリテーションを学ぶ上で必要となる自然科学について。	リハビリテーションを学ぶ上で必要となる自然科学を簡単に概説できる。	
2	単位、量の見極めと力の関係	単位とは. 物を測る. 有効数字と誤差。接頭語とベクトルとスカラー. 方向性を持つ力関係.	有効数字と誤差を説明し、方向性を持つ量と持たない量について説明ができる。	
3	物体の運動と人体の運動	重力と落下運動. ニュートンの運動の法則. エネルギーの保存.	物体の運動と人の運動の関連性を理解し、簡単な解析ができる。	
4	固体と液体と気体	固体と骨の物性. 液体と血圧計. 気体と呼吸.	固体､液体､気体の特徴を理解し、これに関連する血圧計や呼吸機能評価などの具体例を説明できる。	
5	音と超音波	音の伝達と補聴器. 超音波と超音波療法.	音の発生と伝達､超音波の原理を理解し､超音波治療の理論を説明できる。	
6	熱と光	熱力学. 温度とは. 熱伝導･対流･放射. 生体と熱. 光の性質と光線療法.	環境情報の基である熱や光の物性を理解し、それらによる応用分野の説明ができる。	
7	生体現象と電気現象	電流と電圧. 表面筋電図.	ヒトの生体現象の一つである筋活動を電気現象からとらえる表面筋電図の理論が説明できる。	
8	代謝と消化、	三大栄養素と代謝	三大栄養素の特性、ヒトのエネルギー供給過程が説明できる。	

評価方法	筆記試験（70%)、レポートなど（30%）で評価する。
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	教員作成教材
参考図書	各回の授業に先だって指示をする。
学習の準備	1 （予習）主な学習内容・到達目標を読み、用語を調べておくこと（2時間)。 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2時間)。

オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	統計学	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13A	③、④

科目概要	様々な資料やデータを整理し、検定や推定を用いて分析を行い、結論を得ることは統計学の重要な役割です。自然科学や社会科学など他の学問領域でも多く活用されており、データを扱う学問を修める者には必要性の高い学問です。本講義は、多々ある統計的手法のなかでも、特に見聞きする機会が多く、さらに使用頻度の高い基本的な知識と手法について学習し、データ分析の具体的手法を学ぶ。
学習目標	① 統計に関わる用語とその内容を理解する。 ② 「得られたデータが如何なる意味をもつものか？」を客観的に解釈する。 ③ 簡単な統計手法を習得する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	統計学の基本概念	統計学の必要性	統計学の必要性、特に生体情報処理に係わる必要性を理解する。	
2	統計学の機能	統計学の二つの機能	情報の基本構造を明らかにできる（解析できる)。 少数の情報から全体を推し量る（検定と推定）ことができる。	
3	基本統計量１	主要な基本統計量	主要な基本統計量の意味を説明することができる。	
4	基本統計量２	主要な基本統計量の表現	ヒストグラム、平均値グラフ，クロス集計表を作成することができる。分散や標準偏差を求めることができる。	
5	検定１	有意性検定	有意性検定の意味を説明できる。測定尺度、対応あり／なし、パラメトリック／ノン・パラメトリック、正規性と等分散性を説明できる。	
6	検定２	2 群間の差の有意性検定	2 群間比較における、有意性検定の種類を説明できる。統計学的有意差と効果の大きさ、臨床的有意差の違いを理解できる。	
7	推定	相関と回帰	相関係数、種々の回帰式の意味を説明できる。	
8	統計結果の解釈	主要な研究結果の解釈	論文に記載されている結果の解釈ができる。	

評価方法	課題（20%）＋筆記試験（80%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成資料
参考図書	講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)

オフィスアワー	毎週月曜日 15：00～16：30。その他の時間は、随時対応する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	生物学	担当教員	曾我部 いづみ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AC	③、④、⑤

科目概要	精神疾患や発達障害、また運動器の障害を扱うセラピストになる上で、基本となる生命（人体）の基本構造とはたらきについて、神経系を中心に学習する。
学習目標	将来の自分を見据えて、中枢神経系の構造と機能、末梢への興奮伝達や反射のメカニズムについてもきちんと理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	生命現象と人体	細胞、組織、器官、器官系の関係性。生命維持のメカニズム、人体構成要要素、ホメオスタシス	細胞、組織、器官、器官系の関係の理解。生命維持のメカニズムや、人体の構成要素（水の役割や細胞外・細胞内液の構成イオン）の理解	
2	生命の基本単位、細胞の内部構造と機能	細胞の内部構造とはたらき	生体を構成する細胞について、細胞膜、核、そして細胞小器官の構造とはたらきを理解する。	
3	静止膜電位と活動電位、神経の興奮伝導	静止膜電位、神経の構造と興奮の伝導	静止膜電位、活動電位のメカニズムを説明できる。神経の構造、また興奮の伝導についても理解する。	
4	自律神経とシナプスにおける興奮伝導	自律神経系（交感神経・副交感神経）と内臓機能の調整。シナプスにおける興奮伝導	自律神経系の理解、シナプス（神経、骨格筋）における興奮伝導のメカニズムを説明できる。	
5	中枢神経系	中枢神経系（脳・脊髄）の発生、構造と中枢神経系を保護するメカニズム	脳と脊髄がどのように分化して中枢神経系ができたか、またその構造と保護するメカニズムを理解する。	
6	脊髄反射	脊髄反射（体性神経反射・自律神経反射）のメカニズム	脊髄反射のうち、伸張反射・相反抑制、屈曲反射と交叉性伸展反射を図解し、説明できる。	
7	中枢神経系の高次機能	大脳皮質の一般構造と大脳皮質の活動レベル、覚醒と睡眠	大脳皮質の一般構造を理解し、覚醒と睡眠状態を脳波で説明できる。	
8	小脳	小脳皮質の一般構造と小脳の機能、脳の高次機能である学習や記憶	小脳皮質の一般構造を理解し、小脳の機能、学習、記憶に関して整理し、さらに、陳述記憶の回路やパペッツ回路を説明できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	毎回、授業時に確認テストを配布します。その日のうちに自分で行い、フィードバックさせて下さい。講義資料をみてもわからない場合は、調べるか、メールにて質問して下さい。対応します。
教科図書	奈良勲、他・監『標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）生理学第５版』医学書院、2018 年 貴邑富久子、根来秀雄・共著『シンプル生理学　改訂第８版』南江堂、2021 年
参考図書	現代は、インターネットがずいぶん発達し何でも調べられます。気になることは調べましょう！
学習の準備	1　可能な場合は、事前に該当する教科書の内容に目を通しましょう（2 時間）。 2　講義後は、配布した資料を自分なりに（図を描いてみる等）まとめましょう（2 時間）。

オフィスアワー	月、火、金の昼休み（12 時～13 時 30 分）。その他、在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	基礎英語	担当教員	大田原 裕紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13A	②、⑤					

科目概要	コミュニケーションは、様々な形で行われる。「基礎英語」では、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を関連付けて、英語の基礎的な力をバランスよく鍛えながら、PT・OTの各専門分野の学習の上で習得しておくべき基礎的専門用語の拡充と定着を図る。将来臨床現場で働くことを意識づけながら、学生が英語の主体的な学習方法に習熟し、将来英語の文献を読む際に活用するための土台を築くことを目指す。また、専門性を磨き続け、信頼されるPT・OTになるために、自律した学習者を育成することを目指す。
学習目標	① リハビリテーションに関する英語の基礎語彙力を築き、説明文を主体的に学ぶ方法に習熟する。 ② 英語の4技能において、基礎的な力をバランスよく身に付ける。 ③ 課題や目標達成に向け、自律と協同の学習を遂行できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	講義の目的、見通し、ルールと成績評価方法、目標、グーグルクラスルーム、「Health」unit 導入	講義の見通しを持つことができる	
2	Introduction-1	What is it to be Healthy?: Essay & Worksheet	「健康」という概念を捉えることができる	
3	Introduction-2	Exercise for Everyone: Essay & Worksheet	「運動の重要性」を捉えることができる	
4	Introduction-3	Overview of the Body: Essay & Worksheet	「身体の常識」を捉えることができる	
5	Mini review quiz 1 Chapter I-1	Review of key points so far History of Rehabilitation: Essay & Worksheet	単元の重要ポイントを整理することができる 「リハビリテーションの歴史」を捉える	
6	Chapter I-1(cont'd) Chapter I-2	History of Rehabilitation: Essay & Worksheet Physical Therapy & Physical Therapist: Essay & Worksheet, Video	「リハビリテーションの歴史」を捉える 理学療法と理学療法士の重要な役割を捉えることができる	
7	Chapter I-2 (cont'd) Chapter I-3	Physical Therapy & PT: Essay & Worksheet, Video Occupational Therapy & Occupational Therapist: Essay & Worksheet, Video	理学療法と理学療法士の重要な役割を捉える 作業療法と作業療法士の重要な役割を捉える 「チーム医療」について理解を深めることができる	
8	Chapter I-3(cont'd) Mini review quiz 2	Occupational Therapy & OT: Essay & Worksheet, Video Review of key points so far	作業療法と作業療法士の重要な役割を捉える 単元の重要ポイントを整理することができる	
9	Chapter II-1	Planes & Directions: TPR, Video, Worksheet	「断面と方向」の概念を捉えることができる	
10	Chapter II-2	Range of Motion (ROM): TPR, Video, Worksheet	「関節可動域」の概念を捉えることができる	
11	Chapter II-3 Chapter III-1	Major joints, Regions of the Body & Positions The Skeletal System: Human skeleton, Vertebral column: Essay & Worksheet,	主要関節と部位を捉えることができる	
12	Chapter III-1 (cont'd) Mini review quiz 3	The Skeletal System: Human skeleton, Vertebral column: Essay & Worksheet, Drawing, Video Review of key points so far	人体の構造の「骨格系」について捉えることができる 単元の重要ポイントを整理することができる	

13	Chapter III-2 Take-home Quiz Intro. to project	Types of Bones: Essay & Worksheet, Info-gap activity, Video, Drawing Pair work: Role play skit	「骨」のタイプと働きについて捉える ペアでロールプレイスキットに着手する	
14	Review: #13 class Final Exam info. Prep for the Final Project	Confirm key points of Bones and Joints Explanation on the Final Exam, Q & A Role play preparation: First-time meeting of a PT & a Patient	骨の形状による分類と、関節の種類を捉える 見通しを持って期末試験に取り組む 学んだことを生かして、PT/OT と患者の初回面接のロールプレイの準備をする	
15	Final Presentation Wrap-up	Role play performance: First-time meeting of a PT & a Patient Wrap-up the class, Q&A, Questionnaire	協力して、自然な流れでロールプレイをする 他のチームから学び合う 今学期の学習を振り返る	

評価方法	授業への積極的参加と課題への取り組み (30%)、ミニ復習テスト・期末試験・ファイナルプロジェクト (60%), & B5 ノート・ポートフォリオ (10%)
課題に対するフィードバック	1　2～3 トピック終了毎に「ミニ復習テスト」を行う。次回講義で解説する（フィードバック）。 2　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3　適宜 Google classroom も活用する。
教科図書	清水雅子、他・著『リハビリテーションの基礎英語 第 3 版』 メジカルビュー社、2017 年 配布資料
参考図書	適宜、授業内で連絡する
学習の準備	予習・授業・復習のよいリズムを確立するようにしよう 1　事前に教科書・資料の該当箇所に目を通す。(2 時間) 2　事後に授業内に配布した資料を見直し、ノートを整理し、講義のポイントを復習する。(2 時間)
オフィスアワー	月曜日　14 時～15 時半 その他、在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	担当教員	鈴木 大輔 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	前期	3単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AC	③、④

科目概要	基本的な運動機能や日常生活活動の改善を図るリハビリテーション専門職として、人体の形態的特徴や構造（解剖）、及びその機能や仕組み（生理）を理解することは必須である。特に人体の筋・骨関節に関する構造や機能の知識は、身体運動の帰結を解明する思考過程において、人体の構造と機能を関連づける最も基本となる学問である。本科目では、身体各部の主要な骨、関節、骨格筋について、一般的な構造と機能を理解することを目的として学習する。
学習目標	①　骨形態と関節・筋付着部の関連性を理解する。 ②　関節と運動の関連性を理解する。 ③　筋の起始・停止を覚え、筋の働きを理解する。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	Ⅰ：骨学	（1）骨学総論：骨の発生と成長・骨の構造	骨の発生と成長・骨の構造を理解する。	
2	Ⅰ：骨学	（1）骨学各論：頭骨（頭蓋骨）	頭部を構成する骨を覚える。 頭蓋や顔面の構成を理解する。	
3	Ⅰ：骨学	（2）骨学各論：頭骨（顔面骨）	頭部を構成する骨を覚える。 頭蓋や顔面の構成を理解する。	
4	Ⅰ：骨学	（3）骨学各論：椎骨と肋骨①	頚椎・胸椎の名称を覚える。 椎骨の基本形・各椎骨の特徴を理解する。	
5	Ⅰ：骨学	（4）骨学各論：椎骨と肋骨②	腰椎・仙骨・尾骨・肋骨・胸骨の名称を覚える。 仙椎、尾椎の癒合と胸郭の構成を理解する。	
6	Ⅰ：骨学	（5）骨学各論：上肢帯を構成する骨	上肢帯を構成する骨の骨形態を理解する。	
7	Ⅰ：骨学	（6）骨学各論：上肢を構成する骨	上肢を構成する骨の骨形態を理解する。	
8	Ⅰ：骨学	（7）骨学各論：下肢帯を構成する骨	下肢帯骨、自由下肢骨の名称を覚える。 骨の形態と運動の関連を理解する。	
9	Ⅰ：骨学	（8）骨学各論：下肢（股関節、膝関節）を構成する骨	下肢帯骨、自由下肢骨の名称を覚える。 骨の形態と運動の関連を理解する。	
10	Ⅰ：骨学	（9）骨学各論：下肢（足）を構成する骨	足を構成する骨の名称を覚える。 足アーチを理解する。	
11	Ⅰ：骨学	（10）骨学各論：骨学スケッチ（頭骨・椎骨）	骨のスケッチをすることによって、骨の三次元的な構造を理解する。	
12	Ⅰ：骨学	（11）骨学各論：骨学スケッチ（四肢骨）	骨のスケッチをすることによって、骨の三次元的な構造を理解する。	
13	Ⅱ：筋学	（1）筋学総論：筋の機能	一般的な筋の構造、働きを覚える。	
14	Ⅱ：筋学	（1）筋学各論：体軸筋（頭頚部の筋）	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	

15	II：筋学	(2) 筋学各論：体軸筋（固有背筋）	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
16	II：筋学	(3) 筋学各論：体軸筋（胸筋群、腹筋群）	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
17	II：筋学	(4) 筋学各論：上肢帯、上肢の筋 I	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
18	II：筋学	(5) 筋学各論：上肢帯、上肢の筋 II	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
19	II：筋学	(6) 筋学各論：下肢帯，下肢の筋 I	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
20	II：筋学	(7) 筋学各論：下肢帯，下肢の筋 II	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
21	II：筋学	(8) 筋学各論：下肢帯，下肢の筋 III	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	
22	II：筋学	(9) 筋学各論：スケッチ	筋・骨のスケッチをすることによって、筋・骨の三次元的な構造を理解する。	
23	II：筋学	(10) 筋学各論：スケッチ	筋・骨のスケッチをすることによって、筋・骨の三次元的な構造を理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	ここでの課題は，「授業内容の理解」とします. それに対して①－④のフィードバックを行います ① 授業後の確認テスト ② 次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③ 個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④ 期末テスト
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年
参考図書	なし
学習の準備	予習はしなくてもいいですが、復習は必ず行って下さい 講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする(計 4 時間)
オフィスアワー	月曜日 13 時-17 時半，水曜日 13 時-17 時半 その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学Ⅰ（神経系）	担当教員	鈴木 大輔 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AC	③、④					

科目概要	人体の構造（解剖）と機能（生理）を関連付けること。脳と脳から分岐する脳神経系について構造と機能を学習する。また神経組織を構成する細胞間の連絡、神経細胞およびグリア細胞がどのように機能するかを学習する。
学習目標	末梢神経系および中枢神経系の構造と働きを理解する。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	Ⅰ：末梢神経	（1）脳神経：I-IV	脳神経の名称と働きを覚える。	
2	Ⅰ：末梢神経	（2）脳神経：V-VIII	脳神経の名称と働きを覚える。	
3	Ⅰ：末梢神経	（3）脳神経：IX-XII	脳神経の名称と働きを覚える。	
4	Ⅰ：末梢神経	（1）脊髄神経：一般構造、頚神経叢	脊髄神経の構成および一般的名称を覚える。 頚部を支配する神経の働きを覚える。	
5	Ⅰ：末梢神経	（2）脊髄神経：腕神経叢、肋間神経	上肢帯・上肢を支配する神経の働きを覚える。 体幹を支配する神経の働きを覚える。	
6	Ⅰ：末梢神経	（3）脊髄神経：腰神経叢、仙骨神経叢	下肢帯・下肢を支配する神経の働きを覚える。	
7	Ⅰ：末梢神経	（4）脊髄神経：デルマトーム、自律神経系	デルマトームを理解する。 自律神経の働きを理解する。	
8	Ⅱ：中枢神経	（1）総論：脳周囲の構造	脳の一般的理解 脳脊髄液の働きを覚える。 血液脳関門の働きを覚える。	
9	Ⅱ：中枢神経	（2）総論：脳血管	脳血管の名称と走行を覚える。 クモ膜下出血について理解する。 脳内出血の好発部位を覚える。	
10	Ⅱ：中枢神経	（1）各論：脳幹	脳幹の構造と働きを理解する。	
11	Ⅱ：中枢神経	（2）各論：間脳	間脳の構造と働きを理解する。	
12	Ⅱ：中枢神経	（3）各論：小脳	小脳の構造と働きを理解する。 関連疾患を学ぶ。	
13	Ⅱ：中枢神経	（4）各論：大脳基底核	大脳基底核の構造と働きを理解する。 関連疾患を学ぶ。	
14	Ⅱ：中枢神経	（5）大脳皮質の一般的構造	大脳皮質の構造を理解する。 ブロードマンの脳地図を覚える。	

15	II：中枢神経	（6）脳の働きについてのまとめ	脳の働きをまとめる。 脳の機能やつながりを学ぶ。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	ここでの課題は,「授業内容の理解」とします. それに対して①ー④のフィードバックを行います ①　授業後の確認テスト ②　次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③　個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④　期末テスト
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学　構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年
参考図書	なし
学習の準備	予習はしなくてもいいですが、復習は必ず行って下さい 講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする(計 4 時間)
オフィスアワー	月曜日 13 時-17 時半，水曜日 13 時-17 時半 その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	リハビリテーション概論	担当教員	伊藤 俊一 ※は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13CD	①、②、③、④、⑤、⑥

科目概要	リハビリテーションの歴史、基本概念、基本理念を理解し、リハビリテーションに関わる医療者によるチーム医療を理解する。また、廃用症候群や介護予防を理解し、その予防法に関して理解する。
学習目標	① リハビリテーションの概念および理念を説明できる。 ② 廃用症候群とその具体的予防法を説明できる。 ③ 介護予防とその具体的方法を説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	リハビリテーションとは 保健･医療･福祉の連携. 医療連携とチーム医療.	リハビリテーション医学、保健･福祉との連携、他職種間医療連携とチーム医療を理解する。	
2	障害受容 介護予防	障害受容と介護予防、障害受容と自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム	障害受容と介護予防、自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムなどの各種リハビリテーションシステム関して理解する。	
3	廃用症候. 1	医療者と障碍者との関り リスク管理	医療者と障碍者との関りと各種疾患でのリスク管理に関して理解する。	
4	廃用症候. 2	関節拘縮と関節可動域（ROM）制限	廃用症候群による関節拘縮と関節可動域制限の成因とその予防を理解する。	
5	廃用症候. 3	筋力低下と筋萎縮	廃用症候群による筋力低下、筋萎縮の成因とその予防を理解する。	
6	廃用症候. 4	運動器疾患	関節可動域制限および筋力低下による運動器疾患の成因とその予防を理解する。	
7	廃用症候. 5	褥瘡	廃用症候群による褥瘡の成因とその予防を理解する。	
8	障害予防と健康増進.	各種障害の予防と健康増進	リスク管理、障害予防	

評価方法	講義時間内の課題提出 5 回×5 点（25 点）、筆記試験 75 点
課題に対するフィードバック	講義中および講義終了後、質問を受け付けて回答する。 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	特に指定しない（資料配布）
参考図書	椿原彰夫・著『リハビリテーション総論 改訂 3 版』診断と治療社、2017 年 柳澤信夫・監、小松康喜・編『見て知るリハビリテーション医学』丸善出版、2016 年
学習の準備	特に予習の必要はないが復習は必須となるので、講義で理解が不十分である箇所を明確にして、次の講義で解決できるように質問等の準備をすること（計 4 時間）
オフィスアワー	毎週火曜日～金曜日　8：30～17：00

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	理学療法概論	担当教員	小林 巧 森野 陽 世古 俊明 小川 峻一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR11AB	①、⑤

科目概要	1年次に理学療法を概観し、理学療法の定義、歴史、評価－治療体系、対象、主な背景理論、主な治療手段、理学療法教育の変遷などについて学習する。特に、綿密な評価を通じて抽出された問題点に対する理学療法の適応とその実際の方法を理解する。さらに医学的リハビリテーションにおける位置づけ、さらには治療（身体医学）としての理学療法の役割について理解する。
学習目標	① 理学療法の定義、歴史、理論を理解する。 ② 理学療法士に求められる適性と資質について理解する。 ③ 理学療法の対象と業務について理解する。 ④ 理学療法の教育ならびに学術活動について理解する。 ⑤ 理学療法の現今の課題と展望について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	ガイダンス 理学療法の定義と業務、歴史	理学療法の定義を説明することができる。 理学療法の歴史と成り立ちを理解する。	
2	理学療法の関係法規	理学療法士及び作業療法士法とその関連法案	理学療法士及び作業療法士法およびその関連法案について理解する。	
3	理学療法の対象と業務	理学療法の対象、評価、治療手段 理学療法士の業務、評価と治療経過、治療	理学療法の対象と業務について理解する。	
4	理学療法士の職能と学術活動	理学療法士の職能と学術活動	理学療法士が社会に対して果たすべき役割と研究活動の必要性について理解する。	
5	理学療法の実際①	神経系理学療法の適応と実際、展望と課題	神経系理学療法の適応と実際の進め方、将来展望について理解する。	
6	理学療法の実際②	内部系理学療法の適応と実際、展望と課題	内部系理学療法の適応と実際の進め方、将来展望について理解する。	
7	理学療法の実際③	EBM と理学療法研究の展望と課題	EBM と理学療法研究の実際の進め方、将来展望について理解する。	
8	理学療法の実際④	運動器理学療法の適応と実際、展望と課題	運動器理学療法の適応と実際の進め方、将来展望について理解する。	

評価方法	講義に対する姿勢（20%）、筆記試験（80%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	特に指定しない。毎回資料を配布する。
参考図書	大橋ゆかり・編『基礎理学療法学』医歯薬出版株式会社、2017 年 細田多穂・監『理学療法概論テキスト　改訂第 3 版』南江堂、2017 年
学習の準備	1（予習）リハビリテーションに関する基礎知識について予習しておくこと（2 時間） 2（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）

オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床見学セミナー（理学療法）	担当教員	限元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR11A	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	本セミナーでは、職業人としての規律やルール、マナー、対象者とのコミュニケーションのとり方について、グループワークを通じて学習する。理学療法士を目指すものとして必要な豊かな人間性や人を思いやる心を理解し、臨床見学実習にふさわしい人間性を育む。
学習目標	① 臨床見学実習で求められる課題とルールを理解する。 ② 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解する。 ③ 理学療法士に必要な人間性を理解する。 ④ 実習で体験した内容を報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス	臨床見学実習の概要	臨床見学実習の概要を理解する。	担当教員全員
2	実習の心構え 1	知り得た情報の管理方法、記録とレポート作成方法	知り得た情報の管理方法を理解する。 実習記録とレポートの作成方法を理解する。	担当教員全員
3	実習の心構え 2	コミュニケーション	指導者やスタッフ、患者および利用者とのコミュニケーションの取り方を理解する。	担当教員全員
4	実習の心構え 3	職業人としての常識的行動・態度	職業人としての常識的行動や態度を理解する。	担当教員全員
5	実習の心構え 4	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談の方法を理解する。	担当教員全員
6	実習の心構え 5	事前準備	事前準備の重要性について理解する。	担当教員全員
7	実習の心構え 6	調査学習 1	調査方法を理解する。	担当教員全員
8	実習の心構え 7	調査学習 2	調査内容をまとめて、報告ができる。	担当教員全員
9	演習 1	実習施設の概要や役割の報告	実習施設の概要や役割および体験内容を報告する。	担当教員全員
10	演習 2	〃	〃	担当教員全員

11	演習 3	〃	〃	担当教員全員
12	演習 4	〃	〃	担当教員全員
13	演習 5	〃	〃	担当教員全員
14	演習 6	〃	〃	担当教員全員
15	演習 7	〃	〃	担当教員全員

評価方法	報告書（70%）、学習への取り組み（30%）
課題に対するフィードバック	実習報告会を通してフィードバックする。
教科図書	指定しない。
参考図書	なし
学習の準備	臨床見学実習に向けて、これまで学習した内容をできる限り復習すること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床見学実習に向け、職業人としての規律やルール、マナー、対象者とのコミュニケーションのとり方等について実践的な指導をする。

科目名	臨床見学実習（理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	実習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR11F	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床見学実習では、臨床実習指導者のもと、臨床現場における理学療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との適切なコミュニケーションを図り、病院・施設（訪問リハ・通所リハを含む）の概要、理学療法実践過程について体験を通して理解する。
学習目標	①　職業人としての常識的態度や責任ある行動をとる。 ②　対象者や家族、関連職種と望ましい人間関係を持つ。 ③　意欲的に取り組む姿勢を持つ。 ④　必要事項を記録・報告する。 ⑤　施設の概要を理解する。 ⑥　理学療法の実践過程を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習1	実習施設における実習（第１日）	上記学習目標①～⑥	臨床実習指導者
2	臨床実習2	実習施設における実習（第２日）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習3	実習施設における実習（第３日）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習4	実習施設における実習（第４日）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習5	実習施設における実習（第５日）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床見学実習評価表、実習報告会の内容を総合して判定する。
課題に対するフィードバック	実習報告会を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。

学習の準備	1　臨床見学実習に臨むにあたって、これまでの学習内容をできる限り理解しておくこと 2　実習後は、実習で学んだことを整理しておくこと
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	病院・施設において、臨床実習担当の指導・監督の下、理学療法の実務を見学・体験させる。

科目名	作業療法概論	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR12ABE	①、②、③

科目概要	作業療法は、その対象、領域、手段が多岐にわたるが、全てに共通していることは、対象者の意味のある作業の獲得によって、人類の福祉に貢献することを目的としている点である。意味のある作業は対象者個人により異なり、対象者の生活史を把握するためには豊かな人間性が必要となってくる。本科目では、作業療法の評価や治療のプロセスや各領域のアウトラインを理解し、社会に奉仕し得る作業療法を学ぶ学生としての使命感の自覚を促す。
学習目標	① 作業療法士としての資質と適性について理解する。 ② 作業療法の定義、歴史、理論を理解する。 ③ 作業療法の実践過程、領域、病期を理解する。 ④ 現在の作業療法の課題を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 日本の医療制度とリハビリテーション	日本の医療制度と作業療法の変遷	日本の医療制度の概要を理解する。 医療の中での作業療法の役割を知る。	
2	社会構造と作業療法	日本の社会構造と作業療法との関連	国際比較の中で日本の社会構造の特徴を知る。社会構造と作業療法の接点を知る。	
3	障がい者の生活と自立	障がい者の生活実態を学び自立について考察する。	障がい者の生活実態を知る。 障がい者に対する作業療法の果たすべき役割について知る。	
4	作業療法の理論 1	作業療法の学問的基礎	作業療法士の学問的基盤について理解する。	
5	作業療法の理論 2	作業療法の歴史と様々な理論体系	作業療法の理論についてその歴史との関連から理解する。	
6	作業療法における評価の基礎 1	ヒトに関する評価の基礎	身体機能や精神機能の評価の概要について知る。評価を行う際の作業療法士の役割と責任について知る。	
7	作業療法における評価の基礎 2	ヒトに関する評価の基礎	実際に評価を実施してその解釈方法や測定の意義について学ぶ。	
8	作業療法の実際	様々な疾患に対する作業療法の現状と今後の課題	作業療法の現状と今後の課題を理解する。	

評価方法	レポート（40%）＋筆記試験（60%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	石川朗・種村留美，編集．15 レクチャー作業療法テキスト「作業療法概論」　中山書店 2023 年
参考図書	講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)

オフィスアワー	毎週火曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	担当教員	佐藤 拓也※ 久保 勝幸※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR12AE	①、②、③、④、⑤、⑥

科目概要	臨床見学実習に向けて、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について、講義とグループワークによって理解する。実習記録、レポートなどの課題の提出方法、知り得た情報やそのデータの管理方法についても理解する。また、作業療法士を目指す人として必要な豊かな人間性や人を思いやる心についての基礎を理解し、臨床見学実習にふさわしい人間性を育む。
学習目標	① 臨床見学実習で求められる課題とルールを理解する。 ② 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解する。 ③ 作業療法士に必要な人間性を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス	臨床見学実習の概要	臨床見学実習の概要を理解する。	佐藤
2	実習の心構え 1	職業人としての常識的行動・態度	職業人としての常識的行動や態度を理解する。	佐藤
3	実習の心構え 2	コミュニケーション	指導者やスタッフ、患者や利用者とのコミュニケーションを理解する。	佐藤
4	実習の心構え 3	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談の方法を理解する。	佐藤
5	実習の心構え 4	知り得た情報の管理方法	知り得た情報の管理方法を理解する。	佐藤
6	実習の心構え 5	実習記録、レポート 1	実習記録とレポートの作成方法を理解する。	佐藤
7	実習の心構え 6	実習記録、レポート 2	実習記録とレポートの作成方法を理解する。	佐藤
8	演習 1	実習施設の概要や役割	実習施設の概要や役割をまとめる。	担当教員全員
9	演習 2	〃	〃	担当教員全員
10	演習 3	〃	〃	担当教員全員
11	演習 4	〃	〃	担当教員全員
12	演習 5	〃	〃	担当教員全員
13	演習 6	実習施設の概要や役割の報告	実習施設の概要や役割を報告する。	担当教員全員

14	演習 7	〃	〃	担当教員 全員
15	演習 8	〃	〃	担当教員 全員

評価方法	レポート（70%）、発表内容（30%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	予習：作業療法概論で学習した内容を復習すること。(30 分) 復習：講義内容の理解を深めること。また、発表者の内容と各自の理解内容を比較しながら整理すること。(30 分)
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員は民間病院での実務経験を有しており、その経験を基に、臨床見学実習に向け、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をすることが出来る。

科目名	臨床見学実習Ⅰ（作業療法）	担当教員	佐藤 拓也※ 久保 勝幸※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	1年次	前期	1単位	実習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR12F	①、②、③、④、⑤、⑥、					

科目概要	臨床見学実習Ⅰでは、臨床実習指導者のもと、臨床現場（医療機関，福祉施設など）における作業療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との適切なコミュニケーションを図り、病院・施設の概要、作業療法実践過程について体験を通して理解する。
学習目標	① 職業人としての常識的態度や責任ある行動をとる。 ② 対象者や家族、関連職種と望ましい人間関係を持つ。 ③ 意欲的に取り組む姿勢を持つ。 ④ 必要事項を記録・報告する。 ⑤ 施設の概要を理解する。 ⑥ 作業療法実践過程を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１日）	上記学習目標①～⑥	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２日）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３日）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４日）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習５	実習施設における実習（第５日）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床見学実習評価表（80%）、実習報告会の内容（20%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	臨床見学実習Ⅰに臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておくこと
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	民間病院において、臨床実習担当の指導・監督の下、作業療法の実務を見学・体験させる。

科目名	応用倫理学	担当教員	和田 義哉 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	１年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13A	①、⑤

科目概要	我々は日常の様々な状況において物事の善し悪しを決めなければならない。本授業では様々な情報を元に物事をどのようにとらえ、判断していくかということを学習していく。また、医療人として必要な倫理観を養うため、様々な医療トピックスについて考えていく。
学習目標	① 日常生活において起きている出来事に対し、自分の判断と誇りに責任を持てる。 ② 倫理観は、社会や時代の変化によって変わることを理解できる。 ③ 授業内での討議において、自分とは違う相手の意見に対し、理解を示すことができる。 ④ 将来医療従事者として働くときに必要な医療倫理を持ち、様々な立場を理解した上で正しい判断ができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス	倫理学の大きな流れを説明し、法律と倫理の違いを学習する。	倫理学に関する基礎的な知識を習得し、倫理学が日常の様々な場面において機能していることを理解できる。	
2	死刑制度	日本の死刑制度を理解した上、世界の死刑制度の情勢を踏まえ、死刑制度の是非を考える。	国家・被害者・生命倫理など様々な立場から死刑を考えることができる。	
3	ネット社会	インターネットの正しい活用法や様々なメディアから入る情報の選択について考える。	様々な情報が氾濫する中、何が正しいかを正確に判断し、意見を言う時、何に気をつけなければならないかを考えることができる。	
4	嘘をつくこと	嘘をつくことの背景、また、医療現場での告知と嘘について倫理的に考える	日常においての嘘をつく行為の、悪い面良い面を理解し、その時々で正しい判断ができる。	
5	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの歴史的な経緯、具体的な在り方などを学習する。	医療従事者として、説明する行為の重要性、またその弊害を考えることができる。	
6	安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死の違いとは何か、それに関わる歴史的推移を見ながら死ぬ権利を考える。	実際の行為者や周囲の人々の気持ち、また死に対する倫理から、人生の終えんを考えられる。	
7	脳死と臓器移植	脳死の定義、ならびに臓器提供に関する課題などを学習する。	脳死は人の死と言えるのか、また、臓器移植に対する功罪を考えることができる。	
8	人工妊娠中絶	日本における人工妊娠中絶の現状、中絶する理由、命を生かす課題について学習する。	家庭事情、現代社会、宗教観、様々な見解から中絶について考えることができる。	

評価方法	筆記試験（60%）　レポート（30%）　授業内での意欲的な態度（10%）
課題に対するフィードバック	次の講義に前回のレポートについての総評を行うが、個人別でのフィードバックは行わない。
教科図書	なし
参考図書	児玉聡・著『実践倫理学』勁草書房、2020 年 他はその都度授業で紹介する。
学習の準備	事前にシラバスの内容から次回のテーマについて、書籍やインターネットを活用して調べる（2 時間） 授業後は資料や討論の内容などを復習し、諸問題に対する確固たる意見を持てるようにする（2 時間）

オフィスアワー	木曜日　12:30~14:00
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	思想の歴史	担当教員	信太 雅洋 小林 巧 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AB	①、④、⑥

科目概要	本講義では本学の教育特徴を活かして、「リハビリテーション医療の思想および実践の歴史」から取り出され教えられる数々の人間学的特徴にふれ、支援の糸を手繰り寄せる。医療者と患者という二分的で垂直的な立場から、医療の場での役割の違いをおさえながら、人間として水平的な立場からの接近が求められる時代となった。医療思想の歴史を背景として、臨床実習体験から学んだことを講義資料として、現代に生かす医療思想についてふれる。
学習目標	① 臨床見学実習を体験資料として、リハビリテーション臨床に必要とされる課題を取りあげる。 ② 自ら取り上げたリハビリテーション臨床に必要な課題に対する医療的対応について学習する。 ③ 自ら学んだ医療的対応について、他者に的確に伝わるかどうかをみるためにこれを文章化し、互いに資料の点検作業を行う。以上については常時リハビリテーション思想を背景におき取り組む。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 各論1	オリエンテーション リハビリテーション思想と臨床実習体験の振り返り その１	科目の概要と流れがわかる。 リハビリテーション臨床に必要とされる要素を挙げ、整理することができる。	
2	各論２	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その２	挙げた要素を整理することができる。 整理した要素を文章にすることができる。	
3	各論３	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その３	整理した要素を他者に伝える方法を学ぶことができる。	
4	各論４	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その４	課題を挙げることができる。	
5	各論５	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その５	課題に対する対応方法を学ぶことができる１。	
6	各論６	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その６	課題に対する対応方法を学ぶことができる２。	
7	各論７	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その７	学んだ対応方法を文章にすることができる。	
8	各論８ まとめ	リハビリテーション思想と臨床実習の振り返り その８	学んだ対応方法を他者に伝える方法を学ぶことができる。	

評価方法	講義時に提示する提出物（80%）・授業での発表（20%）を評価する。
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	山口美和・著『PT・OT のための これで安心コミュニケーション実践ガイド 第２版』医学書院、2020 年
参考図書	吉松和哉・著『医者と患者』岩波現代文庫、2001 年 深堀幸次・著『患者対応マナーBOOK』医学通信社、2005 年

学習の準備	1　（予習）次回テキストの通読と用語の確認をする。（2 時間） 2　（復習）講義毎に提示するので、提示に従い復習をすること（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	歴史学	担当教員	井上 将文 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AB	①、④

科目概要	現代世界とそこに生きる我々の来歴を知り、人類史のベクトルがどのような将来を指し示しているかを知ることは、現在に生きるわれわれの自己理解を深め、かつ今後の社会と文化の方向性を見極めながらいかに人生を構築するべきかを考える上で、決定的な重要性を持つ。本学で教育する歴史学は、従来しばしば見られたような歴史の細目を教える暗記型の歴史学ではなく、上記の目的を強く意識し、かつそれに即したトピックを厳選して現代に生きる人類としての自己理解を深める内容とする。かつ同時に、自らが生きる場である地域社会にも目配りができるように、北海道の歴史をも内容に含める。
学習目標	近現代北海道史を、移民と農業という視角から学ぶ。この作業を通じて、さまざまな歴史史料（文書、官庁公刊物、新聞、雑誌など）・文献（自治体史など）から、わたしたちが生活する北海道の歴史への理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	現代北海道と農業	今日の北海道における農業の重要性を再確認し、その歴史的連続性について把握する。	
2	明治～大正	開拓使～北海道庁初期における農業政策と移民	明治期における北海道移民の増加と、農業政策の展開過程について理解する。	
3	大正	北海道第一期拓殖計画の開始と農業移民の増加	第一次世界大戦期の北海道において農業移民が増加していく過程を理解する。	
4	昭和戦前期　①	北海道第二期拓殖計画の開始と農業政策の転換	昭和初期北海道において、酪農事業が移民政策の一環として推進される過程を理解する。	
5	昭和戦前期　②	凶作・水害と移民生活の変容	昭和初期の凶作・水害の影響によって、北海道の農家の生活が変容していく過程を理解する。	
6	番外編	海外移民政策と北海道	戦前期北海道において展開された海外移民政策が北海道に及ぼした影響について理解する。	
7	昭和戦後	戦後北海道総合開発と農業移民	戦後北海道総合開発下の農業政策を、移民政策という視角から理解する。	
8	総括	北海道は何を求められてきたか	明治期から今日まで、北海道が果たしてきた、或は求められてきた役割について把握する。	

評価方法	授業内レポート 50%、最終レポート 50%で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業の冒頭にて、前回授業の課題について説明する。
教科図書	授業中に紹介する。
参考図書	同上
学習の準備	（予習）用語など、授業中に指示された予習のポイントについて、各自で調査しておくこと（2 時間）。 （復習）授業にて扱った内容の要点について、配布された資料などを基に各自で確認すること。本授業の内容は、毎回連続しているので、毎回の授業内容を各自で把握しておく作業が重要となる（2 時間）。

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	北海道の医療と社会・経済	担当教員	佐藤 公博 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AB	④、⑤、⑥

科目概要	「医療」に関わるテーマについて、社会科学からの視座を伝える。特に「サービス業としての医療」の視点から北海道の地域特性と医療専門職の役割について具体的問題を提示して伝える。
学習目標	① 医療と地域社会のかかわりについて全体像を理解することができる。 ② 複雑な制度の中で生じている医療について問題を把握し解決の方法について考察することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	医療に対する社会科学からの接近：医療、福祉、保健、医療問題の構造、医学モデルと社会モデル	医療について社会科学の視点から考察することの意義を理解できる。	
2	各論１	日本の医療制度、諸外国の制度との比較、国民皆保険制度、医療費、GDP に占める割合、北海道の地域特性	日本の医療制度のしくみについて理解し、北海道の医療について経済的視点から理解することができる。	
3	各論２	サービス業としての医療：他の産業との比較、社会的共通資本、経済的側面	「サービス業としての医療」の視点を理解することができる。	
4	各論３	健康と病気の社会性：健康の定義、主観的健康と客観的健康、予防、健康管理の重点化	現代の健康観について社会の視点から理解することができる。	
5	各論４	チーム医療と専門職論① 国家資格化、専門化と合理化	理学療法士・作業療法士が国家資格化した背景について理解することができる。	
6	各論５	チーム医療と専門職論② 他職種連携は重要であると同時に、なぜ困難なのだろうか	チーム医療の重要性と困難性について考察することができる。	
7	各論６	医療を支える制度の新しい流れ：地域包括ケアシステム、地方創生、健康の”見える化”	これからの医療の大きな流れについて理解することができる。	
8	各論７	「医療」、「保健」、「福祉」の統合とヘルスケアの視点：地域が抱える問題の本質、人口構造の変化、地域経済の衰退	地域が抱える医療問題の本質を理解し、解決の方法について考察することができる。	

評価方法	授業内での演習(50%)、筆記試験(50%)
課題に対するフィードバック	授業を通じてフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。授業内で資料を配布する。
参考図書	適宜、授業内で提示する。
学習の準備	（予習）主な学習内容・到達目標を読み、用語を調べる。(1時間)。 （復習）理解できた内容、理解が不十分である内容を明確にする。授業で考えたこと、新たに気づいたことを振りかえり、関連する項目について文献を読み、学んだことをノートにまとめる(3 時間)。
オフィスアワー	水曜日 13:00~14:30

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	基礎生化学	担当教員	曽我部 いづみ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AC	③、④、⑤

科目概要	生化学は、生命現象を「物質」や「分子」のレベルから理解し、核酸やタンパク質はじめ生命を構成する分子の機能や構造を明らかにする学問である。健康と病気を正しく理解するには分子レベルで生命現象や生命体を構成、維持する物質を化学的な視点で理解することが必要である。本講義では「基礎的な生化学＝生体分子の構造と生体内における変化＝代謝」を中心に学習する。
学習目標	生物も無生物も同じ物質から成り立っているが、秩序有る生命体を構成、維持するために様々な物質の相互作用が必要である。人体を構成する物質、遺伝子、ヒトの発生を学び、生命活動を行う上での栄養の代謝、消化・吸収、排泄メカニズム、体内環境を一定に保つ機構について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	細胞をつくる物質	細胞の主要な構成元素の理解 炭水化物、脂質、タンパク質の基本構造	細胞の主要構成元素（炭素 C、水素 H、酸素 O、窒素 N）を学び、基本となる炭水化物、脂質、タンパク質の基本構造を理解する。	
2	核酸代謝と遺伝子情報	タンパク質の構造、核酸（DNA、RNA）の種類と役割、構成成分、構造 タンパク質の合成	DNA の二重らせん構造、タンパク質合成に関与する RNA の種類と役割を説明できる。タンパク質の合成を理解する。	
3	染色体と核型、ヒトの遺伝	染色体の構造、ヒトの染色体 遺伝（突然変異、染色体異常や遺伝性疾患）について	染色体の構造を理解し、突然変異や常染色体の顕性・潜性遺伝、伴性潜性遺伝、数の異常、構造異常による疾患の理解につなげる。	
4	ヒトの生殖・発生	男性、女性の生殖機能、受精と着床、胎児の発生	男性、女性の生殖機能を理解し説明できる。大まかな胎児の発生、3 つの胚葉とそこから派生する組織、器官についても理解する。	
5	消化・吸収（1）	消化管（口腔～胃）の役割と消化メカニズム、嚥下機能	消化器の役割、口腔内消化と嚥下のメカニズム、胃の役割と消化（胃の蠕動運動、胃液の分泌調節）を理解し説明できる。	
6	消化・吸収（2）	消化管（胃～大腸）の役割と消化・吸収のメカニズム、大腸における排便反射	胃や小腸における消化・吸収（その際、膵臓や肝臓、小腸から分泌されるホルモンがどのように作用するのか）、また排便反射についても理解し説明ができる。	
7	酸・塩基平衡	正常な血液（体液）の pH、代謝の結果生じる酸（H^+）の調節機構、血液中の酸素の運搬	正常な血液（体液）のpH、代謝の結果生じる酸（H^+）の調節機構を理解し、呼吸性・代謝性アシドーシス、アルカローシスを説明できる。ヘモグロビン酸素解離曲線とHbと酸素の結合に影響を及ぼす因子についても理解する。	
8	理解度の確認	これまでの内容が理解できているかの確認	第 1 回目から第 7 回目までの内容を確実に理解する。	
9	栄養と代謝（1）	栄養と代謝の概要、糖質代謝（解糖系、TCA サイクル、電子伝達系）	生命活動を行うのに必要な栄養と代謝の概要、異化作用、同化作用を理解する。糖質代謝では、解糖系、TCA サイクル、電子伝達系を理解し簡単に説明ができる。	
10	栄養と代謝（2）	エネルギー代謝の基礎	エネルギー代謝に関して、代謝量（基礎代謝量、特異動的作用、エネルギー代謝率、呼吸商、代謝当量等）の定義や影響する因子を理解する。体温とその調節機構についても理解する。	
11	栄養と代謝（3）	タンパク質代謝、脂質代謝	タンパク質と脂質の分解過程を復習し、生じたアミノ酸、グリセロールと脂肪酸からどのようにエネルギーを得ているのかを理解する。さらに吸収期と空腹期のエネルギー代謝、糖新生について学ぶ。	
12	尿の生成と排泄	腎臓の役割、構造と機能（尿の生成、再吸収と分泌）、排尿機構（蓄尿反射と排尿反射）	腎臓の役割（尿の生成、内分泌機能）を理解し、尿の生成から排尿に至るまでの再吸収と分泌、調節するホルモン、蓄尿反射と排尿反射について理解し説明ができる。	

13	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン	ホルモンの役割（体内の組成・物理的状態を一定に維持する機構）を理解し、また化学構造、発現メカニズム、分泌調節について理解する。	
14	内分泌（2）	各腺から分泌されるホルモンの作用と種類とホルモン異常による疾患	下垂体、視床下部、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質・髄質、膵臓、性腺、その他、胎盤や肝臓、腎臓といった内分泌腺・内分泌細胞から分泌されるホルモンの作用とホルモン異常により生じる疾患について理解する。	
15	ビタミン類	ビタミンの種類と生理作用、過剰や欠乏による疾病	ヒトや動物が生きていく上で欠かせないビタミンの種類と生理作用を説明できる。また、過剰や欠乏による疾病についても理解する。	

評価方法	筆記試験（100％：中間試験 50％＋定期試験 50％）
課題に対するフィードバック	毎回、授業時に確認テストを配布します。その日のうちに自分で行い、フィードバックさせて下さい。講義資料をみてもわからない場合は、調べるか、メールにて質問して下さい。対応します。
教科図書	奈良勲ら・監修『標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）生理学　第５版』医学書院、2018 年 貴邑富久子、根来秀雄・共著『シンプル生理学　改訂第８版』南江堂、2021 年
参考図書	太田次郎・監『図解フォーカス新版総合生物』啓林館、廃版 高校の生物、生化学の教科書、参考書やインターネットも参考にしてみて下さい。
学習の準備	1.　可能な場合は、事前に該当する教科書の内容に目を通しましょう（1 時間）。 2.　講義後は、配布した資料を自分なりに（図を描いてみる等）まとめましょう（3 時間）。
オフィスアワー	**月、火、金の昼休み（12 時～13 時 30 分）。その他、在室時はいつでも可**
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	物理学	担当教員	和田 龍彦 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13A	③

科目概要	身の回りにある自然現象を理解して機器の仕組みや原理を知るためには、物理学的な考え方が必要となる。本講義は、身近にある物質や現象を取り上げ、物理学的な見方や考え方の基礎を学ぶ。具体的には、力と運動、圧と流体、熱現象や電磁気現象などを紹介し、その原理や基礎となる用語、また基本的な法則などを学ぶ。さらに、応用分野として、生体の機能や動作を物理的に解釈かつ解析する能力を習得すると共に、いくつかの医療機器の動作原理を知る。
学習目標	① 物の道理を定性的かつ定量的に捉え、物理の基本的現象や法則などを理解する。 ② 応用物理の知識を習得し、医療現場への応用技術を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	力とモーメント	力関係．合力と分力．力のモーメント．生体とテコ．静止摩擦と動摩擦	ベクトル量とスカラー量の理解を深め、合力や分力などの力の関係を説明し、解析できる。	
2	物体の運動	変位と速度と加速度．落体の法則．放物線運動．運動の法則．慣性の法則．作用･反作用の法則	変位･速度･加速度を確認し、落体の法則や放物線運動、さらに運動の法則などを説明できる。	
3	仕事とエネルギーと代謝	仕事と力方向．トルクと角運動量．運動エネルギー．位置エネルギー．エネルギー代謝．	仕事やエネルギーや力積などを学び、生体のエネルギーと代謝に関して説明できる。	
4	固体と流体	固体と液体と気体．圧力．浮力と水圧．ベルヌーイの定理．表面張力とぬれ現象．血圧と血流．	流体の圧力やベルヌーイの定理などを利用でき、関連する血圧と血流量について説明できる。	
5	振動と波動と音波	単振動と強制振動．共振と共鳴･バネと振動．波の運動．波長と周波数．音の伝達とうなり．	共鳴現象や正弦波の基本式などを学習し、音の物理的性質やドップラー効果を説明できる。	
6	熱と光	温度と測定．熱の伝達．温度と体積と圧力．ボイル-シャルルの法則．等圧変化．光の屈折･分散･干渉･偏光．光を用いた生体計測．	熱伝導･熱変化･熱力学の基礎を習得し、熱の特性を説明できる。また、光の反射と屈折、干渉と偏光などを説明できる。	
7	静電気と生体電気現象	電流と抵抗．並列抵抗と直列抵抗．静止膜電位と活動電位	基本的電気用語を理解し、オームの法則等による解析ができる。生体の電気現象を説明できる。	
8	交流と磁気応用	コイルと磁気．モーターと発電．インピーダンス．生体磁気計測．磁気共鳴イメージング MRI	交流の基本やインピーダンスなどを学習し、発電の原理やモーター構成などの説明ができる。MRI 等の生体磁気測定装置の動作原理を知る。	

評価方法	筆記試験(80%)、小テストまたはレポート(20%)で評価する。
課題に対するフィードバック	小テストについては正解例を掲示ならびに解説し、レポートの場合は評価後返却する。
教科図書	教員作成教材
参考図書	横田俊昭・著『看護と医療技術者のためのぶつり学 第 2 版』共立出版
学習の準備	（事前学習）参考書及び事前配布された資料をもとに、2 時間を目途に講義内容を確認する。 （事後学習）講義終了後は 2 時間を目途に講義使用の資料を通読し、講義内容をまとめ疑問点を整理する。
オフィスアワー	講義の前後

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	英会話	担当教員	大田原 裕紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13A	②

科目概要	コミュニケーションでは、相手の話をよく聴き、自分の意見を分かり易く伝えることが重要である。よき対話は参加者をつなげ、活力を生み、新たな自己と他者の発見や成長の機会を与えてくれる。 本講義では、今や Lingua Franca (世界の共通語)となった英語を様々な場面や目的の中で実際に使いながら、各場面や目的に合った多様なコミュニケーション方法を学び、習得していくことを目指す。比較的短く即興的な会話や身の回りのトピックから、徐々に、ディスカッション(ディベート)やグローカルなトピックについての主張といった、少し手順を踏んだ長めのリスニング・スピーキングを扱っていく。多彩な練習を通して、より自然で的確な表現の英語で、自分の意見を相手に分かり易く伝える力を養成することを目指す。
学習目標	① メッセージを伝えるための基本を意識し、会話や発表に活かすことができる。 ② 場面や状況に応じた適切な表現方法を学び、会話や発表に活かすことができる。 ③ ブレインストーミングから、まとまった考えを発表するまでのプロセスを、練習を通して身につけ、今後の対話や発表に活用できる。 ④ 課題や目標達成に向け、自律と協同の学習を遂行できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	講義の目的、見通し、ルールと成績評価方法、目標、グーグルクラスルーム、 Pair communication activity	講義の見通しを持つことができる 自分のことを簡単な英語で話すことができる	
2	Self-introduction	会話のきっかけフレーズ, This is me/ This is my partner	相手の事を簡単な英語で伝えることができる 'A sense of learning community'を持つ	
3	Show and Tell	Pair communication activity Prepare for a Show 'n' Tell speech	場面に沿った会話表現を使うことができる Show 'n' Tell speech の準備ができる	
4	Show and Tell	Show 'n' Tell speech session よきスピーチの 3 要素	スピーチセッションを楽しむことができる 互いの発表から、3 要素の重要性に気づくことができる	
5	Oral performance	"Freddie the Leaf" excerpt を表現する 感情を乗せて表現する: voice inflection	自分のパートに感情を乗せて表現することができる	
6	Oral performance presentation	Oral performance of the story as a class Pair communication activity	協同してストーリーを発表することができる 場面に沿った会話表現を使うことができる	
7	○○ I recommend	Pair communication activity Prepare for a ○○ I recommend speech	場面に沿った会話表現を使うことができる お勧めの○○スピーチの準備ができる	
8	○○ I recommend	Prepare for a ○○ I recommend speech 分かり易く伝える工夫: チャンクとアクセント	スピーチセッションを楽しむことができる 互いの発表から、チャンクとアクセントの重要性に気づくことができる	
9	What do you think?	Talking about your opinion on a issue 意見を伝える時の工夫：構成と表現	意見を述べる際に効果的な構成と表現を捉えることができる	
10	Simple discussion	Discussing a familiar issue グループワーク: Connect, Express, Support, React	身近な話題について、グループでスムーズに話し合いを進めることができる	
11	Discussion on a glocal topic	Discussing a glocal issue グループワーク: Connect, Express, React	グローカルな話題について、グループでスムーズに話し合いを進めることができる	
12	Life experiences	Prepare for an unforgettable experience speech: time order, vivid expressions, dialog Pair communication activity	忘れられない出来事発表の準備ができる 場面に沿った会話表現を使うことができる	

13	Life experience speech	Unforgettable experience speech: time order, vivid expressions, dialog	人生の経験を分かり易く伝えることができる 互いの発表から、大事な要素を学び合う	
14	What if..	Whole class communication activity	互いの意見を聞き合い、自分の意見を伝えることができる 場面に沿った会話表現を使うことができる	
15	Communication activity Wrap up	Fun communication activity Review the class, Wrap up, Questionnaire	場面に沿った会話表現を使うことができる 今学期の互いの進歩を振り返ることができる	

評価方法	授業への積極的参加（30%)、課題への取り組み（30%)、種々のスピーチ・ディスカッション（30%)、ポートフォリオ（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 適宜 Google classroom も活用する。
教科図書	適宜、資料を配布する。
参考図書	適宜、授業内で連絡する。
学習の準備	“Practice makes perfect” goes the proverb. Let’s practice & enjoy using English for communication. 1 事前に資料の該当箇所に目を通す。(2 時間) 2 事後に授業内に配布した資料を見直し、ノートを整理し、講義のポイントを復習すること。(2 時間)
オフィスアワー	火曜日 10 時 40 分～12 時 10 分。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13C	③、④					

科目概要	医学系専門職として理学療法と作業療法を学ぶ上で基礎となる、生命の維持に非常に重要な働きをもつ呼吸器と循環器や、消化器、泌尿器の構造と機能についての知識とその役割を学び、生命が恒常性を維持する仕組みの一端を知る。本科目では生体内部の構造と働きについて学習し、生体内で起こる生理学的反応への考察力を高めることを目的とする。さらに運動における呼吸循環系の役割に対する理解を深めることも目的とする。
学習目標	①　呼吸器、循環器、消化器、泌尿器の構造と機能について理解できる。 ②　各器官における生理学的な反応を理解できる。 ③　運動における呼吸循環系の役割を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 血液組成と働き１	オリエンテーション、解剖学総論 血液の組成	内臓・脈管系の名称ならびにその位置関係について理解する。血液の組成について理解する。	
2	血液組成と働き２	血液の役割	血液の役割について理解する。免疫応答について説明することができる。	
3	循環器１	循環器の構造	循環器系の解剖学的な理解を深め、その構造について説明することができる。	
4	循環器２	循環器の機能	循環器系の生理学的な理解を深め、その機能について説明することができる。	
5	心筋細胞の興奮機序	心筋の組成と収縮機序	心筋の興奮収縮を説明することができる。	
6	心拍出量調整 特殊循環	心拍出の調節 末梢循環、脳循環、筋ポンプ作用	心周期、心拍出のメカニズムを理解する。 末梢循環、脳循環、筋ポンプ作用のメカニズムについて説明することができる。	
7	呼吸器１	呼吸器の構造	呼吸器系の解剖学的な理解を深め、その構造について説明することができる。	
8	呼吸器２	呼吸器の機能	呼吸器系の生理学的な理解を深め、その機能について説明することができる。	
9	換気	換気の仕組み	換気力学に基づいた換気の仕組みについて説明することができる。	
10	呼吸調節	呼吸の調節	呼吸調節のメカニズムについて説明することができる。	
11	消化器１	消化器系器官の構造	消化器系の解剖学的な理解を深め、その構造について説明することができる。	
12	消化器２	消化器系器官の機能	消化器系の生理学的な理解を深め、その機能について説明することができる。	
13	泌尿器１	泌尿器の構造	泌尿器系の解剖学的な理解を深め、その構造について説明することができる。	
14	泌尿器２	泌尿器の機能	泌尿器系の生理学的な理解を深め、その機能について説明することができる。	

15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。	

評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学 –構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年 高邑冨久子・著『シンプル生理学　改訂第 8 版』南江堂、2020 年
参考図書	松村謙兒・著『イラスト解剖学第 9 版』中外医学社、2017 年 本郷利憲、他・編『標準生理学』医歯薬出版、2005 年
学習の準備	1　教科書、参考書、WEB 上の動画なども利用して予習・復習をすること（2 時間） 2　講義の理解が不十分である箇所を明確にしておき、次回の講義で質問できるよう準備すること（2 時間）
オフィスアワー	月・火・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学 II（筋・骨関節系）	担当教員	伊藤 俊輔※ 鈴木 大輔 久保 勝幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13C	③、④

科目概要	骨格筋や関節の構造（解剖）と機能（生理）をについて学び、実際に触診や関節運動を体験する。また、触診で得た知識を形態計測という検査法を用いて体験する。
学習目標	骨・関節・筋の知識を深めること。特に実際の関節運動や触診を行うことによって、観察力と思考力を養い、学問的な探求心を向上させること。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	体表解剖 1	オリエンテーション（触診、形態計測）	触診や形態計測の意義、目的について理解する。	伊藤
2	体表解剖 2	触診 1：上肢・上肢帯：骨、筋	上肢・上肢帯の骨、靭帯、関節や筋について触診を通して理解する。	久保 伊藤
3	体表解剖 3	触診 2：形態計測：上肢長、上肢の周径	上肢に関する形態計測ができるようになる。	久保 伊藤
4	体表解剖 4	触診 3：下肢・下肢帯：骨、筋	下肢・下肢帯の骨、靭帯、関節や筋について触診を通して理解する。	久保 伊藤
5	体表解剖 5	触診 4：形態計測：下肢長、下肢の周径	下肢に関する形態計測ができるようになる。	久保 伊藤
6	体表解剖 6	触診 5：体幹：骨、筋	体幹の骨、靭帯、関節や筋について触診を通して理解する。	久保 伊藤
7	筋学 1	筋学総論：筋を補助する構造	筋を補助する腱・支帯・腱鞘などを覚える。 各構造の働きを理解する。	鈴木
8	筋学 2	筋学各論 1：表情筋、咀嚼筋	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える 筋の働きを理解する。	鈴木
9	筋学 3	筋学各論 2：舌筋群、頚部の筋	筋の名称、支配神経、起始・停止を覚える。 筋の働きを理解する。	鈴木
10	関節学 1	関節学各論 1：顎関節・体幹の関節	顎関節・椎間関節の構造を覚える。 各関節の働きを理解する。	鈴木
11	関節学 2	関節学各論 2：顎関節・体幹の関節	肋椎関節・椎間板の構造を覚える。 各関節の働きを理解する。	鈴木
12	筋学 4	筋生理学 1	筋の微細構造について理解する。	鈴木
13	筋学 5	筋生理学 2	筋収縮のメカニズムについて理解する。	鈴木
14	筋学 6	筋生理学 3	筋と神経の関係について理解する。	鈴木

15	筋学 7	筋生理学 4	筋電図と疾患の関係について理解する。	鈴木

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	ここでの課題は,「授業内容の理解」とします。 鈴木大輔担当分は、それに対して①−④のフィードバックを行います。 ①　授業後の確認テスト ②　次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③　個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④　期末テスト 久保勝幸、伊藤俊輔担当分は、講義中・講義終了後に質問を受け、回答します（フィードバック）。
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学　構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年
参考図書	伊藤俊一、他・著『DVD シリーズ 2　PT・OT のための測定評価 形態計測・感覚検査・反射検査 第 2 版』三輪書店、2014 年 林典雄・著『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第 2 版』メジカルビュー社、2011 年 林典雄・著『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第 2 版』メジカルビュー社、2012 年
学習の準備	1.（予習）可能であれば事前に教科書の該当箇所を通読しておくこと（30 分）。 2.（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（30 分）。
オフィスアワー	月曜日と水曜日の 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	伊藤俊輔は、民間病院で筋・骨関節領域における理学療法の実務経験を有しており、本講義において、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 久保勝幸は、民間病院で筋・骨関節領域における作業療法の実務経験を有しており、本講義において、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	人体構造機能学Ⅱ（神経系）	担当教員	鈴木 大輔 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AC	③、④

科目概要	大脳皮質の働き、反射，神経回路を学び，前期に学んだ脳の解剖を機能的に理解する．また感覚器系、内分泌器官について構造と機能を学ぶ
学習目標	脳は反射を含めた神経回路を理解することで，働きが総合的に理解でき，日常生活や臨床で見られる現象を説明することができる．また感覚器系、内分泌器官の知識を深め、学問的な探求心を向上させること

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	I：中枢神経	(1) 各論：大脳新皮質（一次と高次）	大脳新皮質の働きを理解する。	
2	I：中枢神経	(2) 各論：高次機能と関連疾患 (3) 各論：大脳辺縁系	高次機能と関連疾患の関係を理解する。 大脳辺縁系の構造と働きを理解する。	
3	I：中枢神経	(4) 各論：脊髄	脊髄の構造と働きを理解する。	
4	II：神経回路	(1) 総論：シナプス	シナプスの構造と働きを理解する。	
5	II：神経回路	(1) 各論：脊髄反射	脊髄反射のメカニズムを理解する。	
6	II：神経回路	(2) 各論：遠心性経路	遠心性経路を理解する。	
7	II：神経回路	(3) 各論：求心性経路	後索路と脊髄視床路を理解する。	
8	II：神経回路	(4) 各論：求心性経路	三叉神経毛体系を理解する。 関連疾患を学ぶ。	
9	III：感覚器	(1) 総論：一般的な感覚器の機能	受容器や神経伝達速度について学ぶ。 感覚の種類について学ぶ。	
10	III：感覚器	(1) 各論：一般知覚	一般知覚のメカニズムについて理解する。 ゲートコントロールについて理解する。	
11	III：感覚器	(2) 各論：特殊感覚	嗅覚と味覚について学ぶ。	
12	III：感覚器	(3) 各論：特殊感覚	聴覚と前庭覚について学ぶ。	
13	III：感覚器	(4) 各論：特殊感覚	視覚について学ぶ。	
14	IV：内分泌系	(1) 総論：内分泌系とは (1) 各論：下垂体ホルモン	内分泌のメカニズムについて理解する。 下垂体ホルモンの働きについて理解する。	
15	IV：内分泌系	(2) 各論：その他のホルモン	一般的なホルモンの作用について理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	ここでの課題は,「授業内容の理解」とします. それに対して①ー④のフィードバックを行います ①　授業後の確認テスト ②　次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③　個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④　期末テスト
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学　構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年
参考図書	なし
学習の準備	予習はしなくてもいいですが、復習は必ず行って下さい 講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする(1 時間)
オフィスアワー	月曜日 13 時-17 時半，水曜日 13 時-17 時半 その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	運動学	担当教員	隈元 庸夫 久保 勝幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	4単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AE	③、④、⑤					

科目概要	「人体構造機能学（筋・骨関節系）」で学習した知識に加え、生体力学的観点から、人間の身体運動に関する基礎を学ぶ。筋や骨、関節構成体の構造と、モーメントやテコの観点から身体活動がいかに効率良く、合理的なシステムに基づいて行われているか理解を深める。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。さらに、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その基礎を学ぶ。
学習目標	①運動・動作の基本的用語・表し方、②運動における力学の基礎、③四肢と体幹の運動、④歩行、⑤姿勢制御および運動学習を理学・作業療法と関連づけ具体的に理解することが目標となる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	運動学の基礎 1	運動学の定義、身体運動の捉え方、運動の表し方、運動力学、運動器の構造と機能	運動学の定義、身体運動の捉え方、運動の表し方、身体におけるテコ、モーメントおよび運動器の構造について理解する。	
2	運動学の基礎 2	運動学の定義、身体運動の捉え方、運動の表し方、運動力学、運動器の構造と機能	運動学の定義、身体運動の捉え方、運動の表し方、身体におけるテコ、モーメントおよび運動器の構造について理解する。	
3	運動器の構造と機能 1	骨・関節の構造と機能①	骨・関節の構造と機能について理解する。	
4	運動器の構造と機能 2	骨・関節の構造と機能②	骨・関節の構造と機能について理解する。	
5	運動器の構造と機能 3	筋・腱・靭帯の構造と機能①	筋・腱・靭帯の構造と機能について理解する。	
6	運動器の構造と機能 4	筋・腱・靭帯の構造と機能②	筋・腱・靭帯の構造と機能について理解する。	
7	神経系の構造と機能 1	運動の中枢神経機構①	運動の中枢神経機構について理解する。	
8	神経系の構造と機能 2	運動の中枢神経機構②	運動の中枢神経機構について理解する。	
9	神経系の構造と機能 3	感覚器の構造と機能①	感覚器の構造と機能について理解する。	
10	神経系の構造と機能 4	感覚器の構造と機能②	感覚器の構造と機能について理解する。	
11	下肢の運動 1	足関節・足部の運動	足関節・足部の運動について理解する。	
12	下肢の運動 2	足関節・足部の運動	足関節・足部の運動について理解する。	
13	下肢の運動 3	膝関節の運動	膝関節の運動について理解する。	
14	下肢の運動 4	膝関節の運動	膝関節の運動について理解する。	

15	下肢の運動 5	骨盤帯・股関節の運動	骨盤帯・股関節の運動について理解する。	
16	下肢の運動 6	骨盤帯・股関節の運動	骨盤帯・股関節の運動について理解する。	
17	下肢の運動 7	骨盤帯・股関節の運動	骨盤帯・股関節の運動について理解する。	
18	下肢の運動 8	骨盤帯・股関節の運動	骨盤帯・股関節の運動について理解する。	
19	体幹の運動 1	頭・頚部の運動	頭・頚部の運動について理解する。	
20	体幹の運動 2	頭・頚部の運動	頭・頚部の運動について理解する。	
21	体幹の運動 3	胸部・腰部の運動	胸部・腰部の運動について理解する。	
22	体幹の運動 4	胸部・腰部の運動	胸部・腰部の運動について理解する。	
23	上肢の運動 1	上肢帯の運動	上肢帯の運動について理解する。	
24	上肢の運動 2	上肢帯の運動	上肢帯の運動について理解する。	
25	上肢の運動 3	肩関節の運動	肩関節の運動について理解する。	
26	上肢の運動 4	肩関節の運動	肩関節の運動について理解する。	
27	上肢の運動 5	肘関節・前腕の運動	肘関節・前腕の運動について理解する。	
28	上肢の運動 6	肘関節・前腕の運動	肘関節・前腕の運動について理解する。	
29	上肢の運動 7	手関節と手の運動	手関節と手の運動について理解する。	
30	上肢の運動 8	手関節と手の運動	手関節と手の運動について理解する。	

評価方法	小テスト（各単元後に実施）50%、筆記試験 50%
課題に対するフィードバック	1 各単元後に「小テスト」を行う（課題）。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック）。 3 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	中村隆一、他・著『基礎運動学（第 6 版補訂）』医歯薬出版、2020 年
参考図書	Neumann DA・著、有馬慶美、他・監訳『筋骨格筋のキネシオロジー（第 3 版）』医歯薬出版、2014 年 KapanjiAL・著、塩田悦仁・訳『カパンジー機能解剖学（第 6 版）』医歯薬出版、2010 年 藤縄理、他・編『運動学テキスト（改訂第 2 版）』南江堂、2015 年
学習の準備	1.（予習）事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間）。 2.（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）。
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	運動学演習	担当教員	伊藤 俊輔※ 世古 俊明※ 隈元 庸夫※ 信太 雅洋※ 山田 恭平※ 佐藤 公博※ 久保 勝幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	3単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13ACE	②、③、④					

科目概要	骨、関節、神経、筋機能などの基礎的な知識を基に、ヒトの各種姿勢および歩行、起立、起居などの基本動作の理念型を理解し、様々な運動・動作・活動に対して観察・分析の仕方を学生同士での演習を通して学習する。更には、運動や動作の観察から人体の機能や構造に対する理解を深める。また、運動による各臓器・器官の反応（生体反応）、高齢者や個々の疾患に対する姿勢や動作の特徴についても理解を深め、運動機能の回復・予防などといった応用的知識を身につける。
学習目標	歩行、姿勢制御および運動学習、運動・動作分析の基礎を理解する。さらに、各課題演習により①運動・動作の基本的用語・表し方、②運動における力学の基礎、③四肢と体幹の運動、④姿勢制御等について人の日常の運動を理学・作業療法と関連づけ具体的に理解することを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1-3	運動・動作分析	・運動・動作の分析方法．分析機器の概要 ・運動・動作における関節運動．筋活動	・運動・動作分析や機器の概要を理解する。 ・運動・動作分析における関節運動、筋活動について理解する。	山中
4-9	歩行	・歩行の空間的・時間的指標（歩行周期） ・歩行の関節運動学．筋活動．運動力学 ・様々な歩行（高齢者、小児、異常歩行）	・歩行の指標となる用語と歩行周期を理解する。 ・歩行時の重心移動を理解する。 ・歩行における関節運動、筋活動、運動力学を知り、正常歩行を運動学的に理解する。 ・小児や高齢者の特徴を知る。また、正常歩行と異常歩行の違いについて理解する。	隈元
10-15	姿勢・姿勢制御	・姿勢と重心の見方 ・運動制御の諸理論と姿勢の安定性 ・姿勢制御のメカニズム	・多様な姿勢を知り、姿勢と重心の関係や姿勢観察について理解する。 ・運動制御や姿勢制御システムの理論について理解する。	隈元
16-18	筋力	・筋の構造、機能 ・筋機能評価（筋活動、筋力など） ・筋力トレーニング	・筋の構造、機能的な特徴、収縮様式などについて理解する。 ・筋活動や筋力の評価、トレーニングについて理解する。	伊藤
19-21	運動学習	・運動と学習の関連（学習と記憶、運動技能） ・運動学習の諸理論、神経機構	運動学習を理解する。	山田
22-24	エネルギー代謝、運動処方	・エネルギー代謝、運動処方	有酸素運動と無酸素性エネルギー代謝、運動処方の原理について理解する。	信太
25-45	演習 1-9	以下の 1-7 項目の演習を実施する。 1. 運動学習課題 2. 立ち上がり動作 3. 歩行 4. バランス 5. 関節運動 6. 筋機能 7. 生体力学	・各演習項目における課題内容を理解をする。 ・各演習項目における課題内容を実施できる。 ・各演習を通して、演習結果をまとめ、考察できる。	伊藤 世古 隈元 山田 山中 佐藤 久保

評価方法	レポート課題 60%、筆記試験 30%、講義に対する姿勢 10%
課題に対するフィードバック	講義・演習内容の理解といった課題について、講義・演習中、講義・演習終了後に質問を受け、回答する(フィードバック)。 レポート課題、筆記試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	隈元庸夫・著『症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作』ヒューマンプレス、2017 年 中村隆一、他・著『基礎運動学（第 6 版補訂)』医歯薬出版株式会社、2003 年
参考図書	小柳 磨毅、他・編『PT・OT のための運動学テキスト』金原出版、2015 年 小島悟、他・編『15 レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト理学療法・作業療法テキスト運動学実習』中山書店、2016 年
学習の準備	1　（予習）運動学の内容および教科書の該当箇所を熟読しておくこと（30 分） 2　（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（30 分）
オフィスアワー	月曜日～金曜日の 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可能。 （※複数教員が担当する科目であり、教員によって上記時間帯においても不在の場合もある）
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	伊藤俊輔・世古俊明・隈元庸夫・信太雅洋・佐藤公博は、民間病院で日常動作における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 久保勝幸・山田恭平は、民間病院で日常動作における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	人間発達学	担当教員	小塚 直樹 佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13C	③、⑤

科目概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程や一つ一つの現象のメカニズムを学習することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学習する。
学習目標	人間の身体、運動、精神的発達を学習し、発達期に生じる障害との関係について理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	身体的発達1	総論　発達の特性　小児期の分類 受精から出生までの発達過程	人間の発達の特性、小児期の分類について理解する。 受精～出生過程、胎児発達に影響を与えるリスク因子、分娩・出生時の異常・合併症などについて理解する。	
2	身体的発達２	新生児の体格・発育評価 粗大運動の発達段階	新生児の平均的な体格、生後の発育評価、粗大運動の発達段階について理解する。	
3	身体的発達３	出生からの乳幼児期における脳の成熟と姿勢反射・反応、粗大運動発達との関連	中枢神経の成熟と姿勢反射・反応、粗大運動発達との関連について理解する。	
4	身体的発達４	姿勢別に見た粗大運動の発達過程 微細運動（手）の発達過程・粗大運動発達との関連	粗大運動について姿勢別に見た発達過程を理解し、微細運動（手）の発達過程との関連について理解する。	
5	精神的発達１	乳児期～老年期の精神的発達	乳児期から老年期の精神的発達過程の概要を理解する。	
6	精神的発達２	視覚、認知機能の発達過程	視覚、認知機能の発達過程について理解する。	
7	精神的発達３	情緒、社会性、言語機能の発達過程	情緒、社会性、言語機能の発達過程について理解する。	
8	精神的発達４	精神的発達に関連する各機能と発達期に生じる障害	精神的発達に関連する各機能と発達期に生じる障害との関係について理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	細田多穂（監）、他・著『人間発達学」：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト』南江堂、2014 年
参考図書	特に指定しない。

学習の準備	1.（予習）次回のテキスト等の通読と用語の確認をする（2 時間）。 2.（復習）講義内容の理解／不十分である箇所を明確にし、不十分な箇所は担当教員に質問できるよう準備する（2 時間）。
オフィスアワー	火曜日～金曜日　13 時～17 時　随時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	健康増進障害予防概論	担当教員	世古 俊明 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13CD	④、⑤、⑥

科目概要	リハビリテーションの概念である医学的、社会科学的の側面を踏まえて、健康増進、障害予防、介護予防に関して、安全・管理・運営とその予防に関して理解する。
学習目標	①　ヘルスプロモーションに関して説明できる。 ②　フレイル（虚弱）の概念とその予防を説明できる。 ③　各種疾患とその予防と健康増進を説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論．1	健康増進・障害予防とは フレイル（虚弱）の概念とその予防.	健康増進や障害予防に対する予防医学の概念やフレイルに対す予防の理念とその方法に関して理解する。	
2	総論．2	健康増進と社会保障論 健康増進のための栄養学	健康増進のための社会保障制度を理解する。 健康増進のための栄養に関して理解する。	
3	健康増進．1	運動器疾患の障害予防と健康増進①	運動器疾患（骨粗鬆症）とその障害予防と健康増進を理解する。	
4	健康増進．2	運動器疾患の障害予防と健康増進②	運動器疾患（転倒骨折、変形性関節症など）とその障害予防のための健康増進を理解する。	
5	健康増進．3	心・循環器系疾患の障害予防と健康増進①	心・循環器系疾患（動脈硬化、心不全など）とその障害予防ための健康増進を理解する。	
6	健康増進．4	心・循環器系疾患の障害予防と健康増進②	心・循環器系疾患（高血圧）とその障害予防ための健康増進を理解する。	
7	健康増進．5	代謝障害疾患の障害予防と健康増進①	代謝障害疾患（高脂血症など）とその障害予防ための健康増進を理解する。	
8	健康増進．6	代謝障害疾患の障害予防と健康増進②	代謝障害疾患（糖尿病など）とその障害予防ための健康増進を理解する。	
9	健康増進．7	脳血管疾患の障害予防と健康増進①	脳血管疾患の成因とその障害予防のための健康増進を理解する。	
10	健康増進．8	脳血管疾患の障害予防と健康増進②	脳卒中片麻痺とその障害予防のための健康増進を理解する。	
11	健康増進．9	心と脳の健康増進①	睡眠障害とその障害予防のための健康増進を理解する。	
12	健康増進．10	心と脳の健康増進②	うつ病とその障害予防のための健康増進を理解する。	
13	健康増進．11	心と脳の健康増進③	認知症とその障害予防のための健康増進を理解する。	
14	健康増進．12	子どもの健康	子どものロコモティブシンドロームと障害予防のための健康増進を理解する。	

15	まとめ	健康増進と障害予防とヘルスプロモーションの展望	我が国の現状から、今後の健康増進と障害予防、さらにヘルスプロモーションに関しての展望を考察する。	

評価方法	筆記試験（90%）授業における応答・態度などの講義への関心度（10%）
課題に対するフィードバック	講義中および講義終了後、質問を受け付けて回答する。 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	特に指定しない（資料配布）
参考図書	『個別機能訓練指導マニュアル - 厚生労働省老人保健健康増進等事業研究報告のガイドラインに基づく』
学習の準備	特に予習は必要ないが復習は必須となるので、講義で理解が不十分である箇所を明確にして、次の講義で質問できるように準備などをすること（計 4 時間）
オフィスアワー	月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業療法評価学（身体・老年期障害）	担当教員	山田 恭平 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR12AE	①、②、③、④、⑤

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで、本講義では身体および老年期障害領域における評価の過程・手段・目的について理解を深め、対象者の全体像を把握するために必要な国際機能分類（ICF）分類について学習する。
学習目標	①　作業療法評価の過程・手段・目的を理解する。 ②　国際機能分類（ICF）分類による生活機能・障害の捉え方および統合解釈について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	評価学総論	作業療法評価の目的・意義・手段・過程	作業療法評価の目的・意義・手段・過程について理解する。	
2	国際機能分類	国際機能分類（ICF）の概念、用語、生活機能（障害）の捉え方について	国際機能分類の概念、用語、生活機能（障害）の捉え方について理解する。	
3	検査・測定１	関節可動域測定の基本的な検査・測定について	ROM 検査・測定の概要を理解する。	
4	検査・測定２	筋力検査の基本的な検査・測定について	MMT 検査・測定の概要を理解する。	
5	面接・観察１	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について理解する。	
6	面接・観察２	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について	評価手技としての面接と観察の視点、注意事項について理解する。	
7	評価の流れ	トップダウンとボトムアップアプローチ	トップダウンとボトムアップアプローチについて理解する。	
8	事例検討	ICF に基づく事例を通した全体像の理解	事例を通して、ICF の理解を深める。	

評価方法	筆記試験 50%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	限元庸夫・編『臨床 ROM 測定からエクササイズまで』ヒューマンプレス 津山直一・他（訳）『新・徒手筋力検査法　原著第 10 版』協同医書出版社、2020 年
参考図書	『図解作業療法技術ガイド』文光堂 『DVD　Series2　PT・OT のための測定評価　形態測定・反射検査』三輪書店 『神経診察クローズアップ』メジカルビュー社 『作業療法評価学 第 3 版』医歯薬出版
学習の準備	1．（予習）次回の範囲について教科書、資料などで確認し、用語等を確認する（2 時間） 2．（復習）講義内容について提示したワークブックを使って復習をする（2 時間）
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時、その他在室時はいつでも可能

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	現代の社会と人間	担当教員	佐藤 公博 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	2年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2C0111	④、⑤、⑥

科目概要	「現代」の「社会」と「人間」のかかわりについて学ぶ。「社会」とは何か、という問いに対して多様な接近があることを前提にして、近代から現代へどのように社会が推移してきたのかを「自由」と「平等」という概念に向き合い、共に考える。そのうえで現代社会が抱える問題について考える。
学習目標	① 社会と人間のかかわりについて、近代から現代への推移を理解する。 ② 現代社会が抱える問題と医療とのかかわりを考え、「社会が求める医療者像」を描くことができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	「社会」とは何か～近代から現代への推移	近代から現代への推移を理解し、社会とはなにか、という問いへの構えを持つことができる。	
2	各論1	「社会」と「人間」のかかわり(1)	社会と人間のかかわりについて、理解する。	
3	各論2	「社会」と「個人」のかかわり(2)	「個人」という概念の始まりと、社会とのかかわりについて理解する。	
4	各論3	民主主義と現代社会(1)	自由主義と民主主義について、その本質を理解し、医療における具体的実践について理解する。	
5	各論4	民主主義と現代社会(2)	自由と平等は両立できるか、自己決定とは何かについて理解できる。	
6	各論5	現代と社会問題(1) 医療・保健・福祉制度	米国型と欧州型の制度を比較し、日本の医療制度改革の今後の流れを考える。	
7	各論6	現代と社会問題(2) 少子高齢社会	少子高齢社会の問題の本質を考える。	
8	各論7	現代と社会問題(3) 知識社会と情報社会	情報化によって社会と個人のかかわりが変化してきたこと、将来どのような社会で医療者として患者と向き合うのか、これまで学んだことをふまえて考える。	

評価方法	授業内での演習(50%)、筆記試験(50%)
課題に対するフィードバック	授業中・終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。授業内で資料を配布する。
参考図書	適宜、授業内で提示する。
学習の準備	(予習) 主な学習内容・到達目標を読み、用語を調べる。(2時間)。 (復習) 理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にする。授業で考えたこと、新たに気づいたことを振りかえり、関連する項目について文献を読み、学んだことをノートにまとめる(2時間)。

オフィスアワー	水曜日　13:00~14:30
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	文化人類学	担当教員	内藤 順子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2B0131	①、④、⑥					

科目概要	文化人類学とはフィールドワークから得られる知見にもとづいて、様ざまな人間現象をとらえる方法的学問である。本講義では世界のいろいろな現象や「伝統」や「文化」を参照し、それらの比較・これまでなされてきた分析や解釈の検証をとおして、われわれの常識や価値観、世界の在りかたをあらためて見直す。異なる文化あるいは他者と共生するとき・対峙するときの問題はいかなるものか、グローバルスタンダードとは何か、文化差はなぜ生じるかなどについて考察する。
学習目標	各回いずれも対語をトピックとしているが、こうした二分法的に世界を区切ることはどこまで妥当なのか。人類学的なものの考えかたをとおして、履修者それぞれが「自らの常識を疑うこと・他者を理解すること、とはどのようにしたら可能か」という問いの答えにたどり着くことを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	文化人類学とは	人類学のはじまり、異文化理解と他者理解	人類学的思考の特徴を理解する。	
2	のろいと祈り	のろいは非科学か、善悪の境界とは、災因論	われわれが合理的だと考えている事例の根拠や前提を疑う癖を身につける。	
3	未開と文明	民間医療と西洋医学	世界における多様な医療行為について知識を得る。	
4	排除と包摂	差別問題（障害、認知症、性同一性障害、統合失調症）、当事者問題	差別の現実を学び、差別が生み出される構造について理解する。	
5	病と健康	文化結合症候群、「病気になる」とはどういうことか	病を社会・文化的現象としてとらえなおす視点を養う。	
6	途上国と先進国	開発現場における人類学的思考の応用と実践（1）	医療技術移転プロジェクト（地域リハ）の実際について学び、問題の所在を理解する。	
7	成果主義と経過主義	開発現場における人類学的思考の応用と実践（2）	医療開発援助の現場において科学技術至上主義という勘違いがもたらす弊害について理解する。	
8	豊かさと貧しさ	「環境世界」「共同幻想」「境界・分類・秩序」、他者にかかわるために必要な視点・構え・備え	流動的な世界、人間という可変的なものについてとらえる方法を体得し、他者理解しようと務めることをとおして自己を見つめなおす。	

評価方法	レポート 90%、講義に対する姿勢 10%
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成資料
参考図書	適宜講義中に指示する。
学習の準備	事前に指示・配布する資料に目を通すこと（計 4 時間）

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学Ⅱ （内蔵・脈管系）	担当教員	信太 雅洋※ 森野 陽※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2E0312	②、③、④、⑤					

科目概要	「人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）」で学習した基礎的な知識を基に、生命が恒常性を維持する仕組みを更に深く理解しイメージ体験することを目的とする。本科目では生体内部の構造と働きについて、特に呼吸循環器系について、心電図計測や呼吸機能検査、血圧・脈拍・呼吸数などのバイタルサイン測定など、学生同士での演習を通して、各種バイタルサインの意義や理論的考察、生命の恒常性の理解を深め、知的探究心を醸成する。
学習目標	① 血圧、脈拍、呼吸数などのバイタルサインについて理解する。 ② 心電図について理解を深める。 ③ 呼吸機能検査について理解を深める。 ④ 安静時と運動時の呼吸循環応答を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション バイタルサイン概論	オリエンテーション バイタルサイン概要	バイタルサインについて理解する。	信太 森野
2	バイタルサイン(2)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
3	バイタルサイン(3)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
4	バイタルサイン(4)	脈拍・血圧	収縮期血圧、拡張期血圧の理解を深める。 血圧測定の仕組みを理解する。 安静時と運動時の血圧違いを理解する。	信太
5	肺の構造 気管支の構造(1)	肺区域	それぞれの肺区域と位置関係を理解する。	森野
6	肺の構造 気管支の構造(2)	区域気管支の分岐方向	区域気管支の位置と方向を理解する。	森野
7	呼吸機能検査(1)	拘束性換気障害、閉塞性換気障害	肺気量分画について理解を深める。拘束性換気障害、閉塞性換気障害について理解を深める。	森野
8	呼吸機能検査(2)	フローボリューム曲線	フローボリューム曲線の理解を深め、疾患の特性を理解する。	森野
9	呼吸様式	安静時の呼吸と運動後の呼吸	運動時の呼吸ならびに運動終了後の呼吸を理解する。	森野
10	心電図(1)	心電図の成り立ち	心臓内興奮伝導系のメカニズムと各波形の成り立ちと意味を理解する。	信太
11	心電図(2)	正常心電図	12 誘導心電図の各誘導の成り立ちと意味を理解する。実際の心電図を読影する。	信太
12	心電図(3)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太
13	心電図(4)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太

14	心電図(5)	心電図測定	心電図の測定演習を通して理解を深める。	信太
15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。	信太 森野

評価方法	レポート 80%　授業における応答・態度など講義への取り組み 20%
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	F.H.マティーニ・他『カラー人体解剖学　構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年 高邑冨久子・著『シンプル生理学　改訂第 7 版』南江堂、2016 年
参考図書	松村謙兒・著『イラスト解剖学』中外医学社、2017 年 本郷利憲、他・編『標準生理学』医歯薬出版、2014 年
学習の準備	1　（予習）人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）での講義内容を復習しておくこと（30 分） 2　（復習）授業中に配布した資料を見直し、理解を深めること（30 分）
オフィスアワー	月・火・木・金曜日 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	信太雅洋・森野陽は、民間病院で呼吸器系ならびに循環器系における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	老年学	担当教員	伊藤 俊一 ※は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2E0351	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	加齢に伴う生理的かつ精神心理的な変化を学び、高齢者を取り巻く社会構造や各種制度に加え、運動および生活能力の向上や高齢者の幸福な自分らしい生活の医学的な対応について理解する。
学習目標	① 高齢者と老年症候群に関して理解する。 ② 高齢者の社会保障の概要を説明できる。 ③ 加齢に伴う身体および精神の変化とセラピストとしての対応を説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	老年期の理解	老化とサルコペニア（虚弱）および老年症候群 高齢者の社会保障制度	老化とサルコペニア（虚弱）および老年症候群、その社会保障制度に関して理解する。	
2	老年期の身体変化とその障害．1	高齢者と転倒（骨折）、失禁、その他のリスク	高齢者の転倒、失禁、その他のリスクの成因とその予防に関して理解する。	
3	老年期の身体変化とその障害．2	高齢者と生活習慣病	高齢者の生活習慣病の成因とその予防に関して理解する。	
4	老年期の身体変化とその障害．3	高齢者と脳卒中	高齢者の脳卒中の成因とその予防に関して理解する。	
5	老年期の精神心理的変化とその障害．1	高齢者と睡眠障害	高齢者の脳血管障害の成因とその予防に関して理解する。	
6	老年期の精神心理的変化とその障害．2	高齢者とうつ病	高齢者のうつ病の成因とその予防に関して理解する。	
7	老年期の精神心理的変化とその障害．3	高齢者と認知症	高齢者の認知症の成因とその予防に関して理解する。	
8	老年期の障害予防	老年期に好発・多発する症候や疾患およびその特徴とその予防	老年期の障害の特徴とその予防について総合的に理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義中および講義終了後、質問を受け付けて回答する。 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	配布資料
参考図書	島田裕之・編『フレイルの予防とリハビリテーション』医歯薬出版、2015 年 島田裕之・総編『高齢者理学療法学』医歯薬出版、2017 年
学習の準備	1. 高齢者を取り巻く社会的事象について、ニュースや新聞にも目を通しておくこと（2 時間） 2. 講義で理解が不十分である箇所を明確にして、次の講義で質問出来るように準備などをすること（2 時間）
オフィスアワー	毎週火曜日～金曜日　8：30～17：00

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	精神障害基礎論	担当教員	荻野 裕介 松田 竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0371	①、②、③、④、⑤					

科目概要	近年患者数が増加し「５大疾病」に加えられることになった精神疾患ならびにその障害の知識は国民の健康へのアプローチに際して理解が急務で、かつ重要度の高いものである。近年は気分障害や統合失調症の生活障害と当事者の予防・精神科リハビリテーションへの注目も集まり体系的な学びが必要であることから、本講義では各種の症候学、症状学など、対象者理解につながる基本的な知識と、役立つ支援につながる実例的なポイントを学習する。
学習目標	①　精神障害における異常心理及び症状、検査、診断、疾患分類について説明できる。 ②　主たる精神疾患の概念、疫学、診断、治療について説明できる。 ③　向精神薬の種類とそれらの作用機序について説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	精神医学とは何か	医学において精神医学の占める位置を確認し、精神医学の歴史と現状を展望する。診断法や国際分類についての基本的な考えを学ぶ。	
2	気分障害　不安障害と関連事項	障害の概念、疫学、症状、診断、治療	気分障害について疫学、症状、推定される成因などについて学ぶ。神経症と呼ばれる疾患群を不安障害としてとりあげ、パニック障害、強迫性障害、恐怖症を理解する。	
3	身体疾患による精神障害	症状性精神病、器質性精神病、てんかん	代表例を通じてその特徴の理解と現代における意義を考える。てんかんについても理解する。	
4	小児期精神障害	広汎性発達障害、自閉症障害、学習障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、精神遅滞	小児期からの障害や小児期に明らかとなる広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害を理解する。	
5	思春期・青年期精神障害　壮年期精神障害	パーソナリティ障害、摂食障害 心身症、アルコール依存症、物質関連障害	この時期に特徴的な疾患としてパーソナリティ障害と摂食障害をとりあげ、概念、症状、診断、治療を理解する。心身症とアルコール依存症をとりあげ、概念、症状、今日の現状を理解する。	
6	老年期精神障害	老年期認知症、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、うつ病	作業の選択、介入方法、集団の利用の有無と目的、場所の選択、頻度や期間の設定について理解する。	
7	統合失調症	統合失調症についての障害の概念、疫学、症状、病型、成因、社会生活場面の特徴	概念、疫学、症状、病型、成因、社会生活場面の特徴について理解する。	
8	統合失調症	統合失調症についての経過と予後、鑑別、治療とリハビリテーション、近年の動向	経過と予後、鑑別、治療とリハビリテーション、近年の動向について理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	上野 武治・著『標準理学療法・作業療法学　精神医学第 4 版増補版』医学書院、2021 年
参考図書	大熊 輝雄・著『現代臨床精神医学　第 12 版』金原出版、2013 年 森皆ねじ子・著『ねじ子が精神疾患に出会ったときに考えていることをまとめてみた』照林社、2020 年

学習の準備	予習：教科図書を通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	非常勤講師は、講義の前後とする。 上記講師は、毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	医学概論	担当教員	森 満 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2F0391	④、⑤、⑥

科目概要	医学・医療の分野に関する多方面からの論述を理解する。また、これからの医学・医療に求められるものや進むべき方向性を常に考える動機を醸成する。
学習目標	医学・医療の学習では、医学・医療の分野に関する多方面からの論述について、理解し、暗記し、確認する（リ・ア・カ）の作業が必要である。このコースでは、その学習方法の訓練をし、訓練が十分に達成されているという評価を受けることを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	生命の形成・人類の誕生	生命の形成・人類の誕生に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	生命の形成・人類の誕生に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
2	基礎医学の進歩	基礎医学の進歩に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	基礎医学の進歩に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
3	予防医学・健康増進	予防医学・健康増進に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	予防医学・健康増進に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
4	科学技術・医療技術論	科学技術・医療技術論に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	科学技術・医療技術論に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
5	保健医療福祉の社会政策	保健医療福祉の社会政策に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	保健医療福祉の社会政策に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
6	産業保健・労働衛生問題	産業保健・労働衛生に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	産業保健・労働衛生に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
7	生活環境・地球環境問題	生活環境・地球環境問題に関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	生活環境・地球環境問題に関して紹介する書籍の論点を説明できる。	
8	患者・障害者・高齢者のケア	患者・障害者・高齢者に対するケアに関する書籍の紹介を通じて、それらの論点を説明する。	患者・障害者・高齢者に対するケアに関して紹介する書籍の論点を説明できる。	

評価方法	筆記試験（穴埋め問題 100%）
課題に対するフィードバック	各回とも講義内容に関する資料と問題集を配布する。その中には、関連する穴埋め問題が含まれている。講義を受講して問題に正解できるようになること。試験によって、講義内容の理解度を判定する。
教科図書	毎回、講義資料と問題集を配布する。
参考図書	1 講義当たり 10 冊、合計で 80 冊の書籍を紹介する。
学習の準備	（予習）医学・医療に関するさまざまな書籍を幅広く読んでおく（2 時間）。 （復習）講義で配布した資料と問題集を復習する（2 時間）。
オフィスアワー	月曜日から金曜日までの午前 9 時～午後 5 時。その他在室時はいつでも可能。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	周術期医療基礎論	担当教員	森野 陽 佐藤 明紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0411	②、③、⑥					

科目概要	近年、周術期医療におけるリハビリテーションの必要性が高まっている。本科目では周術期医療におけるチーム医療ならびに代表的な疾患における周術期医療について学び、リハビリテーション職種としての周術期医療の役割に対する理解を深めることを目的とする。（オムニバス／全8回）
学習目標	① 周術期領域におけるチーム医療について理解できる。 ② 疾患ごとの周術期医療について理解できる。 ③ 周術期医療におけるリハビリテーション評価について理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	オリエンテーション、周術期医療の概要 周術期におけるチーム医療	周術期のチーム医療における各職種の役割について理解できる。	
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法と AED その他代表的な周術期の医療機器	心肺蘇生法ならびに AED の取り扱い方を知る。 周術期において用いられることの多い医療機器について理解できる。	
3	胸部疾患、腹部疾患の周術期	胸部疾患、腹部疾患に関する周術期医療	胸部疾患、腹部疾患における周術期医療について理解できる。	
4	集中治療	集中治療によってもたらさせる病態	ICU Acquired Weakness、Post ICU syndrom を中心に、集中治療によってもたらされる病態について理解できる。	
5	がんの周術期	がん患者（上皮性、非上皮性、造血由来）の特徴について	がん患者（上皮性、非非上皮性、造血由来）の特徴について理解ができる。	
6	周術期の評価	周術期に必要な評価について	周術期に必要な評価について理解できる。	
7	リンパ浮腫	リンパ浮腫に必要な評価と治療法について	リンパ浮腫の評価と治療法を理解できる。	
8	リスク管理	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法について	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法が理解できる。	

評価方法	筆記試験 50%、レポート課題 50%
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験・課題の解説などは、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	教員作成資料
参考図書	日本リハビリテーション医学会『がんのリハビリテーション診療ガイドライン第 2 版』金原出版、2019 年 日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会『周術期管理チームテキスト第 4 版』日本麻酔科学会、2021 年 一般社団法人日本集中治療医学会編、『集中治療における早期リハビリテーション　根拠に基づくエキスパートコンセンサス　ダイジェスト版』、2017 年 日本集中治療医学会 集中治療 PT・OT・ST 委員会　『理学療法士集中治療テキスト』、2023 年
学習の準備	（予習・復習）授業中に配布した資料を用いて、予習復習を行い、理解を深めること（計 4 時間）

オフィスアワー	非常勤講師は講義の前後。 常勤講師は、講義日の 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	内部障害基礎論	担当教員	森野 陽 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2F0421	③

科目概要	心・肺・腎といったリハビリテーションでかかわることが多い内科疾患全般について、原因、病態を学び、その発生機序および過程を学習する。またそれぞれの疾患における、診断基準、理学的検査、生理検査、臨床症状について学ぶ。さらに内科疾患による障害像を理解し、各疾患の治療ならびにその中におけるリハビリテーションの基礎的理解を深める。
学習目標	リハビリテーションに関連する呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、消化器疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患、代謝疾患、腎疾患、内分泌疾患に関する病態ならびに症状を理解し、説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 呼吸器疾患(1)	オリエンテーション、内部障害の概要、呼吸器感染症の病態と症状	内部障害の概要、呼吸器感染症の病態と症状を理解できる。	
2	呼吸器疾患(2)	呼吸不全、COPD の病態、症状	呼吸不全、COPD の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
3	呼吸器疾患(3)	喘息、間質性肺炎、気胸、肺結核後遺症の病態と症状	喘息、間質性肺炎、気胸、肺結核後遺症の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
4	呼吸器疾患(4)	誤嚥性肺炎、医療介護関連肺炎、その他の呼吸器疾患の病態と症状	誤嚥性肺炎、医療介護関連肺炎、その他の呼吸器疾患の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
5	循環器疾患(1)	心不全、虚血性心疾患の病態と症状	心不全、虚血性心疾患の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
6	循環器疾患(2)	弁疾患、不整脈の病態と症状	弁疾患、不整脈の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
7	循環器疾患(3)	大血管疾患、末梢性動脈疾患、深部静脈血栓症の病態と症状	大血管疾患、末梢性動脈疾患、深部静脈血栓症の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
8	循環器疾患(4)	先天性心疾患の病態と症状、呼吸困難、浮腫	先天性心疾患の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。呼吸困難、浮腫のメカニズムを理解できる	
9	まとめ(1)	呼吸器疾患、循環器疾患に関するまとめ	呼吸器疾患、循環器疾患について試験を通じて理解を深める	
10	血液疾患	血液疾患の病態と症状	貧血、多血症、血友病、白血病などの病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	

11	消化器疾患	肝炎、消化管疾患の病態と症状	肝炎、消化管疾患の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
12	アレルギー疾患、自己免疫疾患	アレルギー性疾患、自己免疫疾患の病態と症状	アレルギー性疾患、リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
13	代謝疾患 腎疾患	糖尿病の病態と症状 ネフローゼ症候群、腎不全の病態と症状	糖尿病の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。 ネフローゼ症候群、腎不全の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
14	内分泌疾患	甲状腺疾患、視床下部疾患、下垂体前葉疾患の病態と症状	甲状腺疾患、視床下部疾患、下垂体前葉疾患の病態、検査、症状ならびにリハビリテーションの位置づけを理解できる。	
15	まとめ(2)	血液疾患、消化器疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患、代謝疾患、腎疾患、内分泌疾患に関するまとめ	国家試験の過去問題を通じて、それぞれの疾患の理解を深める	

評価方法	筆記試験 100%（中間 50%、期末 50%）
課題に対するフィードバック	1 講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説などは、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	永井 利幸、他・著『病気がみえる vol.2 循環器 第 5 版』株式会社メディックメディア、2021 年 巽 浩一郎、他・著『病気がみえる vol.4 呼吸器 第 3 版』株式会社メディックメディア、2018 年
参考図書	福本 陽平、他・著『病気がみえる vol.1 消化器』株式会社メディックメディア、2016 年 橋詰 直孝、他・著『病気がみえる vol.3 糖尿病･代謝･内分泌』株式会社メディックメディア、2014 年 増田 亜希子、他・著『病気がみえる vol.5 血液』 株式会社メディックメディア、2017 年 森尾 友宏、他・著『病気がみえる vol.6 免疫･膠原病･感染症』株式会社メディックメディア、2009 年 池森(上條)敦子、他・著『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』株式会社メディックメディア、2014 年
学習の準備	1 （予習）指定した教科書について予習しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、理解を深め、暗記すべきことを暗記すること（2 時間）
オフィスアワー	講義実施日の 16 時 30 分から 18 時 00 分
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	運動器障害基礎論	担当教員	小林 巧 角瀬 邦晃 大坪 英則 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	3単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0431	③					

科目概要	整形外科領域における代表的な疾患の病態、診断、治療について解説する。また、整形外科疾患と理学療法士および作業療法士の関わりについて解説する。
学習目標	① 整形外科領域における代表的な疾患の病態と治療を理解する。 ② 整形外科疾患と理学療法士・作業療法士の関わりについて理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 1	整形外科の基礎科学	整形外科の基礎科学について理解する。	
2	総論 2	整形外科診断総論 1	整形外科の診断について理解する。	
3	総論 3	整形外科治療総論 2	整形外科治療について理解する。	
4	疾患総論 1	関節リウマチとその類縁疾患	関節リウマチとその類縁疾患について理解する。	
5	疾患総論 2	関節症、循環障害、壊死性疾患	変形性関節症とその類縁疾患、四肢循環障害と阻血性壊死疾患について理解する。	
6	疾患総論 3	代謝性骨疾患、先天性疾患、ロコモティブシンドローム	代謝性骨疾患、先天性疾患、ロコモティブシンドロームについて理解する。	
7	疾患各論 1	肩関節疾患と外傷の病態	肩関節の構造と機能を説明できる。 肩関節疾患・外傷について理解する。	
8	疾患各論 2	肘関節疾患と外傷の病態	肘関節の構造と機能を説明できる。 肘関節疾患・外傷について理解する。	
9	疾患各論 3	手関節疾患と外傷の病態	手関節と手の構造と機能を説明できる。 手関節疾患・外傷について理解する。	
10	疾患各論 4	手の疾患と外傷の病態	手の疾患・外傷について理解する。	
11	疾患各論 5	頚椎疾患と外傷の病態	脊柱の構造と機能を説明できる。 頚椎疾患・外傷について理解する。	
12	疾患各論 6	胸郭、胸椎疾患と外傷の病態	胸郭、胸椎疾患・外傷について理解する。	
13	疾患各論 7	腰椎疾患と外傷の病態	腰椎疾患・外傷について理解する。	
14	疾患各論 8	股関節疾患と外傷の病態 1	股関節の構造と機能を説明できる。 股関節疾患・外傷について理解する。	

15	疾患各論 9	股関節疾患と外傷の病態 2	股関節疾患・外傷について理解する。	
16	疾患各論 10	膝関節疾患と外傷の病態 1	膝関節の構造と機能を説明できる。 膝関節疾患・外傷について理解する。	
17	疾患各論 11	膝関節疾患と外傷の病態 2	膝関節疾患・外傷について理解する。	
18	疾患各論 12	足関節疾患と外傷の病態 1	足関節の構造と機能を説明できる。 足関節疾患・外傷について理解する。	
19	疾患各論 13	足部の疾患と外傷の病態 2	足部の疾患・外傷について理解する。	
20	外傷学 1	外傷総論・軟部組織損傷	外傷・軟部組織損傷について理解する。	
21	外傷学 2	脊髄損傷、末梢神経損傷	脊髄損傷、末梢神経損傷について理解する。	
22	スポーツ 1	上肢・体幹のスポーツ損傷	上肢・体幹のスポーツ傷害について理解する。	
23	スポーツ 2	下肢のスポーツ損傷	下肢のスポーツ傷害について理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	井樋栄二、他・編『標準整形外科学　第 14 版』医学書院、2020 年
参考図書	講義の中で、適宜紹介する。
学習の準備	1 （予習）指定した教科書、もしくは事前に配布した資料について予習しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	中枢神経障害基礎論	担当教員	久保田 健太 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0441	③、④、⑤					

科目概要	中枢神経を対象として、各神経疾患における特異的な主要症侯、補助検査などについて解説する。さらに、リハビリテーション(理学療法、作業療法の対象となる、日常臨床で遭遇する可能性の高い神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病、小脳系疾患、認知症)を中心に、その病因、病態、診断、治療について学習し各疾患への理解を深めることを目的とする。
学習目標	① 主たる中枢神経障害の病態を理解する。 ② 神経疾患の成因について解剖生理学知識と結びつけて理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	神経の解剖生理学	神経系の解剖学・生理学理解する。	
2	総論	神経の解剖生理学	神経系の解剖学・生理学理解する。	
3	総論	神経の解剖生理学	神経系の解剖学・生理学理解する。	
4	総論	神経の解剖生理学	神経系の解剖学・生理学理解する。	
5	総論	CT や MRI などの画像	CT や MRI などの画像の見方を理解する。	
6	脳血管障害	脳血管障害の分類、病態、診断、治療	脳血管障害の分類、病態、診断、治療を理解する。	
7	脳血管障害	脳血管障害の分類、病態、診断、治療	脳血管障害の分類、病態、診断、治療を理解する。	
8	脳血管障害	脳血管障害の分類、病態、診断、治療	脳血管障害の分類、病態、診断、治療を理解する。	
9	脳血管障害	脳血管障害の分類、病態、診断、治療	脳血管障害の分類、病態、診断、治療を理解する。	
10	認知症	認知症の分類、病態、診断	認知症の分類、病態、診断を理解する。	
11	認知症	認知症に対する治療	認知症に対する治療を理解する。	
12	パーキンソン病	パーキンソン病およびパーキンソンニズムの病態、診断	パーキンソン病およびパーキンソンニズムの分類、病態、診断を理解する。	
13	パーキンソン病	パーキンソン病およびパーキンソンニズムに対する治療	パーキンソン病およびパーキンソンニズムに対する治療を理解する。	
14	小脳系疾患	小脳系疾患の分類、病態、診断	小脳系疾患の分類、病態、診断を理解する。	

15	小脳系疾患	小脳系疾患に対する治療	小脳系疾患の治療を理解する。	

評価方法	試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	なし
参考図書	落合慈之・著『脳神経疾患ビジュアルブック』学研メディカル秀潤社、2009 年 Eric R. Kandel et al ・著『カンデル神経科学』メディカル・サイエンス・インターナショナル、2014 年
学習の準備	授業終了後は、各回授業内容とこれまで既習した基礎科目を合わせて復習すること（計 4 時間）
オフィスアワー	木曜日以外の 11 時半から 13 時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	発達障害基礎論	担当教員	小塚 直樹 佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0451	③、⑤					

科目概要	発達期に生じた障害を持つ小児に対して、臨床場面でリハビリテーションを行うために、小児期の代表的疾患の病態を理解しリハビリテーションに応用でき、発達障害の概念、視点を理解する。また、障害を乗り越えて社会への適応を図ろうとする対象児を支援する上で、医学的視点のみならず、心理、社会、教育的視点も理解して幅広い視野を養う。
学習目標	① 発達障害の概念、視点、小児リハビリテーションの留意点を理解する。 ② 発達期に生じる代表的疾患の病態を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	各論	小児科学概論・診断と治療の概要	コメディカルに必要な小児科学概論について理解するとともに、病態の診断と治療の概略について学習し、理解する。	
2	各論	筋ジストロフィーの診断と治療	筋ジストロフィーの遺伝形式からみた分類とそれぞれの筋ジストロフィーの症候と原因を理解する。	
3	各論	内分泌・代謝疾患	成長期に作用する各種ホルモン、インスリンの働きについての生理学の知識を整理しながら、各疾患の病態を理解する。	
4	各論	胎児循環と先天性心疾患	胎児循環の特徴を成人循環と対比して理解する。先天性心疾患の症状を循環動態から理解する。	
5	各論	新生児・未熟児疾患について	周産期～新生児期の特徴、新生児・未熟児の代表的な疾患、早期リハビリテーションの意義について理解する。	
6	各論	肢体不自由児総論 脳性麻痺について	手足の不自由な子ども達のリハビリテーションの概要を理解する。 脳性麻痺の定義、代表的なタイプと特徴、合併する問題について理解する。	
7	各論	二分脊椎・主要な合併症について	二分脊椎、および主要な合併症について理解する。	
8	各論	神経発達症群について	神経発達症群の概念について理解する。 神経発達症群に分類される各障害の定義、含有する問題について理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	冨田豊・編『標準理学療法学．作業療法学専門基礎分野　小児科学第 5 版』医学書院、2018 年
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1.（予習）次回のテキスト等の通読と用語の確認をする（2 時間）。 2.（復習）講義内容の理解／不十分である箇所を明確にし、不十分な箇所は担当教員に質問できるよう準備する（2 時間）。

オフィスアワー	火曜日～金曜日　13時～17時　随時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床心理学	担当教員	山田　仁子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開　講　専　攻	分　野	種　別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2F0471	①、②、③					

科　目　概　要	臨床心理学についての学びは、心理臨床での実践だけでなく、リハビリテーションの臨床場面、日常の対人関係、ストレス対処、メンタルヘルスセルフケアなど、幅広く有用である。本講義では臨床心理学の基礎的について学ぶ。心理査定は関連領域のなかで取り上げる。講義はアクティブラーニングを取り入れた構成を用い、受講生が主体的に考えることを重視する。理論に触れた後、各自で取り組むワーク、ディスカッションなどを通して理解を深めていく。
学　習　目　標	臨床心理学の基本的な倫理、理論について学び、理論や技法について説明できる。 臨床心理学に関する諸理論を、現実の事象に適用できる。 自身や患者について、臨床心理学的に考察できる。

回	項　目	主　な　学　習　内　容	到　達　目　標	実務経験教員担当項　目
1	臨床心理学とは	臨床心理学の構造、歴史、倫理と臨床的な態度など、全体を概観する。	臨床心理学の概要について理解する。本講における学びの姿勢を共有する。	
2	精神分析	臨床心理学に大きな影響を与えた精神分析についての基本を学ぶ。	無意識、自由連想法、治療構造論、転移・逆転移について説明できる。	
3	力動論　1	精神分析から見出された防衛機制の概念について学ぶ。	防衛機制について説明できる。	
4	力動論　2	精神分析の概念である対象喪失について学び、臨床場面の患者理解について考察する。	対象喪失について説明できる。自身や臨床場面での防衛機制や対象喪失を考察できる。	
5	心理アセスメント	心理アセスメントの目的・方法・分析について学ぶ。	心理アセスメントの目的・方法・分析について説明できる。	
6	心理検査	臨床で用いられる心理検査について学ぶ。	心理検査の種類、概要について説明できる。評価内容に適した検査を選択できる。	
7	行動療法	行動療法の基礎理論を学ぶ。諸技法について学ぶ。	行動療法の基礎理論について説明できる。諸技法について説明できる。臨床場面で行動療法を用いる例を考察できる。	
8	認知行動療法　1	認知行動療法の基本的な理論を学ぶ。	認知行動療法の基本的な理論、ワークの進め方について説明できる。	
9	認知行動療法　2	認知行動療法の諸技法、第三世代の認知行動療法を学ぶ。	疾患ごとに適用される認知行動療法の各技法を選択できる。	
10	行動論的技法	自律訓練法、バイオフィードバック、SST について学ぶ。	各技法について説明できる。	
11	心理療法の各種技法　1	内観療法、絵画療法、箱庭療法、心理劇について学ぶ。	各技法について説明できる。	
12	交流分析	交流分析の理論の基本を学ぶ。日常生活場面で起きる交流について検討する。	交流分析の基本的な理論について説明できる。	
13	来談者中心療法 1	来談者中心療法の基本を学ぶ。来談者中心療法におけるカウンセラーの態度について知る。	来談者中心療法の理論について説明できる。来談者中心療法におけるカウンセラーの基本的態度について説明できる。	
14	来談者中心療法 2	来談者中心的要素を基本として、変化を促すことに特化した面接スタイルである動機づけ面接法の理論を学ぶ。	動機づけ面接法の理論の基本について説明できる。臨床場面での使用について考察できる。	

15	心理療法の各種技法　2	支持的精神療法、集団精神療法、家族療法、森田療法について学ぶ。	各技法について説明できる。	
評価方法	筆記試験 70%　授業における応答・態度・ディスカッションの主体的関与などの講義への関心度 30%			
課題に対するフィードバック	講義の終わりに質疑応答の時間を設ける。			
教科図書	特定の教科書は用いない。資料は適宜配布する。			
参考図書	内山靖，他・編『リハベーシック　心理学・臨床心理学第 2 版』医歯薬出版、2024 年			
学習の準備	シラバスに沿って事前学習を 2 時間行い、概要を知り、疑問点をみつけ、受講時の主体的な学習につなげる。事後学習は、2 時間以上受講内容を整理し学習を深める。講義の前後で合計 4 時間以上の学習を行う。			
オフィスアワー	月曜　13：00～14：30　その他在室時は問い合わせてください。			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				

科目名	理学療法基礎評価学Ⅰ	担当教員	小林 巧 隈元 庸夫 角瀬 邦晃 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP2K0601	③、④、⑤

科目概要	障害像の把握、治療方針の立案および患者の予後予測を行なう上で重要な評価法の中でも、臨床上、評価頻度の高い関節可動域測定と徒手筋力検査法について学習し、科学的な観察力および思考力を身に付けるための基礎とする。具体的には、評価の過程および評価の全体の流れを把握し、四肢・体幹全ての関節の関節可動域および筋力の測定方法について学習し、制限因子や代償動作、日常生活動作との関連について理解を深める。
学習目標	① 評価の過程および全体の流れを理解することができる。 ② 関節可動域測定・徒手筋力測定の測定法を理解することができる。 ③ 関節可動域の制限因子、筋力低下の要因を理解することができる。 ④ 関節可動域および筋力と ADL の関連を理解することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	評価とは	評価の概要について理解することができる。	
2	関節可動域概論	関節可動域測定の目的と方法	関節可動域測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
3	関節可動域各論 1	上肢（肩関節）の関節可動域測定	上肢（肩関節）の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
4	関節可動域各論 2	上肢（肘関節、前腕、手関節）の関節可動域測定	上肢（肘関節、前腕、手関節）の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
5	関節可動域各論 3	下肢（股関節、膝関節）の関節可動域測定	下肢（股関節、膝関節）の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
6	関節可動域各論 4	下肢（足関節、足部）の関節可動域測定	下肢（足関節、足部）の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
7	関節可動域各論 5	肩甲帯・頚部の関節可動域測定	肩甲帯・頚部の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
8	関節可動域各論 6	体幹の関節可動域測定	体幹の関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域、制限因子、ADL との関わりについて理解できる。	
9	徒手筋力測定概論	徒手筋力測定の目的と方法	徒手筋力測定の意義・目的・目標設定・評価の記録の仕方を理解することができる。	
10	徒手筋力測定各論 1	上肢（肩甲骨、肩関節）の徒手筋力測定	上肢（肩甲骨、肩関節）の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
11	徒手筋力測定各論 2	上肢（肘関節、前腕、手関節）の徒手筋力測定	上肢（肘関節、前腕、手関節）の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
12	徒手筋力測定各論 3	下肢（股関節）の徒手筋力測定	下肢（股関節）の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	

13	徒手筋力測定 各論 4	下肢（膝関節・足関節）の徒手筋力測定	下肢（膝関節、足関節）の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
14	徒手筋力測定 各論 5	頚部の徒手筋力測定	頚部の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
15	徒手筋力測定 各論 6	体幹の徒手筋力測定	体幹の徒手筋力測定の測定法、筋力低下の要因、ADL との関わりについて理解できる。	
評価方法		筆記試験（100%）		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		隈元庸夫・著『臨床 ROM』ヒューマンプレス、2017 年 津山直一・他訳『新・徒手筋力検査法　原著第 10 版』協同医書出版社、2020 年		
参考図書		伊藤俊一・監『MMT（頭部・頚部・上肢）第 2 版』三輪書店、2016 年 伊藤俊一・監『MMT（体幹・下肢）第 2 版』三輪書店、2016 年 松澤正、他・著『理学療法評価学　改訂第 6 版』金原出版、2018 年 奈良勲、他・著『理学療法検査・測定ガイド　第 2 版』文光堂、2009 年		
学習の準備		1 （予習）事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業で学んだ手技について復習すること（2 時間）		
オフィスアワー		月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可能		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				

科目名	理学療法基礎評価学Ⅰ演習	担当教員	限元 庸夫※ 小林 巧※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP2K0612	③、④、⑤

科目概要	「理学療法基礎評価学Ⅰ」で学習したことを踏まえ、四肢・体幹全ての関節の関節可動域測定および徒手筋力検査法に基づく筋力測定の評価技術を身に付けることを目的とする。具体的には、教員によるデモンストレーション、学生同士による演習方式で実施し、「理学療法基礎評価学Ⅰ」で学んだ全ての関節可動域測定および徒手筋力検査法について適切かつ正確な測定が出来るように、実践を通した学習を行い、臨床の現場で利用できる測定技術の基礎を身に付ける。
学習目標	① 評価の過程および全体の流れを理解することができる。 ② 関節可動域測定・徒手筋力測定を学生同士で実践することができる。 ③ 関節可動域の制限因子、筋力低下の要因を理解することができる。 ④ 関節可動域および筋力と ADL の関連を理解することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	関節可動域1	股関節の関節可動域測定	股関節の可動域測定が実践できる。	小林
2	関節可動域 2	膝関節の関節可動域測定	膝関節の可動域測定が実践できる。	小林
3	関節可動域 3	足関節の関節可動域測定	足関節の可動域測定が実践できる。	小林
4	関節可動域 4	肩関節の関節可動域測定	肩関節の可動域測定が実践できる。	隈元
5	関節可動域 5	肘・前腕・手関節の関節可動域測定	肘・前腕・手関節の可動域測定が実践できる。	隈元
6	関節可動域 6	肩甲帯・頚部の関節可動域測定	肩甲帯・頚部の可動域測定が実践できる。	隈元
7	関節可動域 7	体幹の関節可動域測定	体幹の可動域測定が実践できる。	小林
8	徒手筋力測定 1	股関節の徒手筋力測定	股関節の徒手筋力測定が実践できる。	隈元
9	徒手筋力測定 2	膝関節の徒手筋力測定	膝関節の徒手筋力測定が実践できる。	隈元
10	徒手筋力測定 3	足関節の徒手筋力測定	足関節の徒手筋力測定が実践できる。	隈元
11	徒手筋力測定 4	肩甲帯の徒手筋力測定	肩甲帯の徒手筋力測定が実践できる。	小林
12	徒手筋力測定 5	肩関節の徒手筋力測定	肩関節の徒手筋力測定が実践できる。	小林
13	徒手筋力測定 6	肘・手関節の徒手筋力測定	肘・手関節の徒手筋力測定が実践できる。	小林
14	徒手筋力測定 7	頚部の徒手筋力測定	頚部の徒手筋力測定が実践できる。	小林

15	徒手筋力測定 8	体幹の徒手筋力測定	体幹の徒手筋力測定が実践できる。	隈元

評価方法	筆記試験 50%、実技試験 50%
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	隈元庸夫編集『臨床 ROM』ヒューマンプレス、2017 年 津山直一・中村耕三（訳）『新・徒手筋力検査法 第 10 版』協同医書出版社、2020 年
参考図書	松澤正、江口勝彦・著『理学療法評価学 改訂第 6 版』金原出版、2018 年 奈良勲、内山靖・著『理学療法検査・測定ガイド 第 2 版』文光堂、2011 年 伊藤俊一・監『MMT (頭部・頸部・上肢) 第 2 版』三輪書店、2016 年 伊藤俊一・監『MMT (体幹・下肢) 第 2 版』三輪書店、2016 年
学習の準備	授業で学んだ手技について復習すること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	隈元庸夫・小林巧は、大学病院や民間病院で関節可動域測定・筋力測定における理学療法の実務経験を有しており、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	作業療法評価学演習Ⅰ （身体・老年期障害）	担当教員	久保 勝幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1052	②、③、④

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで本科目では、作業療法評価学で学習した内容をふまえて、人間の身体運動の基本となる関節運動、筋力を評価する手段である関節可動域測定、筋力検査（上肢、手指、下肢、体幹）の演習を行う。また、関節可動域制限、筋力低下の治療について講義し、訓練の演習を行う。
学習目標	①　関節可動域測定の手順に従い、測定を実施できる。 ②　筋力検査の手順に従い、検査を実施できる。 ③　関節可動域制限と筋力低下に対する基本的な治療原理を理解し、基本的技術を習得する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 関節可動域測定	関節可動域測定の概要	関節可動域を決定する因子、最終域感、測定の手順について理解する。	久保
2	関節可動域測定演習(1)	上肢の関節可動域測定の演習(1)	肩甲帯・肩関節・肘関節の関節可動域測定が実施できる。	久保
3	関節可動域測定演習(2)	上肢の関節可動域測定の演習(2) 手指の関節可動域測定の演習	前腕・手関節・手指の関節可動域測定が実施できる。	久保
4	関節可動域測定演習(3)	下肢の関節可動域測定の演習	股関節・膝関節・足関節・足部の関節可動域測定が実施できる。	久保
5	関節可動域測定演習(4)	頸部・胸腰部の関節可動域測定の演習	頸部・胸腰部の関節可動域測定が実施できる。	久保
6	関節可動域制限の治療	関節可動域制限の分類・原因・治療原理 関節可動域訓練実技	関節可動域制限の分類、成因、治療原理を理解する。 関節可動域訓練を実践できる。	久保
7	筋力検査	筋力検査の概要	筋力検査の種類、検査の手順について理解する。	久保
8	筋力検査演習(1)	握力・ピンチ力検査の演習 上肢の徒手筋力検査(1)	握力・ピンチ力検査が実施できる。 肩関節の徒手筋力検査が実施できる。	久保
9	筋力検査演習(2)	上肢の徒手筋力検査(2)	肩甲帯・肘関節の徒手筋力検査が実施できる。	久保
10	筋力検査演習(3)	上肢の徒手筋力検査(2)	前腕・手関節の徒手筋力検査が実施できる。	久保
11	筋力検査演習(4)	手指の徒手筋力検査	手指の徒手筋力検査が実施できる。	久保
12	筋力検査演習(5)	下肢の徒手筋力検査(1)	股関節の徒手筋力検査が実施できる。	久保
13	筋力検査演習(6)	下肢の徒手筋力検査(2)	膝関節・足関節の徒手筋力検査が実施できる。	久保
14	筋力検査演習(7)	頸部・体幹の徒手筋力検査	頸部・体幹の徒手筋力検査が実施できる。	久保

15	筋力低下の治療	筋力低下の分類・原因・治療原理 筋力維持・回復訓練実技	筋力低下の分類・原因・治療原理を理解する。 筋力維持・回復訓練を実践できる。	久保
評価方法	筆記試験（40%）、実技試験（60%）			
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。			
教科図書	隈元庸夫・編『臨床 ROM　測定からエクササイズまで』第 2 版ヒューマン・プレス、2022 年 Helen J.Hislop、他・著、津山直一、他・訳『新・徒手筋力検査法第 10 版』協同医書出版社、2020 年			
参考図書	矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野作業療法評価学第 3 版』医学書院、2017 年 福田修・監『PT/OT のための測定評価 DVD Series1 ROM 測定第 2 版』三輪書店、2010 年 福田修・監『PT/OT のための測定評価 DVD Series3 MMT—頭部・頸部・上肢第 2 版』三輪書店、2016 年 福田修・監『PT/OT のための測定評価 DVD Series4 MMT—体幹・下肢第 2 版』三輪書店、2016 年			
学習の準備	1　事前学習として、作業療法評価学（身体・老年期障害）の該当する単元、骨・筋の触診、筋の起始・停止・支配神経を復習する(30 分)。 2　事後学習として、資料を見直し、要点を整理し、実技練習を行う(30 分)。			
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:50 その他教員から説明する			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	久保勝幸は、民間病院で身体・老年期障害における関節可動域測定や筋力検査の作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。			

科目名	臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	担当教員	久保 勝幸※ 榮 志津江※ 三※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR02N1232	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床見学実習Ⅱに向けて、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や地域の臨床現場（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション）のスタッフとの望ましい関係、チームワーク、協業について、講義とグループワークによって理解する。実習記録、レポートなどの課題の提出方法、知り得た情報やそのデータの管理方法についても理解する。また、作業療法士を目指す人として必要な豊かな人間性や人を思いやる心についての基礎を理解し、臨床見学実習Ⅱにふさわしい人間性を育む。
学習目標	① 臨床見学実習で求められる課題とルールを理解する。 ② 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解する。 ③ 作業療法士に必要な人間性を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス	臨床見学実習の概要	臨床見学実習の概要を理解する。	久保
2	実習の心構え 1	職業人としての常識的行動・態度	職業人としての常識的行動や態度を理解する。	久保
3	実習の心構え 2	コミュニケーション	指導者やスタッフ、患者や利用者とのコミュニケーションを理解する。	久保
4	実習の心構え 3	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談の方法を理解する。	久保
5	実習の心構え 4	知り得た情報の管理方法	知り得た情報の管理方法を理解する。	久保
6	実習の心構え 5	実習記録、レポート 1	実習記録とレポートの作成方法を理解する。	久保
7	実習の心構え 6	実習記録、レポート 2	実習記録とレポートの作成方法を理解する。	久保
8	演習 1	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの概要や役割	実習施設の概要や役割をまとめる。	担当教員全員
9	演習 2	〃	〃	担当教員全員
10	演習 3	〃	〃	担当教員全員
11	演習 4	〃	〃	担当教員全員
12	演習 5	〃	〃	担当教員全員
13	演習 6	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの概要や役割の報告	実習施設の概要や役割を報告する。	担当教員全員

14	演習 7	〃	〃	担当教員全員
15	演習 8	〃	〃	担当教員全員

評価方法	施設概要レポート（50%）、課題レポート（50%）
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1　臨床見学実習Ⅱに臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておくこと(30 分)。 2　事後学習として、レポートの作成、発表資料の作成、発表の準備を行うこと(30 分)。
オフィスアワー	水曜日　16:20～16:50 その他担当教員から連絡する
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床見学実習に向け、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をする。

科目名	臨床見学実習Ⅱ（作業療法）	担当教員	久保 勝幸※ 榮 志津江※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	前期	1単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR02N1243	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床見学実習Ⅱでは、臨床実習指導者のもと、地域の臨床現場（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション）における作業療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との適切なコミュニケーションを図り、施設の概要、地域作業療法実践過程について体験を通して理解する。
学習目標	① 職業人としての常識的態度や責任ある行動をとる。 ② 対象者や家族、関連職種と望ましい人間関係を持つ。 ③ 意欲的に取り組む姿勢を持つ。 ④ 必要事項を記録・報告する。 ⑤ 施設の概要を理解する。 ⑥ 地域作業療法実践過程を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習 1	実習施設における実習（第 1 日）	上記学習目標①～⑥	臨床実習指導者
2	臨床実習 2	実習施設における実習（第 2 日）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習 3	実習施設における実習（第 3 日）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習 4	実習施設における実習（第 4 日）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習 5	実習施設における実習（第 5 日）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床見学実習Ⅱ評価表（80%）、実習報告会の内容（20%）
課題に対するフィードバック	オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1 臨床見学実習Ⅱに臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておくこと。 2 事後学習として、実習日誌の記録、報告会資料の作成と準備を行うこと(1 時間)。
オフィスアワー	水曜日 16:20～16:50 その他担当教員から連絡する
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	民間病院において、臨床実習担当の指導・監督の下、作業療法の実務を見学・体験させる。

科目名	スポーツ・レクリエーション学	担当教員	瀧澤 一騎 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2B0201	③

科目概要	スポーツ・レクリエーションは体を動かすという生来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的な充足、健康の保持増進、青少年の人間形成に資するなど、心身両面に働きかけることができると考えられる。軽～中強度の運動が中高齢者の認知機能やメンタルヘルスに好影響を与えることや子供の運動習慣と学業成績に関連があることなど、スポーツやレクリエーションを通じて体力以外に及ぼす効果も述べながらそれら活動の意義と現状の社会環境・機会等がどのようにあるかを学ぶ。
学習目標	スポーツやレクリエーション、身体活動、体育の違いを説明できるとともに、競技スポーツからレクリエーション的な身体活動のつながりを理解し、対象者の年齢や体力、目的にあわせた身体活動の提案ができるようになる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	概要・用語の説明	スポーツやレクリエーション、身体活動、体育の違いを学ぶ。	それぞれの言葉の定義の違いについて理解する。	
2	体力とスポーツ	体力を構成する要素について説明を行い、それぞれの評価方法について学ぶ。	体力の構成要素を列挙でき、評価方法を説明できる。	
3	身体活動が心身へ及ぼす影響	身体活動が心身に及ぼす影響と、不活動が及ぼす悪影響について学ぶ。	身体活動が身体・精神に及ぼす影響を理解し、実践につなげることができる。	
4	発育・発達とスポーツ	第二次性徴期前における発育発達を学び、スポーツやレクリエーションと関連付ける。	発育発達に応じた身体活動の在り方を説明できる。	
5	スポーツのパフォーマンス	スポーツのパフォーマンスを向上させるうえで必要な事項を学ぶ。	スポーツのパフォーマンス構造について説明できる。	
6	身体活動のコーチング	スポーツやレクリエーションを教授する上で留意すべき指導法を知る。	スポーツやレクリエーションにおけるコーチングの特徴を理解する。	
7	対象に応じた活動	目的や世代に応じたスポーツやレクリエーションの処方について考える。	対象者の違いによってさまざまな活動を準備することができる。	
8	これからの身体活動	これからの社会変化に伴い、スポーツ・レクリエーションがどのように変わるか考える。	社会の変革を予測し、対応する準備について考察できる。	

評価方法	論述形式の筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中や講義後に質問を受け付け、当該授業または次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
教科図書	授業で使った資料等
参考図書	特になし
学習の準備	予習として、授業時に「次回までの課題」とした内容について関連書籍を自ら探し、読んでおくこと（2時間）。 復習として、授業内容を整理し、紹介した書籍やweb記事を検索し、出典元の内容を確認しておくこと（2時間）。

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	英語ライティング	担当教員	大田原 裕紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	2年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2D0231	②

科目概要	ネイティブの英語話者ではないわれわれが英語で文章を書くためには、日本語で自分の言いたいことをあらかじめ整理したうえで、それを英語に直していく、というプロセスを通過する必要がある。本講義では、この「日本語→英語」という情報変換能力を涵養するために、日本語で書かれた文章を文法項目ごとに的確に英語で表現できるようになることを目指す。
学習目標	①英文を書くために必要な文法項目を理解する ②自分の言いたいことを表現するための基礎的な英語の語彙力を身につける ③母国語（日本語）と英語の間にある言語の表現方法や発想の違いを理解する

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	講義の目的、見通し、ルールと成績評価方法、学習目標、完了形の表現方法	講義の見通しを持つことができる 完了形を使って英文を書くことができる	
2	助動詞・仮定法	助動詞・仮定法の表現方法	助動詞・仮定法を使って英文を書くことができる	
3	動名詞①・動名詞②	動名詞の表現方法	動名詞を使って英文を書くことができる	
4	不定詞①・不定詞②	不定詞の表現方法	不定詞を使って英文を書くことができる	
5	it・分詞	it・分詞の表現方法	it・分詞を使って英文を書くことができる	
6	復習テスト(1) 関係詞	復習テスト(1)・関係詞の表現方法	関係詞を使って英文を書くことができる これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	
7	関係詞②・関係詞③	関係詞の更なる表現方法	関係詞を使って英文を書くことができる	
8	接続詞①・接続詞②	接続詞の表現方法	接続詞を使って英文を書くことができる	
9	接続詞③・比較①	応用的な接続詞・比較の表現方法	接続詞・比較を使って英文を書くことができる	
10	比較②・比較③	比較の表現方法	比較を使って英文を書くことができる	
11	復習テスト(2) 特殊構文	復習テスト(2)・特殊構文の表現方法	特殊構文を使って英文を書くことができる これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	
12	第4文型・第5文型	第4文型・第5文型の表現方法	第4文型・第5文型を使って英文を書くことができる	
13	SVO to do 型・受動態	SVO to do 型・受動態の表現方法	SVO to do 型・受動態を使って英文を書くことができる	
14	会話表現①・会話表現②	会話表現の表現方法	会話表現を使って英文を書くことができる	

15	復習テスト(3)	復習テスト(3)・これまでの授業のまとめ	これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	

評価方法	授業への積極的参加 (30%)、 授業内で複数回実施する復習テスト (60%)、 B5 notebook（ポートフォリオ）(10%)
課題に対するフィードバック	1 ４～５トピック終了後に「復習テスト」を行う。次回講義で解説する（フィードバック）。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	適宜、資料を配布する。
参考図書	適宜、授業内で連絡する。
学習の準備	1 事前に次回の授業で扱う文法項目について手持ちの文法書や参考書などを使って予習する。(2 時間) 2 事後に授業内に配布した資料やノートの見直しや整理を行い、講義のポイントを復習する。(2 時間)
オフィスアワー	火曜日　10 時 40 分～12 時 10 分 その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	保健医学英語Ⅰ	担当教員	大田原 裕紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	2年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HRC2D0241	②、⑤					

科目概要	理学療法士・作業療法士として臨床現場で働く際に、根拠のある選択をし、より良いケアを提供するために、英語医療論文を読む力は必要不可欠である。本講座では、1年次の基礎英語で培った英語力の土台をさらに確かなものにし、皆さんが将来現場で専門性を開発し、より良いセラピストとして成長し続けられるよう、英語力のさらなる伸長を目指す。人体の構造についての学習、リハビリを必要とする疾患の学習へと進め、後半はいよいよ自分達で選んだトピックについてリサーチし、発表を行う。さらに、英論文の概要をまとめたアブストラクトの構成を学んだ後、実際の英論文のアブストラクトの読解に取り組むという学習体験も行っていく。
学習目標	リハビリテーションに関する英語の基礎語いと表現を主体的に学ぶ方法に習熟させ、英語の文献を読む際に活用するための土台を築く。また、医療英語独特の文章表現に慣れさせる。 具体的には、人体の構造(筋肉系・神経系)や、疾患とリハビリテーションについて、専門分野の基礎語いをさらに拡充し、将来、臨床の現場で、根拠に基づいたケアを行い、専門性を磨き続け、信頼されるPT・OTになるための一つの要素として、英語研究論文の抄録(アブストラクト)を的確に捉えるための土台となる力を養うことを目指す。以下の点を特に重視し、目標とする。 ①人体の構造や、リハビリテーションを必要とする代表的な症例についての英語の説明文を的確に読み取ることができる。 ②医療研究論文のAbstractを的確に読み取ることができる。 ③課題や目標達成に向け、自律と協同の学習を遂行できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション Ch. III-2	講義の目的、見通し、ルールと成績評価方法、目標、グーグルクラスルーム、The Muscular System unit導入	講義の見通しを持つことができる 筋肉系の学習に意欲を持って取り組む	
2	Ch. III-2: 筋肉系	The Muscular System: Video with worksheet, Info gap activity, Reading strategies Review	協力してタスクをし、説明文を完成する 有用な読解ストラテジーを活用して、筋肉系の要点を捉えることができる	
3	Ch. III-3: 神経系	The Nervous system (NS): Demonstration of reading strategies, Video with worksheet	読解ストラテジーを活用できる 神経系の構成シートを完成できる	
4	Ch. III-3: 神経系	The Nervous system: Essay reading (Rd) with worksheet, Video, Group work	読解スキルを活用して、説明文の重要点を読み取ることができる 協同タスクにより、内容理解を深めることができる	
5	Mini Review Quiz	Review of key points so far & Adjustment period	これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	
6	Ch. IV: 疾患とリハビリテーション: 骨折	Bone Fractures: Essay reading with worksheet, Video	自律して説明文の要点を読み取ることができる 重要点(種類, 原因, 症状, 治療等)を捉えることができる	
7	Project prep.	Choose 1 medical condition in need of rehabilitation, Research, Make PPT slides and manuscripts	プロジェクトについて見通しが持てる これまで学んだ読解スキルを活用し、専門的な説明文の要点を読み取ることができる チームワークでプロジェクトの準備ができる	
8	Project prep.	Work on the topic of choice, and prepare for a presentation session	自律と協同で、選んだトピックのリサーチと発表準備を進めることができる	
9	Project プレゼンテーション	Team Project Presentation with PPT, Q&A	リハビリを必要とする疾患について、リサーチした要点を協力して発表ができる 他のチームの発表から学び、理解を深めるこ	

			とができる	
10	Ch. IV: 関節炎: OA	Osteoarthritis: Essay reading with worksheet, Video	OA について要点を多角的に捉えることができる 重要点(メカニズム, 原因, 症状, 治療等)を捉えることができる	
11	関節炎: RA	Rheumatoid Arthritis: Essay reading with worksheet, Video	RA について要点を多角的に捉えることができる 重要点(メカニズム, 原因, 症状, 治療等)を捉えることができる	
12	脳卒中 (background info)	Stroke: Background info.: Essay reading with worksheet, Video	Stroke について要点を多角的に捉えることができる 重要点(メカニズム, 原因, 症状, 治療等)を捉えることができる	
13	アブストラクト	Introduction to Abstract Rd: Abstract format, Steps to take, Vocabulary	Abstract の構成を捉えることができる Previewing 等, 既習の読解スキルを活用できる	
14	アブストラクト	Abstract reading task (cont'd), Q&A	練習を通じて、Abstract の内容を的確に理解するための手順と、注目すべき箇所を捉えることができる	
15	講義のまとめ	Wrap up of the class, Q&A, Questionnaire	ノート・ポートフォリオを通して、取り組みや自己の成長を振り返ることができる	

評価方法	授業への積極的参と取り組み(20%)、ミニ復習テストと期末試験(50%)、プロジェクト(課題や提出物を含む)(20%)、 B5 ノート(ポートフォリオ)(10%)
課題に対するフィードバック	1 2～3トピック終了後に「ミニ復習テスト」を行う。次回講義で解説する（フィードバック）。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3 適宜 Google classroom も活用する。
教科図書	清水雅子、他著『リハビリテーションの基礎英語　第3版』メジカルビュー社（基礎英語から継続使用） 配布資料
参考図書	適宜、授業内で連絡します。
学習の準備	毎回の授業に対して、予習・復習のリズムを維持すること 1　事前に教科書・資料の該当箇所に目を通す。(2 時間) 2　事後に授業内に配布した資料を見直し、ノートを整理し、講義のポイントを復習すること。(2 時間)
オフィスアワー	火曜日　10 時 40 分～12 時 10 分 その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	人体構造機能学実習	担当教員	伊藤 俊輔※ 佐藤 公博※ 久保田 健太※ 小川 峻一※ 世古 俊明※ 鈴木 大輔※ 信太 雅洋※ 久保 勝幸※ 曽我部いづみ※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	後期	3単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2E0323	③、④、⑤					

科目概要	人体構造機能学ⅠやⅡで学習した骨・関節・筋系や神経系や内臓脈管系に関する解剖や機能を中心とした知識をもとに、人体に直接手を触れ、観察することで、その構造を三次元的にイメージし、基礎的な知識をより確実に習得し、更に科学的な基礎能力を身につけることを学習目標とする。特別な機会である本実習を通じて、生命の尊厳および医療専門職としての使命を自覚し、真摯な姿勢で学ぶことが重要である。
学習目標	① 人体標本の局所の構造を直接的解剖見学により理解を深める。 ② 直接的解剖見学から、主に骨および筋に関する体表解剖について理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	序論 筋骨格系1	・オリエンテーション ・筋骨格系：上肢	・人体構造機能学実習の流れ、解剖学実習に向けての心構えや実習概要を理解する。 ・模型標本を利用した実習により上肢の筋骨格系における各部位の名称・構造を理解する。	鈴木
2	筋骨格系 2	筋骨格系：下肢	模型標本を利用した実習により下肢の筋骨格系における各部位の名称・構造を理解する。	鈴木
3	筋骨格系 3	筋骨格系：体幹	模型標本を利用した実習により体幹の筋骨格系における各部位の名称・構造を理解する。	鈴木
4	神経系 1	末梢神経系：上肢	上肢の末梢神経系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
5	神経系 2	末梢神経系：下肢	下肢の末梢神経系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
6	神経系 3	末梢神経系：体幹	体幹の末梢神経系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
7	神経系 4	中枢神経系	中枢神経系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
8	脈管系 1	脈管系：上肢	上肢の脈管系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
9	脈管系 2	脈管系：下肢・体幹	下肢・体幹の脈管系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
10	内臓器 1	心臓	心臓の各部位の名称・構造を復習する。	鈴木

11	内臓器 2	腹部内臓系	腹部内臓系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
12	内臓器 3	呼吸器系	呼吸器系における各部位の名称・構造を復習する。	鈴木
13	解剖見学実習 1	解剖実習 1−1（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
14	解剖見学実習 2	解剖実習 1−2（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
15	解剖見学実習 3	解剖実習 1−3（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
16	解剖見学実習 4	解剖実習 1−4（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
17	解剖見学実習 5	解剖実習 1−5（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
18	解剖見学実習 6	解剖実習 1−6（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
19	解剖見学実習 7	解剖実習 2−1（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
20	解剖見学実習 8	解剖実習 2−2（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
21	解剖見学実習 9	解剖実習 2−3（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田

				曽我部 佐藤 伊藤
22	解剖見学実習 10	解剖実習 2–4（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
23	解剖見学実習 11	解剖実習 2–5（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
24	解剖見学実習 12	解剖実習 2–6（札幌医科大学）	ご遺体を実際に手に取り各部を観察実習する。	鈴木 信太 久保 久保田 曽我部 佐藤 伊藤
25	筋骨格系 4	解剖事後実習（骨学）	解剖実習では観察しにくい骨の構造を、骨模型のスケッチなどを通し、立体的に理解する。	鈴木
26	筋骨格系 5	解剖事後実習（筋系）	解剖実習で見学実習した筋系に関する知見を深める。	鈴木
27	神経系 5	解剖事後実習（末梢神経系、中枢神経系）	解剖実習で見学実習した末梢神経系、中枢神経系に関する知見を深める。	鈴木
28	脈管系 3	解剖事後実習（脈管系）	解剖実習で見学実習した上下肢、体幹の脈管系系に関する知見を深める。	鈴木
29	内臓器 4	解剖事後実習（腹部内臓系）	解剖実習で見学実習した腹部内臓系に関する知見を深める。	鈴木
30	内臓器 5	解剖事後実習（心臓、呼吸器系）	解剖実習で見学実習した心臓、呼吸器系に関する知見を深める。	鈴木
31	体表解剖 1	体表解剖（上肢・上肢帯：骨・筋）	上肢・上肢帯の骨や靭帯、筋などを触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
32	体表解剖 2	体表解剖（体幹：骨・筋）	体幹の骨や靭帯、筋などを触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
33	体表解剖 3	体表解剖（下肢・上肢帯：骨・筋）	下肢の骨や靭帯、筋などを触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
34	体表解剖 4	体表解剖（上肢・上肢帯：筋）	上肢・上肢帯の骨や筋、関節運動を筋力検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
35	体表解剖 5	体表解剖（上肢・上肢帯：筋）	上肢・上肢帯の骨や筋、関節運動を筋力検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
36	体表解剖 6	体表解剖（上肢・上肢帯：筋）	上肢・上肢帯の骨や筋、関節運動を筋力検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤

37	体表解剖 7	体表解剖（下肢・体幹：骨）	下肢・体幹の骨や筋、関節運動を可動域検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
38	体表解剖 8	体表解剖（下肢・体幹：骨）	下肢・体幹の骨や筋、関節運動を可動域検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
39	体表解剖 9	体表解剖（下肢・体幹：骨）	下肢・体幹の骨や筋、関節運動を可動域検査などの実技を用いた触診を通して理解する。	久保田 世古 小川 伊藤
40	筋骨格系 6	総復習（骨格系）	解剖実習、体表解剖で学習した骨格系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤
41	筋骨格系 7	総復習（筋系）	解剖実習、体表解剖で学習した筋系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤
42	神経系 6	総復習（末梢神経系）	解剖実習、体表解剖で学習した末梢神経系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤
43	神経系 7	総復習（中枢神経系）	解剖実習、体表解剖で学習した中枢神経系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤
44	脈管系 4	総復習（脈管系）	解剖実習、体表解剖で学習した脈管系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤
45	内臓器 4	総復習（腹部内臓系、心臓、呼吸器系）	解剖実習、体表解剖で学習した心臓、呼吸器系、腹部内臓系に関する知見を理解しているか確認する。	佐藤

評価方法	筆記試験（70%）、　レポートならびに実習への取組状況（30%）
課題に対するフィードバック	ここでの課題は,「授業内容の理解」とします. それに対して①−⑤のフィードバックを行います ①　授業後の確認テスト ②　次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③　個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④　解剖実習に対してのレポート（採点して返却します） ⑤　期末テスト
教科図書	F.H.マティーニ、他・著『カラー人体解剖学 -構造と機能；ミクロからマクロまで』西村書店、2003 年 配布課題資料
参考図書	高邑冨久子、他・著『シンプル生理学 改訂第 7 版』南江堂、2016 年 Helen J.Hislop,et al・.著『新・徒手筋力検査法 原著第 10 版』協同医書出版、2020 年 伊藤俊一、他・著『PT・OT のための測定評価 1　ROM 測定 第 2 版』三輪書店、2010 年 伊藤俊一、他・著『PT・OT のための測定評価 2　形態測定・感覚検査・反射検査 第 2 版』三輪書店、2014 年 隈元庸夫、他・著『PT・OT のための測定評価 3　MMT 頭部・頚部・上肢 第 2 版』三輪書店、2016 年 隈元庸夫、他・著『PT・OT のための測定評価 4　MMT 下肢・体幹 第 2 版』三輪書店、2016 年 林典夫・著『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第 2 版』メジカルビュー、2011 年 林典夫・著『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第 2 版』メジカルビュー、2012 年
学習の準備	1.（予習）可能であれば事前に教科書の該当箇所を通読しておくこと（30 分）。 2.（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（30 分）。
オフィスアワー	月曜日と水曜日の 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	鈴木大輔、信太雅洋、久保勝幸、久保田健太、曽我部いづみ、佐藤公博、伊藤俊輔は、これまで献体における剖出作業および人体解剖実習指導の実務経験を有しており、本講義の解剖実習において、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 また、久保田健太、世古俊明、佐藤公博、小川峻一、伊藤俊輔は、民間病院で筋・骨関節領域における理学療法の実務経験を有しており、本講義において、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	薬理学概論	担当教員	森 満 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2F0381	③、④、⑤

科目概要	薬理作用を理解するため生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子、細胞、個体レベルで薬理作用のメカニズムを理解し、生体内における薬物の吸収、分布、代謝、排泄の薬理動態を学ぶ。
学習目標	基本原理、分子機構、細胞応答、実験方法、吸収と分布、薬物代謝、アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類、心臓、血管系、動脈硬化、腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療、生殖系、骨代謝、中枢神経系、鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬、化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬などについて説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	基本原理、分子機構など	基本原理、分子機構、細胞応答、細胞増殖、アポトーシス、宿主防御、など	基本原理、分子機構、細胞応答などについて説明できる。	
2	実験方法、吸収と分布など	実験方法、吸収と分布、薬物代謝、個体差、ケミカルメディエーター、自律神経系、など	実験方法、吸収と分布、薬物代謝などについて説明できる。	
3	アセチルコリン、ノルアドレナリンなど	アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類、局所ホルモン、カンナビノイド、一酸化窒素、など	アセチルコリン、ノルアドレナリン、プリン類などについて説明できる。	
4	心臓、血管系など	心臓、血管系、動脈硬化、止血と血栓症、造血機構、抗炎症薬、免疫抑制薬、など	心臓、血管系、動脈硬化などについて説明できる。	
5	腎尿路系、消化管など	腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療、肥満、下垂体、副腎皮質、甲状腺、など	腎尿路系、消化管、血糖と糖尿病治療などについて説明できる。	
6	生殖系、骨代謝など	生殖系、骨代謝、中枢神経系、アミノ酸伝達物質、神経変性疾患、全身麻酔薬、など	生殖系、骨代謝、中枢神経系などについて説明できる。	
7	鎮痛薬、抗不安薬など	鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬、抗てんかん薬、抗精神病薬、抗うつ薬、薬物依存、乱用など	鎮痛薬、抗不安薬、催眠薬などについて説明できる。	
8	化学療法、抗菌薬など	化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗がん剤、スポーツにおける薬物、遺伝子治療、など	化学療法、抗菌薬、抗ウイルス薬などについて説明できる。	

評価方法	筆記試験（穴埋め問題約 75%、国家試験形式の多肢選択問題約 25%、合計 100%）
課題に対するフィードバック	各回とも講義内容に関する問題集を配布する。その中には、関連する穴埋め問題と国家試験形式の多肢選択問題が含まれている。講義を受講して問題集に解答すること。試験日までに問題集の正解を配布するので、自分の解答を確認すること。試験によって、講義内容の理解度を判定する。
教科図書	毎回、講義資料と問題集を配布する。
参考図書	渡邊直樹・監訳『ラング・デール薬理学 原書 8 版』丸善出版、2018 年
学習の準備	（予習）1 年次に勉強した解剖学、生理学の復習をしておく（2 時間）。 （復習）講義で配布した資料と問題集を復習する（2 時間）。
オフィスアワー	木曜日午前 9 時～午前 11 時、その他、在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	医用画像解析学概論	担当教員	渡邊 良晴 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2F0461	③

科目概要	病院等で使用する医用画像は、診断・治療に欠くことのできない情報であり、リハビリテーションの障害診断や治療効果判定等に用いられている。ここでは各種医用画像の撮像原理や画像の特徴について理解を深め、人体各部位・臓器の画像や代表的疾患の画像について学習する。医用画像に関する知識は、患者の治療において、医師・看護師・他の医療スタッフとコミュニケーションのために重要であり、また、理学療法士、作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成し実施するために必要な知識である。
学習目標	① 使用されている医用画像の種類・原理・特徴を理解する。 ② X 線画像・CT 画像・MR 画像等の原理や画像の違いを理解する。 ③ 中枢神経系・循環器・消化器・運動器等の各種疾患における医用画像を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総　論	放射線、X 線等の基礎的な理論、画像の原理	放射線、X 線の基礎的な知識の修得、画像取得の原理を説明できる。	
2	診断画像の取得	各部位の画像撮影と画像の種類について	人体各部位の画像診断について、画像の種類、撮影方法等について概略を理解する。	
3	中枢神経疾患	中枢神経系疾患の X 線・CT・MR 画像	中枢神経の基本的な解剖を基に、中枢神経疾患の CT、MRI 画像所見を理解する。	
4	運動器疾患	上肢・下肢の X 線・CT・MR 画像	上肢・下肢の解剖を基に、各画像の理解と疾患の基本的な所見の読影ができる。	
5	運動器疾患	椎体の疾患と X 線・CT・MR 画像	運動器の基本的な解剖を基に、脊椎疾患画像の基本的な所見の読影ができる。	
6	呼吸器疾患	呼吸器疾患と X 線・CT・MR 画像	呼吸器の基本的な解剖を基に、肺疾患の X 線写真、CT の基本的な所見の読影ができる。	
7	消化器・循環器	消化器・循環器・泌尿器その他疾患の画像	消化器・循環器・泌尿器等の基本的な解剖を基に、X 線写真、CT 画像の所見の読影ができる。	
8	核医学その他	核医学画像、その他放射線利用について	核医学検査、核医学画像、放射線治療、その他の放射線利用などについて概略を理解する。	

評価方法	筆記試験（100%） 医用画像に関する基本的な知識と各種疾患の画像に関連する知識について評価を行う。
課題に対するフィードバック	1　講義中及び講義終了後に質問を受け、回答する。 2　定期試験に関するフィードバックを行う。
教科図書	百島祐貴・著『画像診断　コンパクトナビ　第 4 版』医学教育出版社
参考図書	中島雅美、中島喜代彦・編『PT・OT 基礎から学ぶ画像の読みかた』医歯薬出版株式会社 F.H.マティーニ他・著『カラー人体解剖学』西村書店
学習の準備	1（予習）次回講義範囲の人体解剖、機能、疾患概要を教科書・参考図書を参考に予習しておく（2 時間） 2（復習）講義資料を基に講義内容を確認する。また、理解が不十分である箇所は、次回の講義で質問できるよう準備をする（2 時間）

オフィスアワー	講義前後の在学時とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	福祉介護概論	担当教員	齋藤 明徳 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2G0501	③、⑥

科目概要	高齢者ケアをめぐって保健・医療・福祉を統合した介護保険制度の創設と発展の取り組みを知り、併せてその過程で「介護福祉」と「社会福祉援助」の専門性を確立してきた経過を理解します。また、リハビリテーションをふくむ高齢者・障がい者の医療・福祉サービスの現状を知り、ケアマネジメントの実施による高齢者・障がい者の自立を支援し、地域包括ケアシステムの実現をめざす保健・医療・福祉の連携についての理解を深めます。
学習目標	① 高齢者・障がい者ケアにおけるリハビリテーションの意義と役割を考える。 ② 他職種を理解し連携していける能力（素養）を醸成する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	介護保険制度の概要−介護の社会化	1．世界と日本の歴史及び日本の現状と今後の課題 2．介護保険制度の概要と創設の経過 3．高齢者ケアと保健・医療・福祉の統合	高齢者の保健・医療・福祉を統合して介護保険制度が創設された背景を理解する。	
2	介護保険で変わる医療と福祉－介護福祉の確立	1．高齢者「介護」確立の挑戦 ―「社会的入院」の克服 2．高齢者の医療・介護・福祉の制度創設・改正の推移 3．介護サービスの基盤整備	介護の専門性を確立する経過と高齢者ケアの基盤整備の取り組みを理解する。	
3	介護福祉と介護保険サービス	1．介護サービスの確立とその歴史 2．介護と看護－「介護福祉士」の創設 3．介護保険制度の発展とこれから	「介護」の歴史を知り、専門的サービスとしての変遷を理解する。	
4	介護保険サービスの利用	1．介護保険サービスの利用方法 2．要介護認定と居宅サービス計画 3．サービス利用支援―居宅介護支援(ケアマネジメント)	社会保険制度として創設された介護保険制度利用の体系を理解する。	
5	高齢者ケアの課題と対応―認知症ケア、リハビリテーション	1．認知症とは－認知症ケアと地域生活支援体制づくり 2．介護保険制度とリハビリテーション 3．　新たな高齢者リハビリテーションの在り方	高齢者ケアの重要課題を理解し、これからの地域生活支援体制づくりを学ぶ。	
6	障がい者ケアの課題と対応―自立支援、地域共生社会	1．わが国の障がい者福祉の歴史と体系 2．障がい者関連法―共生型サービス創設 3．社会リハビリテーション－地域共生社会の実現	障がい者福祉の体制を理解し、介護保険制度と連携した地域共生社会づくりを学ぶ。	
7	社会福祉援助(ソーシャルワーク)と保健医療福祉の連携	1．ケアマネジメントの体系と実践 2．社会福祉援助とケアマネジメント 3．医療・福祉の連携―医療ソーシャルワーカーの活動	社会問題の解決と利用者支援の代表的な活動である社会福祉援助を理解する。	
8	地域包括ケアと地域共生社会の実現－「2040年問題」への挑戦	1．地域包括ケアシステムの構築 2．地域共生社会の実現に向けた取り組み 3．2040年への挑戦―地域福祉推進	2040年の高齢者ケア－地域包括ケアシステムと地域マネジメントの取り組みについて理解する。	

評価方法	講義出席(60%)、レポート提出(40%)で評価します。
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成教材
参考図書	各回の授業で紹介します。

学習の準備	1（予習）次回のテキストの通読と用語の確認をする（2 時間）。 2（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（2時間）。
オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	在宅リハビリテーション学	担当教員	盛 雅彦 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	選択	2年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2G0511	③、⑥					

科目概要	在宅リハビリテーションにおける社会保障制度、リハビリテーション技術、家族介護者の健康支援等について学習する。活動や参加の視点を重視した生活期のリハビリテーションおよびマネジメントについて理解を深める。長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方も学ぶ。また、他の専門職との連携、協働についての理解を深める。
学習目標	① 障害者及び高齢者に関する保健福祉制度について理解する。 ② 介護保険法と介護予防制度の理解とその中での理学療法士の役割について理解する。 ③ 通所・訪問リハビリテーションの理解と理学療法士の役割について理解する。 ④ 在宅生活を支援する身体障害者手帳制度と補装具支給制度について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	成人保健制度、老人福祉制度	介護保険制度開始前の高齢者保健福祉制度の変遷と寝たきり予防対策を解説する。	介護保険制度前の寝たきり予防対策について理解する。	
2	介護保険制度、介護予防制度	介護保険制度の概要と介護予防施策の展開と理学療法士の役割を解説する。	介護保険制度全体を理解するとともに介護予防制度の中での理学療法士の役割を理解する。	
3	介護予防とICF、地域包括ケア	変遷する介護予防制度における地域包括支援センターと介護支援専門員の役割と地域包括ケア施策について解説する。	介護予防的な思考としての ICF の理解と地域包括ケアを推進する施策を理解する。	
4	在宅障害者・高齢者の現状と通所リハビリ	在宅の障害者や高齢者の現状と課題．これに対応する通所リハビリテーションの役割と課題を解説する。	閉じこもりや寝たきりになる要因を理解する。居宅療養を支援している通所リハビリテーション制度を理解する。	
5	在宅障害者・高齢者の現状と訪問リハビリ	在宅の障害者や高齢者の現状と課題．これに対応する訪問リハビリテーションの役割と課題を解説する。	在宅リハビリ継続の動機づけを理解する。居宅を支援している訪問リハビリテーション制度や住宅改修の考え方を理解する。	
6	障害者福祉制度	障害者基本法や三障害に関する法律、障害者総合支援法の概要を理解する。	身体障害者、知的障害者、精神障害者の保健福祉制度や障害者総合支援法の概要を理解する。	
7	障害者福祉制度（身障手帳制度）	障害者福祉制度の概要と身体障害者手帳制度を解説する。	身体障害者手帳制度、特に肢体不自由について仕組みを理解する。	
8	障害者福祉制度（補装具制度）	障害者福祉制度の概要と補装具支給に関連する各種制度を解説する。	障害者総合支援法における補装具費支給制度について理解するとともに、他法による支給制度についても理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1 次回講義でも解説し、フィードバックする。 2 授業を通してフィードバックする。 3 授業中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特になし
参考図書	札幌市地域リハビリテーション推進協議会・編「地域リハビリテーションハンドブック 2015」2015 年 障害者福祉研究会・編「ICF 国際機能分類」中央法規出版、2002 年 厚生労働省統計協会・編「国民の福祉と介護の動向」2023/2024 年（第 70 巻第 10 号）
学習の準備	1（予習）事前に配付した資料について予習をしておくこと（2 時間） 2（復習）講義に使用した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）

オフィスアワー	講義の前後
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	言語聴覚療法概論	担当教員	北風 祐子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC2G0521	③

科目概要	言語聴覚療法の対象となる様々な障害について、その定義や分類を理解する。また、成人および小児の言語聴覚障害の特性を理解し、評価、治療、指導や対応について学ぶ。広く、コミュニケーションにかかる障害であるため、ヒトとのコミュニケーションの成り立ちについても考える。さらに、特に連携が求められる摂食・嚥下障害についての基礎知識を学ぶ。
学習目標	① 広くコミュニケーションについて、その過程や方法について理解することができる。 ② 臨床で出会うであろう様々言語障害について、その特徴を把握し対応を考えることができる。 ③ チームアプローチに必要な他職種の業務について理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	言語療法総論	オリエンテーション コミュニケーション・言語聴覚療法の概要	コミュニケーションについて考える。 言語聴覚療法の歴史や対象について理解する。	
2	成人言語障害①	失語症とその評価・対応	失語症の基本的な症状を理解する。 失語症の方への対応を学ぶ。	
3	成人言語障害②	構音障害・音声障害とその評価・対応	構音障害や音声障害の症状を理解する。 失語症との違いを理解する。	
4	小児言語障害・聴覚障害	小児の言語障害各論 聴覚障害の基礎と対応	様々な小児の言語障害について理解する。 聴覚障害の基本的障害象を学ぶ。	
5	摂食嚥下障害①	嚥下機能の基礎と嚥下障害	摂食嚥下のメカニズムを理解する。 嚥下障害の症状について理解する。	
6	摂食嚥下障害②	嚥下障害の評価・対応・リハビリテーション	姿勢や食事形態など、嚥下障害の対応やリハビリテーションについて学ぶ。	
7	その他障害	高次脳機能障害・認知症など様々な言語聴覚療法の対象とする障害の概要	失語以外の高次脳機能障害や認知症の症状や評価、対応について理解する。	
8	様々な領域	地域言語療法（訪問・介護予防等）について チームアプローチについて	様々な領域での活動を知り、チームアプローチや役割分担を考える。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	配布資料
参考図書	中村隆一、佐直信彦・編『入門リハビリテーション概論 第7版』医師薬出版株式会社、2009年
学習の準備	復習は必ずすること（4時間）
オフィスアワー	講義の前後

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	健康増進障害予防演習I（検査測定）	担当教員	世古 俊明※ 小川 峻一※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC2G0542	③、④、⑤、⑥					

科目概要	健康増進障害予防概論および理学療法評価・作業療法評価学で学んだ知識を基に、健康増進教室等の予防事業における身体・認知機能評価が行えるように演習する。
学習目標	健康増進やヘルスプロモーションを理解し、対象者に対する身体・認知機能評価が可能となる基礎知識と評価方法を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論.	健康増進のためのヘルスプロモーション	健康増進のためのヘルスプロモーションと医療面接を理解する。	世古
2	身体機能評価. 1	健康増進のための身体機能評価 （フレイル、サルコペニア）	フレイル、サルコペニアの概念と健康増進教室に於ける評価方法を理解する。	世古
3	身体機能評価. 2	健康増進のための身体機能評価 （ロコモティブシンドローム）	ロコモティブシンドロームの概念と健康増進教室に於ける身体機能評価を理解する。	小川
4	身体機能評価. 3	健康増進のための身体機能評価 （ロコモティブシンドローム）	ロコモティブシンドロームの概念と健康増進教室に於ける評価方法を理解する。	小川
5	認知機能評価. 1	健康増進のための認知機能評価 （MoCA-J、MMSE）	認知機能障害の概念と健康増進教室に於ける MoCA-J、MMSE の評価方法を理解する。	小川
6	認知機能評価. 2	健康増進のための認知機能評価 （MoCA-J、MMSE）	認知機能障害の概念と健康増進教室に於ける MoCA-J、MMSE の評価方法を理解する。	小川
7	地域での実践. 1	地域住民の身体機能および精神機能を測定および結果のフィードバック	地域住民を対象に障害予防に於ける評価方法を実践する。	世古 小川
8	地域での実践. 2	地域住民の身体機能および精神機能を測定および結果のフィードバック	地域住民を対象に障害予防に於ける評価方法を実践する。	世古 小川
9	身体機能評価. 4	転倒予防のための身体機能評価	転倒の概念と健康増進教室に於ける転倒リスクの評価方法を理解する。	世古
10	身体機能評価. 5	転倒予防のための身体機能評価	転倒の概念と健康増進教室に於ける転倒リスクの評価方法を理解する。	世古
11	身体機能評価. 6	スポーツ障害予防のための身体機能評価	スポーツ障害予防のための身体機能評価を理解する。	小川
12	身体機能評価. 7	スポーツ障害予防のための身体機能評価	スポーツ障害予防のための身体機能評価を理解する。	小川
13	健康増進と他職種連携. 1	他専門職学生との共同演習に向けた事前準備	他職種連携について理解する。	世古 小川
14	健康増進と他職種連携. 2	他専門職学生との共同演習	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割を理解する。	世古 小川

15	まとめ.	健康増進のための評価とプログラムのエビデンス	健康増進のための評価とプログラムのエビデンスを整理して理解する。	小川
評価方法	レポート 2 回（90%）、授業における応答・態度などの講義への関心度（10%）			
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。			
教科図書	特に指定しない（資料を配布する）。			
参考図書	伊藤俊一・監修『PT/OT のための測定評価シリーズ　MMT』三輪書店、2023 年 津山直一・訳『新徒手筋力テスト 原著第 10 版』協同医書出版、2020 年			
学習の準備	理学療法基礎評価学Iおよび作業療法評価学演習Iで学んだ内容を整理しておくこと（1 時間）			
オフィスアワー	月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				

科目名	日常生活活動学（理学療法）	担当教員	久保田 健太 小川峻一 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP2H0571	①、②、③、④

科目概要	本科目では、日常生活活動（動作）の基礎基本事項を学び、人間が豊かな生活を送る上で欠くことのできない一連の生活活動を理解する。具体的には、理学療法の主たる目的である基本動作能力の改善を中心に、日常生活動作全般について学習し、問題解決のための的確な観察力および分析力を養う。また、各種の疾患による生活動作障がいの特性を理解するとともに、それに対応する訓練法、指導法、福祉用具や各種支援機器の活用について学習して、生活動作能力の向上を通じて対象者の充実した地域生活に貢献する能力を養う。
学習目標	①　日常生活活動を理解し、説明することができる。 ②　基本動作をはじめとする生活動作を観察し、運動や現象を表現することができる。 ③　動作観察によって得られた問題を分析することができる。 ④　各種疾患における動作特性を理解し、対応する訓練法や指導事項を述べることができる。 ⑤　支援機器の特性や目的、使用方法を理解し、説明及び基本的な実践を行うことができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 1	オリエンテーション（科目概要） ADL 総論①	科目概要及び ADL 総論について理解することができる。	
2	総論 2	ADL 総論②	ADL 総論について理解することができる。	
3	各論 1	起居動作①	寝返り・起き上がり動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
4	各論 2	起居動作②	立ち上がり動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
5	各論 3	移動動作③	歩行動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
6	各論 4	移動動作④	階段昇降について意義、運動要素、バリエーションを理解することができる。	
7	各論 5	各種疾患における動作①（片麻痺）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
8	各論 6	各種疾患における動作②（片麻痺）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
9	各論 7	各種疾患における動作③（RA）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
10	各論 8	各種疾患における動作④（切断・膝 OA）	各種疾患による動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
11	各論 9	手段的 ADL（IADL）	IADL について意義、運動要素、バリエーションを理解することができる。	
12	各論 10	支援機器（自助具）	自助具について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。	

13	各論 11	支援機器（杖・松葉杖・歩行器など）	杖・松葉杖・歩行器について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。	
14	各論 12	支援機器（車椅子など）	車椅子について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。	
15	各論 13	支援機器（各種介助機器・装置）	介助機器について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。	

評価方法	試験（90%）、講義に対する姿勢（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック）。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	特になし
参考図書	奈良勲、鶴見隆正・著『標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院、2012年 細田多穂・監修『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2014 年 伊藤利之、他・編『新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－』医歯薬出版株式会社、2010年 齋藤宏、松村秩、矢谷令子・著『姿勢と動作 第 3 版』メヂカルフレンド社、2010 年
学習の準備	授業のテキスト当該箇所を予習（2 時間）し、授業終了後は必ず復習（2 時間）を行うこと。
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:50
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	理学療法基礎評価学Ⅱ	担当教員	小林 巧 隈元 庸夫 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	3単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP2K0621	③、④、⑤

科目概要	心身機能・構造に関する検査法・測定法を実技も交えて学習し、理学療法における問題解決を幅広い視野にて展開する力を身に付けることを目的とする。具体的には、感覚検査、反射検査、片麻痺機能検査、協調性検査、運動発達検査、筋緊張検査、バランス検査、整形外科検査、疼痛検査、脳神経検査、動作分析などについて、各検査の意義・目的を理解し、適切で正確な検査・測定および得られたデータの解釈について学習する。
学習目標	① 各検査の目的について理解する。 ② 各検査の測定方法について理解し、実践することができる。 ③ 各検査で得られたデータの解釈について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	片麻痺機能検査1	片麻痺機能検査の概要	片麻痺の運動障害像を理解する。 片麻痺機能検査の目的を理解する。	
2	片麻痺機能検査２	下肢の片麻痺機能検査	下肢の片麻痺機能検査の方法を理解する。	
3	片麻痺機能検査３	上肢・手指の片麻痺機能検査	上肢・手指の片麻痺機能検査の方法を理解する。	
4	片麻痺機能検査４	下肢・上肢・手指の片麻痺機能検査	片麻痺機能検査を実施できる。	
5	筋緊張検査１	筋緊張検査	筋緊張の概念を理解する。 検査目的、方法を理解する。	
6	筋緊張検査２	筋緊張検査	検査結果と予測される疾患をイメージできる。	
7	疼痛検査	疼痛検査	痛みのメカニズムについて理解する。 疼痛検査の目的と方法を理解する。	
8	感覚検査１	表在感覚検査	表在感覚検査の目的と方法を理解する。	
9	感覚検査２	深部感覚検査	深部感覚検査の目的と方法を理解する。	
10	反射検査１	深部反射	深部反射のメカニズムを理解する。 反射検査の目的と方法を理解する。	
11	反射検査２	表在反射、病的反射	表在反射、病的反射のメカニズムを理解する。 反射検査の目的と方法を理解する。	
12	協調性検査	協調性検査	協調性について理解する。 障害像を理解し、障害を分類できる。	
13	協調性検査	協調性検査	協調性検査の目的と方法を理解する。 協調検査を実施できる。	
14	運動発達検査	運動発達検査	運動発達検査の種類を理解する。 検査の意義、目的を理解する。	

15	姿勢反射検査	姿勢反射検査	姿勢反射のメカニズムを理解する。 姿勢反射検査の目的と方法を理解する。	
16	バランス検査	バランス検査	バランス検査の目的と方法を理解する。	
17	整形外科検査	整形外科検査（頚部、体幹、上肢）	整形外科検査（頚部、体幹、上肢）の目的と方法を理解する。	
18	整形外科検査	整形外科検査（下肢）	整形外科検査(下肢)の目的と方法を理解する。	
19	脳神経検査	脳神経検査と高次脳機能検査	脳神経検査の目的と方法を理解する。 高次脳機能検査の目的と方法を理解する。	
20	動作分析 1	動作分析の実践 1	動作を観察、記載し、分析できる。	
21	動作分析 2	動作分析の実践 2	動作を観察、記載し、分析できる。	
22	動作分析 3	動作分析の実践 3	動作を観察、記載し、分析できる。	
23	動作分析 4	動作分析の実践 4	動作を観察、記載し、分析できる。	

評価方法	筆記試験（60%）・実技試験（40%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	松澤正、他・著『理学療法評価学 改訂第 6 版』金原出版、2018 年 隈元庸夫・著『症例動作分析』ヒューマンプレス、2017 年
参考図書	奈良勲、他・著『理学療法検査・測定ガイド 第 2 版』文光堂、2009 年 細田多穂・監『理学療法評価学テキスト 改訂第 2 版』南光堂、2017 年 伊藤俊一・監『形態計測・感覚検査・反射検査 第 2 版』三輪書店、2014 年 伊藤俊一・監『整形外科的検査』三輪書店、2014 年 伊藤俊一・監『片麻痺機能機能検査・協調性検査』三輪書店、2014 年 田崎義明、他・著『ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版』南山堂、2016 年
学習の準備	1 （予習）事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業で学んだ手技について復習すること（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	日常生活活動評価学	担当教員	世古 俊明 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP2K0631	③

科目概要	本科目では、「日常生活活動学（理学療法）」で学んだことを基に、ADL評価バッテリーや動作分析方法について学習する。対象者の有する動作能力および問題点を客観的に測定し、分析する能力を養う。
学習目標	①　日常生活活動評価の目的、種類、方法を理解し、説明することができる。 ②　日常生活活動の基本動作の観察・分析を理解し、正常性と異常性を説明することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ADL 関連評価	ADL、IADL 評価バッテリー	各種の評価バッテリーおよび評価方法を理解し、説明できる。	
2	ADL 評価	Functional Independence Measure (FIM)	FIM の評価方法を理解し、説明できる。	
3	基本動作①	姿勢の観察および分析	姿勢の観察・分析を理解し、理想的姿勢および不良姿勢を説明できる。	
4	基本動作②	寝返り・起き上がり動作の観察および運動分析	寝返り・起き上がり動作の観察・分析を理解し、その正常性と異常性を説明できる。	
5	基本動作③	立ち上がり動作の観察および運動分析	立ち上がり動作の観察・分析を理解し、その正常性と異常性を説明できる。	
6	基本動作④	歩行動作の観察および運動分析 1	歩行動作を運動学的・運動力学的に理解し、正常歩行を説明できる。	
7	基本動作⑤	歩行動作の観察および運動分析 2	歩行動作の観察・分析し、その正常性と異常性を説明できる。	
8	基本動作⑥	階段昇降動作の観察および運動分析⑥	階段昇降動作の観察・分析を理解し、その正常性と異常性を説明できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック）。 2　試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	限元庸夫・著『症例動作分析』ヒューマンプレス株式会社、2017 年
参考図書	奈良勲、鶴見隆正・著『標準理学療法学専門分野　日常生活活動学・生活環境学　第4版』医学書院、2012年 細田多穂・監『シンプル理学療法学シリーズ　日常生活活動学テキスト　改訂第 2 版』南江堂、2014 年 伊藤利之、他・編『新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－』医歯薬出版株式会社、2010年
学習の準備	1　（予習）ADL 評価の内容および教科書の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2　（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	火曜日　11 時半から 13 時 その他在室時はいつでも可

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	日常生活活動評価学演習	担当教員	久保田 健太※ 野陳 佳織※ 小川 峻一※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HRP2K0642	①、③、④、⑤					

科目概要	本科目では、「日常生活活動学（理学療法）」および「日常生活活動評価学」で学んだことを基に、3種の模擬障がい体験演習を通し、実際の日常生活活動や評価につながる視点や考え方を学習する。また，適切な介助法や指導法、福祉用具や各種支援機器の活用方法を学習して、対象者の持つ生活上の問題を具体的に解決できる能力を養う。
学習目標	① 各種疾患によって生じる日常生活活動（動作）障害の特徴を理解し、説明することができる。 ② 障害の特性を踏まえた日常生活活動に対する介助法や指導事項を考えることができる。 ③ 移動支援機器や介助支援機器などの適応、使用方法を理解することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習 1	オリエンテーション（科目概要）	科目概要及び演習内容について理解することができる。	久保田
2	演習 2	寝返りの介助法	寝返りの介助方法を理解する。	久保田
3	演習 3	起き上がり、その他床上動作の介助法	起き上がり、その他床上動作の介助法を理解する。	久保田
4	演習 4	移乗動作の介助法	移乗動作の介助法を理解する。	小川
5	演習 5	模擬障がい体験の準備	模擬障がい体験の準備として、テーピングや装具などを使用し関節を制限する練習などの事前準備を行う。	久保田 小川 野陳
6	演習 6	模擬障がい体験の準備	模擬障がい体験の準備として、テーピングや装具などを使用し関節を制限する練習などの事前準備を行う。	久保田 小川 野陳
7	演習 7	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
8	演習 8	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
9	演習 9	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
10	演習 10	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
11	演習 11	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
12	演習 12	模擬障がいの ADL 体験演習	グループ毎に片麻痺者、変形性膝関節症者の模擬障がいを設定し、学内にて FIM、TUG、6 MD などを評価する。	久保田 小川 野陳
13	演習 13	模擬義足を用いた、義足体験	模擬義足を用い、義足での ADL 動作を体験・見学する。	野陳

14	演習 14	まとめ 1	各種 ADL 動作の介助方法を整理し、理解を深める。	野陳
15	演習 15	まとめ 2	レポート作成を通じ各障がいにおける ADL の特徴を整理し、実際の ADL や評価につながる視点や考え方を深める。	久保田 小川 野陳

評価方法	レポート（90%）、講義に対する姿勢（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック）。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	特になし
参考図書	奈良勲、鶴見隆正・著『標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版』医学書院、2012年 細田多穂・監『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2014 年 伊藤利之、他・編『新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－』医歯薬出版株式会社、2010年 齋藤宏、松村秩、矢谷令子・著『姿勢と動作 第 3 版』メヂカルフレンド社、2010 年
学習の準備	授業のテキスト当該箇所の予習やグループ学習計画を行い、授業終了後は復習またはグループ内ディスカッションを行うこと（計 1 時間）
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:50
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	久保田健太・小川峻一・野陳 佳織は、民間病院で日常動作における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	作業学概論	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRO2H0971	②、③、④

科目概要	作業は広がりと深さをもっている。日常生活の中の作業に関し、どの範囲までを一つのまとまりとするのかは個人や状況により違う。一つにまとまっているように見える作業を詳しく見ていくと、何層にも積み重なっていることが理解できる。作業には人の機能を発達させ、健康を回復させる力がある。人が何かをすること（作業）により人は成長し、人類は進化し、よりよい社会生活を建設していくことができる。本講義では、「特定の人の生活にある作業」という視点から作業の理解と社会的存在意義の理解を深めていく。
学習目標	① 作業療法の歴史的変遷を理解する。 ② 作業療法の理論について理解する。 ③ ①②から作業療法という職業の存在意義について理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	作業療法の歴史1	世界の作業療法の歴史	世界の作業療法の歴史を理解できる。	
2	作業療法の歴史 2	日本の作業療法の歴史	日本の作業療法の歴史を理解できる。	
3	作業療法理論等 1	作業行動理論	作業行動理論の概略を理解できる。	
4	作業療法理論等 2	人間作業モデル	人間作業モデルの概略を理解できる。	
5	作業療法理論等 3	カナダ作業遂行モデル	カナダ作業遂行モデルの概略を理解できる。	
6	作業療法理論等 4	作業科学	作業科学の概略を理解できる。	
7	作業療法理論等 5	感覚統合理論	感覚統合理論の概略を理解できる。	
8	作業療法理論等 6	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概略を理解できる。	

評価方法	レポート（20%）＋筆記試験（80%）
課題に対するフィードバック	授業を通してフィードバックする。
教科図書	杉原素子・編『作業療法学全書第 1 巻　改訂第 3 版　作業療法概論』協同医書出版社、2012 年
参考図書	講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)

オフィスアワー	毎週水曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業分析学	担当教員	榮 志津江※ 宮城 由美子※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	2単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRO2H0982	③、④

科目概要	作業療法士は、対象者が実施可能で、治療目的に合った作業種目を、種々の作業活動のなかから選び、対象者に提示する。そのためには種々の作業の材料・道具・手順を理解しておく必要がある。また作業療法士は様々な障害を有する対象者の心身機能に合わせて、作業そのものや使用する道具、作業環境を工夫・調整する。治療の経過に応じて作業の負荷を段階づける必要もある。作業分析を行う目的は、これら作業の適切な選択、修正、段階づけを行うためである。授業では実際に作業を行い、その作業を分析することで一般的特性や活動特性を理解し、治療的応用を行うための分析的視点を養う。
学習目標	①　各作業の材料、道具、手順を理解する。 ②　各作業の基礎技術を習得する。 ③　各作業の特色、段階付け、治療効果について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 総論（1）	作業分析学総論（1）	講義を通して作業分析の概要を理解する。	榮
2	総論（2）	作業分析学総論（2）	講義を通して作業分析の概要を理解する。	榮
3	演習（1）	ネット手芸（1）	ネット手芸における学習目標①②を理解・習得する。	榮
4	演習（2）	ネット手芸（2）	ネット手芸における学習目標①②を理解・習得する。	榮
5	演習（3）	ネット手芸（3）	ネット手芸における学習目標①②を理解・習得する。	榮
6	演習（4）	ネット手芸（4）	ネット手芸における学習目標①②を理解・習得する。	榮
7	演習（5）	ネット手芸（5）	ネット手芸における学習目標①②を理解・習得する。	榮
8	演習（6）	ネット手芸（6）	ネット手芸における学習目標③を理解する。	榮
9	演習（7）	革細工（1）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
10	演習（8）	革細工（2）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
11	演習（9）	革細工（3）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
12	演習（10）	革細工（4）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
13	演習（11）	革細工（5）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
14	演習（12）	革細工（6）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮

15	演習（13）	革細工（7）	革細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
16	演習（14）	革細工（8）	革細工における学習目標③を理解する。	榮
17	演習（15）	籐細工（1）	籐細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
18	演習（16）	籐細工（2）	籐細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
19	演習（17）	籐細工（3）	籐細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
20	演習（18）	籐細工（4）	籐細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
21	演習（19）	籐細工（5）	籐細工における学習目標①②を理解・習得する。	榮
22	演習（20）	籐細工（6）	籐細工における学習目標③を理解する。	榮
23	演習（21）	陶芸（1）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
24	演習（22）	陶芸（2）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
25	演習（23）	陶芸（3）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
26	演習（24）	陶芸（4）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
27	演習（25）	陶芸（5）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
28	演習（26）	陶芸（6）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
29	演習（27）	陶芸（7）	陶芸における学習目標①②を理解・習得する。	宮城
30	演習（28） まとめ	陶芸（8）	陶芸における学習目標③を理解する。	宮城

評価方法	課題提出（90%）、講義に対する姿勢（10%）
課題に対するフィードバック	授業を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない（資料を配付する）。
参考図書	浅沼辰志・編『作業学改訂第３版』メジカルビュー、2021 年 岩瀬義昭・他『作業－その治療的応用 改訂第２版』協同医書出版社、2003 年 古川浩・監修『作業活動実習マニュアル第２版』医歯薬出版株式会社、2018 年 山根寛・著『ひとと作業・作業活動　作業の知をとき技を育む　新版』三輪書店、2017 年
学習の準備	1　（予習）次回の資料を通読し、用語を確認しておく 2　（予習）参考図書にあたり、次回行う作業の分析内容（材料、道具、手順、作業のもつ意味、禁忌など）について確認しておく 3　（復習）講義中に指示のあった課題に取り組む。理解が不十分である箇所を明確にしておき、次の講義で質問できるよう準備をする（計１時間）
オフィスアワー	常勤講師は金曜日 12：10～13：00、16：10～17：00　その他在室時は対応可。 非常勤講師は講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	榮志津江は、民間病院および施設で身体障害領域および高齢期障害領域における作業療法の実務経験を、また宮城由美子は、民間病院で精神障害領域における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	作業療法評価学演習Ⅱ （身体・老年期・発達障害）	担当教員	三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1062	②、③、④

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで、本科目では、作業療法評価学で学習した内容をふまえて、中枢神経疾患および末梢神経疾患および発達障害に対する専門的な検査方法について演習を行い、測定方法を理解する。またその際の特徴的な動作（代償方法、障害に特有の動作等）についても観察、考察できるようになることが目標である。また、観察したことから障害の原因を分析し、問題解決能力を養う。
学習目標	①　末梢神経障害に特有な評価について手順を理解し、実施できる。 ②　脳卒中を含む中枢神経障害の評価について手順を理解し、実施できる。 ③　発達のスクリーニング検査について、手順を理解し実施できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 末梢神経障害に対する評価(1)	神経誘発試験の演習	神経誘発試験の手順を理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
2	末梢神経障害に対する評価(2)	拘縮評価の演習	外在筋・斜支靭帯・内在筋拘縮の検査手順を理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
3	末梢神経障害に対する評価(3)	反射検査の演習	反射検査の手順を理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
4	末梢神経障害に対する評価(4)	感覚・知覚検査の演習 （防御知覚・閾値・局在・二点識別・デロン物体識別検査・モバーグピックアップ検査）	知覚検査の手順を理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
5	感覚障害に対する作業療法	末梢神経障害、中枢神経障害による感覚・知覚障害の治療の考え方	感覚障害の治療の考え方を理解する。	久保
6	末梢神経障害に対する評価(5)	上肢機能検査の演習	上肢機能検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
7	中枢神経障害に対する評価(1)	脳神経検査の演習	脳神経検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
8	中枢神経障害に対する評価(2)	協調性検査の演習	協調性検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
9	協調運動障害に対する作業療法	脳卒中を含む中枢性の協調運動障害 協調運動障害評価の演習	脳卒中を含む中枢性の協調運動障害、その評価および治療の考え方を理解する。	三宅
10	中枢神経障害に対する評価(3)	脳卒中を含む中枢性の運動障害および姿勢反射障害 姿勢反射検査の演習	姿勢反射検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
11	筋緊張異常に対する作業療法	脳卒中を含む中枢性の運動障害および筋緊張異常について 筋緊張異常評価の演習	筋緊張異常の評価および治療の考え方について理解し、治療手技を体験する。	三宅
12	中枢神経障害に対する評価(4)	片麻痺機能テストの演習	片麻痺機能テストの手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
13	中枢神経障害に対する評価(5)	FMA、MAL、SIAS の演習	FMA、MAL、SIAS の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅

14	発達障害に 対する評価(1)	発達検査の演習（1） デンバー式発達スクリーニング検査	デンバー式発達スクリーニング検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	佐藤
15	発達障害に 対する評価(2)	発達検査の演習（2） 遠城寺乳幼児分析的発達検査法	遠城寺乳幼児分析的発達検査法の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	佐藤

評価方法	筆記試験（50%）・実技試験（50%）
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に適宜行い、試験に関しては試験終了後オフィスアワーで対応する。
教科図書	鈴木則宏・編『神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ 改訂第 2 版』メジカルビュー社、2015 年 『病気が見える vol. 7 脳・神経 第 2 版』MEDIC MEDIA、2017 年
参考図書	矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野作業療法評価学 第 3 版』医学書院、2017 年 鎌倉矩子、他・編『作業療法士のためのハンドセラピー入門 第 2 版』三輪書店、2006 年
学習の準備	予習：人体構造機能学、作業療法評価学および演習 I （身体・老年期障害）の知識を整理しておくこと。 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（計 1 時間）
オフィスアワー	講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	久保勝幸は、民間病院で末梢神経障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 三宅環は、民間病院で中枢神経障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 佐藤拓也は、民間病院で発達障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	作業療法評価学（精神障害）	担当教員	松田 竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1071	①、②、③、④、⑤

科目概要	精神障害に対する作業療法評価は「援助のための理解」を目的に行われる「質的評価」が主となる。対象者の活動や参加、環境を評価する。一方、他の障害と同様に、援助の基準、内容を決めるために「量的評価」も必要である。本講義ではこれらを踏まえ、各疾患の評価の進め方、精神障害における評価の特徴、評価尺度について学習していく。
学習目標	①　精神障害領域における作業療法評価の意義について説明できる。 ②　精神障害領域の質的・量的評価の重要性が説明でき、演習を通じて臨床イメージができる。 ③　作業療法評価計画を立案し、計画の重要性について説明できる。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	精神障害作業療法の概要	オリエンテーション 精神科作業療法の流れ、精神科作業療法の評価、情報収集、各評価項目について	評価について考え、人的環境を中心に、物理的、制度、サービスなど精神障害の生活環境を理解する。	
2	作業療法評価の実際１	面接の基本知識と注意点	面接を実施するにあたり、その基本的な構造と必要な注意点について理解し、具体的に面接を進める手順を説明できる。	
3	作業療法評価の実際２	観察の基礎知識と注意点	観察項目を列挙し、場面の状況による影響を理解した上で、観察内容の結果を整理できる。	
4	疾患別による評価１	疾患別による評価観察の基本知識と注意点(1) 統合失調症・気分障害・アルコール依存症・てんかん他	各疾患の特性や注意点に合わせた評価を理解する。	
5	疾患別による評価２	疾患別による評価観察の基本知識と注意点(2) 神経症性障害・摂食障害・パーソナリティ障害・自閉スペクトラム障害他	各疾患の特性や注意点に合わせた評価を理解する。	
6	症例評価計画立案	模擬的に症例評価の計画を立案する。	設定された条件下で模擬的な対象者に対しての評価計画の立案を立てることができる。	
7	症例評価計画立案	模擬的に症例評価の計画を立案する。	入手した情報の整理と分析を行える。	
8	まとめ	評価結果や治療目標立案を発表 評価結果の表現・視点・分析への質疑応答	入手した情報の整理と分析を経た評価結果を発表し自分の考えを伝えることができる。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成教材
参考図書	山根寛・著『精神障害と作業療法　新版』三輪書店、2017 年 上野 武治・著『標準理学療法・作業療法学　精神医学第 4 版増補版』医学書院、2021 年 香山明美、他・編『生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで－ 第 2 版』医歯薬出版株式会社、2014 年 石井良和、他・編『精神障害領域の作業療法』中央法規、2010 年 早坂友成・編著『精神科作業療法の理論と技術』メジカルビュー社、2018 年

学習の準備	予習：参考図書に目を通し、どういった事柄が重要視されているのか考える機会とする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	担当教員	松田 竜幸※ 森元 隆文※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1082	①、②、③、④、⑤

科目概要	作業療法評価学（精神障害）を踏まえて、事例を想定し精神障害における評価過程を学習する。精神科領域の評価においてはかかわり行為と切り離せないため、対象者との関係のとりかた、対象者に不利益とならない治療的配慮、そして必要な情報の収集など、混在したかかわり行為についても検討し、その上で情報の収集としての対象者観察、面接技術、作業遂行のチェックや各種精神機能、心理状態、生活状況、自らの語りを受けとめる評価スケールの概要や使用方法について演習を通して体験し習得する。
学習目標	①　精神障害領域でどのような評価が行われているか説明できる。 ②　評価方法並びに意義や項目の特性を説明できる。 ③　評価結果の分析に関する情報整理や考察を進められる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	面接	面接による関わりと情報収集について	模擬的な相互交流を通してかかわり行動や情報収集ならびに適切な対応を体験し面接について理解する。	松田
2	観察	観察による情報収集とその整理について	模擬的な相互交流を通して観察の視点を理解し、体験につなげる。	松田 泊り
3	症状評価尺度	精神障害各種の症状評価尺度について	観察法の発展として各種の症状評価尺度について学び理解する。	松田
4	社会機能評価(1)	社会機能の評価とその尺度について	各種社会機能の評価尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
5	社会機能評価(2)	社会機能の評価について	社会機能の評価尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
6	認知機能評価(1)	認知機能の評価とその尺度について	各種認知機能の評価尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
7	認知機能評価(2)	認知機能の評価について	認知機能の評価尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
8	クライエントとの協業的評価(1)	クライエントとの協業的な評価とその尺度について	協業的な評価の尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
9	クライエントとの協業的評価(2)	クライエントとの協業的な評価について	協業的な評価の尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
10	他部門情報	他部門情報の入手とその整理について	他部門情報の優先度や重要度を理解し、情報の整理ができる。	松田
11	作業観察	作業観察について	模擬的な相互交流を通して作業観察の視点を理解し、体験につなげる。	松田
12	情報のまとめ、焦点化	情報のまとめと焦点化について	入手した情報の優先度や重要度をふまえての情報の整理、まとめ、重要点への焦点化ができる。	松田
13	目標設定	目標の設定について	入手した情報の優先度や重要度をふまえて対象者に即した目標の設定をすすめることができる。	松田

14	プログラム立案	プログラム立案について	入手した情報の優先度や重要度をふまえて対象者に即したプログラムの立案ができる。	松田
15	まとめ	一連の評価実践のまとめ	評価によって得られた情報についてのまとめや見解の相互交流を通し、自分達の打ち出した結果の統合解釈ができる。	松田

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成教材
参考図書	山根寛『精神障害と作業療法 新版』三輪書店、2017 年 上野武治『標準理学療法・作業療法学　精神医学第 4 版増補版』医学書院、2021 年 香山明美、他・編『生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで－ 第 2 版』医歯薬出版株式会社、2014 年 石井良和、他・編『精神障害領域の作業療法』中央法規、2010 年 早坂友成・編著『精神科作業療法の理論と技術』メジカルビュー社、2018 年
学習の準備	復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(1 時間)
オフィスアワー	常勤講師は毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。 非常勤講師は、講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	松田竜幸、森元隆文は、民間病院で精神障害領域における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	作業療法評価学（発達障害）	担当教員	佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1091	③、④

科目概要	発達期に生じた障害を有する小児にとって課題となるADL、遊び、学業（就労）について作業療法が支援をする上では、これらの基盤となる運動機能、感覚－知覚－認知機能、心理・社会機能といった作業遂行要素への介入が必要となる。作業遂行要素は相互に密接に関係しながら発達しており、対象児にとって必要な支援の方法を探るため、これらの発達過程について理解を深め、幅広い視野をもって、対象児の障害構造を評価する視点を養う。
学習目標	① 発達障害領域における作業療法評価の概要を理解する。 ② 発達障害領域での主な作業遂行要素、および総合的な評価の視点を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	評価の概要	発達障害領域の作業療法、評価～治療の概要	発達障害領域における作業療法、および評価～治療の概要について理解する。	
2	評価の実際	評価～治療の実際 1	評価計画、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、再評価の各ステップでの留意点について理解する。	
3	評価の実際	評価～治療の実際 2	評価過程で用いられる検査の種類、選択について理解する。	
4	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 1	粗大運動（姿勢・移動）の正常発達過程に則った評価の視点を理解する。	
5	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 2	姿勢・移動運動の正常発達からの逸脱について、疾患の影響を考慮した評価の視点を理解する。	
6	評価の実際	上肢、視覚、認知機能の発達評価	上肢、視覚、認知機能について、粗大運動発達との関連から評価の視点を理解する。	
7	評価の実際	感覚－知覚機能、心理・社会機能の発達評価	感覚－知覚機能、心理・社会機能について、正常発達過程から評価の視点を理解する。	
8	評価の実際	遊び、ADL、学業（就労）の発達評価	遊び、ADL、学業、職業選択について、正常発達過程から評価の視点を理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	長崎重信・監修「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　発達障害作業療法学（第 3 版）」 メジカルビュー社
参考図書	前川喜平・著『小児の神経と発達の診かた』新興医学出版社、2003 年 大城昌平・編『リハビリテーションのための人間発達学 第 2 版』メディカルプレス、2014 年 奈良勲、鎌倉矩子・監『標準理学療法学作業療法学 人間発達学』医学書院、2010 年 など
学習の準備	1.（予習）次回のテキスト等の通読と用語の確認をする（2 時間）。 2.（復習）講義内容の理解／不十分である箇所を明確にし、不十分な箇所は担当教員に質問できるよう準備する（2 時間）。

オフィスアワー	火曜日～金曜日　13 時～17 時　随時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業療法評価学（高次脳機能障害）	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR02K1101	③、④

科目概要	認知機能が破綻した、あるいは破綻する可能性のある対象者の日常生活を支援することが作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した認知機能の概要、神経機能解剖学を基礎として、既存の神経心理学的検査や評価手法の理論的構造、行動観察の視点について学習を行う。その過程で、種々の認知機能の構造と病態に関する理解を深める。加えて、加齢に伴う認知機能の変化や疾病による認知機能の低下が人の生活に与える具体的影響について学習を行う。
学習目標	①　人の認知機能を支える神経基盤を理解する。 ②　主たる認知機能とその障害を理解する。 ③　主たる認知機能障害の評価方法を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	認知機能とその神経基盤	神経機能解剖を理解する。	
2	注意機能	注意機能の諸側面と注意障害	注意機能を構成する諸側面を理解し、その評価方法を理解する。	
3	記憶機能	記憶機能の諸側面と記憶障害	記憶機能を構成する諸側面を理解し、その評価方法を理解する。	
4	半側空間無視	半側空間無視の諸側面	半側空間無視のタイプを理解し、その評価方法を理解する。	
5	行為機能	行為機能の諸側面と行為障害	行為機能を構成する諸側面を理解し、その評価方法を理解する。	
6	言語機能	言語機能の諸側面と言語障害	言語機能を構成する諸側面を理解し、その評価方法を理解する。	
7	遂行機能	遂行機能の諸側面と遂行機能障害	遂行機能を構成する諸側面を理解し、その評価方法を理解する。	
8	その他の認知機能	その他の認知機能とその障害について	様々な認知機能を理解し、それに対応する評価方法を理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	多くの良書が出版されている。講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	毎週木曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業療法評価学演習Ⅳ （高次脳機能障害）	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR02K1112	③、④、⑤					

科目概要	認知機能が破綻した、あるいは破綻する可能性のある対象者の日常生活を支援することが作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した内容を踏まえ、既存の神経心理学的検査や評価手法を、健常者を対象として経験する。その過程で、種々の認知機能の構造に関する理解を深める。加えて、加齢に伴う認知機能の変化や疾病による認知機能の低下が人の生活に与える具体的影響について、それらの検査や評価結果からどのように臨床的推論をすすめていくのかを教授する。
学習目標	①　認知機能を評価する理論的枠組みを理解する。 ②　認知機能障害を評価するための評価方法・検査の構造を理解する。 ③　既存の評価方法・検査をマニュアルに沿って実施することができる。 ④　認知機能障害を有する対象者の評価結果を ICF で捉えることができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	認知機能障害の評価総論	認知機能を評価することの意味について学習する。	佐々木
2	知的機能評価１	MMSE、HDS-R、WAIS の内容を理解する。	MMSE、HDS-R、WAIS を実施できる。	佐々木
3	知的機能評価２	Kohs 立方体検査、レーヴン色彩マトリクス検査の内容を理解する。	Kohs 立方体検査、レーヴン色彩マトリクス検査を実施できる。	佐々木
4	注意機能評価１	CATS の内容を理解する。	CATS を実施できる。	佐々木
5	注意機能評価２	TMT、かなひろいテストの内容を理解する。	TMT、かなひろいテストを実施できる。	佐々木
6	記憶機能評価１	WMS-R、RBMT の内容を理解する。	WMS-R、RBMT を実施できる。	佐々木
7	記憶機能評価２	三宅式記銘検査、レイ複雑図形検査の内容を理解する。	三宅式記銘検査、レイ複雑図形検査を実施できる。	佐々木
8	半側空間無視	BIT の内容を理解する。	BIT を実施できる。	佐々木
9	行為機能評価１	SPTA、WAB（行為検査部分）の内容を理解する。	SPTA、WAB（行為検査部分）を実施できる。	佐々木
10	行為機能評価２	生活物品の使用障害の評価について理解する。	生活物品の使用障害の評価を実施できる。	佐々木
11	遂行機能・前頭葉機能評価	BADS、FAB の内容を理解する。	BADS、FAB を実施できる。	佐々木
12	失認の評価	VPTA の内容を理解する。	VPTA を実施できる。	佐々木
13	道順障害・脳梁損傷の評価	道に迷う症状に対する評価を理解する。 脳梁離断症状に対する評価を理解する。	道に迷う症状に対する評価を実施できる。 脳梁離断症状に対する評価を実施できる。	佐々木
14	その他	その他の認知機能障害に対する評価を理解する。	その他の認知機能障害に対する評価を実施できる。	佐々木

15	症例検討	認知機能障害を有する症例を ICF で捉える。	認知機能障害を有する症例を ICF にまとめることができる。	佐々木
評価方法	筆記試験（100%）			
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。			
教科図書	なし			
参考図書	多くの良書が出版されている。講義内で紹介する。			
学習の準備	予習として，次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。 復習として，講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。（計 1 時間）			
オフィスアワー	毎週木曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	佐々木努は、民間病院で認知機能障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。			

科目名	保健医学英語 II	担当教員	大田原 裕紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	3年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC3D0251	②、⑤

科目概要	将来、臨床の現場で根拠に基づいたケアを行い、専門性を磨き、患者や家族を支える PT・OT として成長し続けるために、医療研究論文の Abstract（抄録）を正確に読み取る能力を身につけることは必要不可欠である。本講義では、「保健医学英語 I」で学んだ内容をもう一歩進めて、さまざまなけがや疾患の典型的な症例について書かれた英文を読み進めることで、医療研究論文に頻出する専門的な語彙や構文をより的確に捉える能力を養うことを目指す。授業の後半では、実際に英語で書かれた抄録を読み、その内容について発表（報告）してもらうという学習体験を積む。
学習目標	①さまざまなけがや疾患に関する英語で書かれた文章の意味を的確に捉えられるようになる。 ②医療研究論文に頻出する専門的語彙に習熟する。 ③課題や目標達成に向け、自律と協同の学習を遂行できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	講義の目的、見通し、ルールと成績評価方法、学習目標	講義の見通しを持つことができる	
2	大腿骨頸部骨折	Femoral Neck Fracture	大腿骨頸部骨折について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
3	変形性膝関節症	Osteoarthritis of the Knee	変形性膝関節症について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
4	コレス骨折	Colles' Fracture	コレス骨折について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
5	ロコモティブシンドローム	Locomotive Syndrome	ロコモティブシンドロームについて理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
6	慢性腰痛症	Chronic Low Back pain	慢性腰痛症について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
7	復習テスト(1) 脊髄損傷	Spinal Cord Injury	脊髄損傷について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	
8	適応障害と症候性うつ状態	Adjustment Disorder and Symptomatic Depression	適応障害と症候性うつ状態について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
9	パーキンソン病	Parkinson's Disease	パーキンソン病について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
10	脳血管障害	Cerebrovascular Disease	脳血管障害について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	
11	認知症	Dementia	認知症について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる	

12	復習テスト(2) 糖尿病	Diabetes Mellitus	糖尿病について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる これまで学んだ単元の重要ポイントを整理することができる	
13	慢性閉塞性肺疾患	COPD, Prepare for the final presentation (report) of the chosen abstract	慢性閉塞性肺疾患について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる 発表（報告）する論文のアブストラクトを検索し、読み進める	
14	脳性麻痺	Cerebral Palsy, Prepare for the final presentation (report) of the chosen abstract	大腿骨頸部骨折について理解する それぞれの英文を正確に把握し、意味を捉えることができる 発表（報告）する論文のアブストラクトを読み進めたうえで、その内容をまとめる	
15	まとめ	Final presentation (report) of the chosen abstract, Wrap-up	各自（各グループ）で選んだ論文のアブストラクトについて発表（報告）する	

評価方法	授業への積極的参加 (30%), 授業内で複数回実施する復習テスト (40%), プロジェクト(課題や提出物を含む) (30%)
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	細田多穂・監『リハビリテーション英語テキスト』南江堂、2017 年
参考図書	適宜、授業内で連絡する。
学習の準備	1　事前に教科書の該当箇所に目を通す。(2 時間) 2　事後に教科書やノートを見直し、講義のポイントを復習する。(2 時間
オフィスアワー	火曜日　10 時 40 分～12 時 10 分 その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	神経障害理学療法学	担当教員	久保田健太 小塚 直樹 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0651	③、④、⑤、⑥

科目概要	脳卒中などの脳血管障害、および脳性麻痺を中心とした発達障害児の病態生理を理解し，神経障害理学療法に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。さらに各疾患の症状、各疾患が引き起こす合併症や合併症が引きおこすリスク、予後予測に関しても理解を深める。また病態が引き起こす機能障害、能力低下に関し、神経疾患に特異的な理学療法評価方法および理学療法介入について、最新のエビデンスをふまえながら講義を行い、神経障害理学療法の流れを学習する。
学習目標	① 脳血管障害や脳性麻痺を引き起こす病態生理を理解する。 ② 脳血管障害者や脳性麻痺に対する理学療法評価を理解する。 ③ 脳血管障害者や脳性麻痺に対する基本的な運動療法について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	脳血管障害	脳血管障害総論①	脳血管障害の分類と中枢神経及び脳血管系の解剖生理を理解する。また脳血管障害の発生機序について理解し説明できる。	
2	脳血管障害	脳血管障害総論②	脳卒中後の神経学的回復と片麻痺機能検査について理解する。	
3	脳血管障害	超急性期理学療法・急性期理学療法	超急性期・急性期での医学的治療及び理学療法について理解する。	
4	脳血管障害	回復期理学療法①	片麻痺者の姿勢制御の特徴、及び理学療法評価を理解する。	
5	脳血管障害	回復期理学療法	課題志向型トレーニングや高頻度高強度プラクティスなど運動生理学的な背景を持つ motor learning program を理解する。	
6	脳血管障害	維持期理学療法	維持期における理学療法コンセプトを理解する。	
7	脳性麻痺	脳性麻痺の概念・正常発達と異常発達	脳性麻痺の主症状、随伴障害、原因を理解する。 動画による姿勢と運動の診方を理解する。	
8	脳性麻痺	脳性麻痺の総論	運動発達の遅滞と解離、解離の概念を理解する。 脳性まひの原因、定義、筋の性状による分類 脳性麻痺の運動発達経過（神経系の問題と運動器系の問題）について学習する。	
9	脳性麻痺	脳性麻痺の評価１ 脳性麻痺の評価と理学療法	痙直型・アテトーゼ型の障害特徴・評価・理学療法、について学習する。	
10	脳性麻痺	脳性麻痺の評価２ 障害像の Clinical Reasoning	GMFM、GMFCS などの評価バッテリー、評価の進め方、制限因子、目標について学習する。	
11	脳性麻痺	脳性麻痺の治療	EBM に基づく装具療法、手術療法、薬物療法と運動療法との併用を理解する。	
12	その他肢体不自由児	小児神経疾患・小児整形外科疾患	筋ジストロフィー症、二分脊椎の疾患概念、および評価と治療を理解する。	

13	その他肢体不自由児	精神遅滞児と染色体異常	精神遅滞とダウン症候群の疾患概念、および、評価と治療を理解する。	
14	その他肢体不自由児	重症心身障害児・者の特徴・評価	運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題を学習する。	
15	その他肢体不自由児	ハイリスク児の特徴と理学療法	NICU における児の認知・運動特性と評価・理学療法、母子愛着形成、子育て指導などについて学習する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	潮見泰藏・著『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション-カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ-』羊土社、2012 年 細田多穂、大城昌平、他・著『小児理学療法学テキスト 改訂第 4 版』南江堂、2024 年
参考図書	福井國彦・著『脳卒中最前線』医歯薬出版、2003 年 伊藤利之、江藤文夫・編『新版日常生活活動（ADL）-評価と支援の実際-』医歯薬出版、2010 年
学習の準備	各回の復習（4 時間）は必ず行うこと
オフィスアワー	月曜日 16 時 20 分から 17 時 50 分
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	神経障害理学療法学演習	担当教員	久保田 健太※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0662	③、④、⑤

科目概要	「神経障害理学療法学」で学習したことを基に、脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷に対する疾患特異的な理学療法評価を学習する。また評価学などで学んだROMテストやMMTなどの基礎的評価に関しても、神経疾患障害者にどう応用させていくかも学習する。基本的には、臨床での実際と机上での学習の橋渡しとして、症例ビデオを用いたケーススタディを行い、個々の検査結果を統合解釈する過程を通して、問題解決能力の向上を目的に演習を行う。
学習目標	① 神経疾患に対する評価を抽出することができる。 ② 評価結果を統合解釈し、問題点を抽出することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習 1	オリエンテーション	神経障害理学療法学演習で行う、神経障害に対する理学療法評価の流れを理解する。	久保田
2	演習 2	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
3	演習 3	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
4	演習 4	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
5	演習 5	動作分析	ケーススタディの事前準備としてビデオを用いた動作分析を行い、動作分析の習熟度をあげる。	久保田
6	演習 6	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
7	演習 7	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
8	演習 8	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
9	演習 9	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
10	演習 10	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
11	演習 11	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
12	演習 12	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
13	演習 13	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田

14	演習 14	ケーススタディ	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田
15	演習 15	ケーススタディ 1	症例を用いたケーススタディにて、実際の神経疾患に対する理学療法の流れや考え方を学習する。	久保田

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	潮見泰藏・著『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション-カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ-』羊土社、2012 年
参考図書	福井國彦・著『脳卒中最前線』医歯薬出版、2003 年 伊藤利之、江藤文夫・編『新版日常生活活動（ADL）-評価と支援の実際-』医歯薬出版、2010 年
学習の準備	グループで講義一回につき、復習（1 時間）をしっかりすること
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:50、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	久保田健太は、民間病院で脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷分野における理学療法の勤務経験を有しており、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	運動器障害理学療法学	担当教員	小林 巧 角瀬 邦晃 小林 匠 神成　透 ※印は実務経験のある教員を示す。

開　講　専　攻	分　野	種　別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3L0681	③、④					

科　目　概　要	運動器疾患に対する基本的な理学療法評価および治療を行うために必要な知識を身につけることを目的とする。骨折や靭帯損傷などの外傷、リウマチや関節症などの整形外科疾患に関して、「運動器障害基礎論」において学んだ各疾患の病態や医学的な治療法と「理学療法基礎評価学Ⅱ」で学んだ評価方法および評価手技に関する知識を統合して、運動器疾患の理学療法を行うための評価・治療理論を身につける。さらに運動器疾患の術前・術後におけるリスク管理を学習する。
学　習　目　標	①　代表的な運動器疾患に対する基本的な理学療法評価・治療の知識を身につける。 ②　代表的な運動器疾患に対する術前・術後のリスク管理に関する知識を身につける。

回	項　目	主　な　学　習　内　容	到　達　目　標	実務経験教員担当項　目
1	運動器障害理学療法の評価1	運動器障害理学療法評価の基礎①	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	
2	運動器障害理学療法の評価2	運動器障害理学療法評価の基礎②	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	
3	関節可動域エクササイズ	関節可動域エクササイズ（理論）	関節可動域エクササイズの基本的な考え方を理解する。	
4	筋力トレーニング	筋力トレーニング（理論）	筋力トレーニングの基本的な考え方を理解する。	
5	バランストレーニング	バランストレーニング（理論）	バランストレーニングの基本的な考え方を理解する。	
6	股関節１	股関節疾患（病態・理論）	代表的な股関節疾患の病態と治療法を理解する。	
7	股関節２	股関節疾患（評価）	代表的な股関節疾患に対する基本的な理学療法評価を理解する。	
8	膝関節１	膝関節疾患（病態・理論）	代表的な膝関節疾患の病態と治療法を理解する。	
9	膝関節２	膝関節疾患（評価）	代表的な膝関節疾患に対する基本的な理学療法評価を理解する。	
10	足部・足関節１	足部・足関節疾患（病態・理論）	代表的な足部・足関節疾患の病態と治療法を理解する。	
11	足部・足関節２	足部・足関節疾患（評価）	代表的な足部・足関節疾患に対する基本的な理学療法評価を理解する。	
12	肩関節１	肩関節疾患（病態・理論）	代表的な肩関節疾患の病態と治療法を理解する。	
13	肩関節２	肩関節疾患（評価）	代表的な肩関節疾患に対する基本的な理学療法評価を理解する。	

14	体幹１	体幹疾患（病態・理論）	代表的な体幹疾患の病態と治療法を理解する。	
15	体幹２	体幹疾患（評価）	代表的な体幹疾患に対する基本的な理学療法評価を理解する。	

評価方法	筆記試験（90%）・講義に対する姿勢（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	細田多穂・編『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2016 年
参考図書	医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』メディックメディア、2017 年 工藤慎太郎・著『運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略』医学書院、2017 年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション』メジカルビュー社、2014 年 石井慎一郎・監『膝関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 片寄正樹・監『足部・足関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 永井聡、他・編『股関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 石川朗、他・編『運動器障害理学療法学 Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011 年 相澤純也・監『クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!』羊土社、2017 年
学習の準備	1 （予習）運動器障害基礎論の内容および教科書の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	運動器障害理学療法学演習Ⅰ	担当教員	小林 巧※ 角瀬 邦晃※ 小林 匠※ 神成 透※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3L0692	③、④					

科目概要	基本的な運動器疾患の理学療法を行うために必要な知識の再構築と評価・治療手技の演習から、各疾患に対する理学療法の考え方を身につけることを目的とする。骨折や靭帯損傷などの外傷、リウマチや関節症などの整形外科疾患に関して、「人体構造機能学Ⅰ、Ⅱ」、「運動学」、「運動器障害基礎論」、「理学療法基礎評価学Ⅱ」、「運動器障害理学療法学」において学んだ知識を統合し、各疾患に関わる機能解剖、病態、評価、治療・予防の一連の流れを学ぶ。
学習目標	① 代表的な運動器疾患に対する基本的な理学療法評価・治療の技術を身につける。 ② 代表的な運動器疾患に対する術前・術後のリスク管理に関する技術を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	運動器障害理学療法評価１	運動器障害理学療法評価の基礎①	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	角瀬
2	運動器障害理学療法評価２	運動器障害理学療法評価の基礎②	運動器疾患に対する理学療法評価の流れを理解する。	角瀬
3	関節可動域エクササイズ	関節可動域エクササイズ（方法）	関節可動域エクササイズの種類と方法を理解する。	角瀬
4	筋力トレーニング	筋力トレーニング（方法）	筋力トレーニングの種類と方法を理解する。	角瀬
5	バランストレーニング	バランストレーニング（方法）	バランストレーニングの種類と方法を理解する。	角瀬
6	股関節１	股関節疾患（動作分析）	代表的な股関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林巧
7	股関節２	股関節疾患（治療）	代表的な股関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林巧
8	膝関節１	膝関節疾患（動作分析）	代表的な膝関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林巧
9	膝関節２	膝関節疾患（治療）	代表的な膝関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林巧
10	足部・足関節１	足部・足関節疾患（動作分析）	代表的な足部・足関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	小林匠
11	足部・足関節２	足部・足関節疾患（治療）	代表的な足部・足関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	小林匠
12	肩関節１	肩関節疾患（動作分析）	代表的な肩関節疾患の基本動作における特徴を理解する。	神成
13	肩関節２	肩関節疾患（治療）	代表的な肩関節疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	神成

14	体幹１	体幹疾患（動作分析）	代表的な体幹疾患の基本動作における特徴を理解する。	神成
15	体幹２	体幹疾患（治療）	代表的な体幹疾患に対する基本的な理学療法を実践できる。	神成

評価方法	レポート課題（90%）・講義に対する姿勢（10%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	細田多穂・編『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2016 年
参考図書	医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』メディックメディア、2017 年 工藤慎太郎・著『運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略』医学書院、2017 年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション』メジカルビュー社、2014 年 石井慎一郎・監『膝関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 片寄正樹・監『足部・足関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 永井聡、他・編『股関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 石川朗、他・編『運動器障害理学療法学 Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011 年 相澤純也・監『クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!』羊土社、2017 年
学習の準備	復習として、授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	小林巧・角瀬邦晃・小林匠・神成透は、病院で運動器疾患における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	内部障害理学療法学	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 小山 昭人 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年生	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3L0711	②、③、④、⑤					

科目概要	呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。呼吸器疾患に関しては、主にCOPD、間質性肺炎、肺炎に対する呼吸リハビリテーションについて、循環器疾患に関しては、主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患に対するリハビリテーションについて、その理論的背景から評価、治療までを中心に学習する。
学習目標	【代謝障害（糖尿病)】 ①　２型糖尿病の病態および合併症を理解する。 ②　血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・運動・薬物）について学ぶ。 ③　患者教育の重要性について学ぶ。 【呼吸器】 ①　呼吸障害ならびに呼吸リハビリテーションの概念を理解できる。 ②　疾患別の呼吸リハビリテーションについて理解できる。 【循環器】 ①　虚血性心疾患、心不全、大血管疾患のリハビリテーションについて理論的背景を理解できる。 ②　心筋梗塞のリハビリテーション（評価、治療）を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション(1)	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション概論	呼吸リハビリテーションの役割ならびに構成要素を理解する。	
2	呼吸リハビリテーション(2)	呼吸リハビリテーションにおける評価	呼吸リハビリテーションに必要な検査値、フィジカルアセスメント、運動耐容能、健康関連QOL の評価について理解する。	
3	呼吸リハビリテーション(3)	COPD に対する呼吸リハビリテーション	COPD に対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
4	呼吸リハビリテーション(4)	間質性肺炎、誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーション	間質性肺炎ならびに誤嚥性肺炎に対する呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
5	呼吸リハビリテーション(5)	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーション	急性呼吸不全、周術期の呼吸リハビリテーションの評価から治療の実際までの一連の流れを理解する。	
6	心臓リハビリテーション(1)	オリエンテーション 概論	人体構造機能学を確認する。 心臓リハビリテーションの概要を理解する。	
7	心臓リハビリテーション(2)	循環器疾患の病態（虚血性心疾患・弁膜疾患・不整脈）	理学療法の対象となる、代表的な循環器疾患の病態を理解する。	
8	心臓リハビリテーション(3)	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）	運動生理（特に運動耐容能や酸素運搬系）について理解する。	
9	心臓リハビリテーション(4)	心臓疾患の評価（観血的評価・非観血的評価）	心臓疾患の観血的評価・非観血的評価について理解する。	
10	心臓リハビリテーション(5)	心臓リハ（心筋梗塞リハの病期区分と各期の考え方）	心筋梗塞のリハビリテーションの概要を理解する。	

11	糖尿病の概念	疾患の考え方、診断、糖尿病の経過と合併症	２型糖尿病の病態および合併症を理解する。	
12	検査と治療	診断のための検査、臨床検査値、治療目標	血糖コントロールに必要な検査、治療（食事・薬物）について理解する。	
13	糖尿病の理学療法	血糖コントロールのメカニズム 運動療法、リスク管理	理学療法の必要性を理解する。	
14	患者教育	継続するための治療、患者心理と教育	患者教育の重要性について理解する。	
15	まとめ	まとめ	本講義で学んだ事柄について、それぞれ関連付けて説明することができる。	

評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	【代謝障害（糖尿病）】 日本糖尿病学会編・著『糖尿病治療ガイド 2022-2023』文光堂、2022 年 【呼吸器・循環器】 細田多穂・監『内部障害理学療法学テキスト 改訂第 4 版』南江堂、2022 年
参考図書	【代謝障害（糖尿病）】 清野裕 他・監『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社、2015 年 【呼吸器】 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会ワーキンググループ 他・編著『呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法 第 2 版』照林社、2012 年 高橋仁美 他・編『動画でわかる呼吸リハビリテーション 第 3 版』中山書店、2012 年 玉木彰･編『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第 2 版』中山書店、2017 年 千住秀明 他・監『呼吸理学療法標準手技』医学書院、2008 年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（呼吸器）』メディックメディア、2013 年 【循環器】 居村茂幸・監『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション』羊土社、2009 年 石川朗・総編集『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第 2 版』中山書店、2017 年 医療情報科学研究所・編『病気がみえる（循環器）第 5 版』メディックメディア、2021 年
学習の準備	（予習） 指定した教科書、もしくは事前に配布した資料について予習をしておくこと。(2 時間) （復習）人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系)、人体構造機能学Ⅱ(内臓・脈管系)、内部障害基礎論の講義内容を復習しておくこと。(2 時間)
オフィスアワー	森野・信太：月・火・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時 小山：授業前後の 30 分間
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	内部障害理学療法学演習Ⅰ	担当教員	森野 陽※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0722	③、④、⑤、⑥

科目概要	・呼吸リハビリテーションで実施される頻度の多い評価である、骨格筋機能、呼吸機、運動耐容能の評価、フィジカルアセスメントについてその方法を理解し、実践する。また症例情報から問題点を抽出する過程を学ぶ。 ・人工呼吸器の機能と役割を理解し、呼吸リハビリテーションとの関わりを知る。 ・治療手技の1つである呼吸介助・排痰法、気管内吸引を体験する。
学習目標	① 呼吸リハビリテーションにおける評価を理解でき、その結果を解釈できる。 ② 人工呼吸器の機能と役割ならびに呼吸リハビリテーションとの関わりを知る。 ③ 呼吸リハビリテーションにおける治療手技を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論 フィジカルアセスメント1	オリエンテーション フィジカルアセスメント１	呼吸リハビリテーションの全体像を理解し、評価、治療の位置づけを理解する。 フィジカルアセスメントの視診、触診について理解を深め、健常者において実践できる。	森野
2	フィジカルアセスメント２	フィジカルアセスメントに関する生理学的な解釈	内部障害における呼吸循環の応答に関する病態生理学を理解する。	森野
3	フィジカルアセスメント３	聴診	フィジカルアセスメントの聴診について理解を深める。	森野
4	評価１	呼吸リハビリテーションにおける心身機能・構造の評価	呼吸器疾患患者における筋力評価、呼吸機能評価、運動耐容能の評価を理解できる	森野
5	評価２	呼吸リハビリテーションにおける活動・参加の評価	呼吸器疾患患者における日常生活活動、健康関連 QOL の評価を理解できる	森野
6	運動負荷試験１	様々な運動負荷試験	様々な運動負荷試験を知り、呼吸循環応答を理解する。	森野
7	運動負荷試験２	6 分間歩行試験	6 分間歩行試験の方法を理解し、実施できる。	森野
8	喀痰吸引１	スタンダードプレコーション 喀痰吸引に必要な器具	気管内吸引に必要なスタンダードプレコーションについて理解できる。 喀痰吸引に必要な器具の使用方法を理解できる。	森野
9	喀痰吸引２	気管内吸引	気管内吸引の仕組みを理解できる。	森野
10	人工呼吸・酸素療法１	人工呼吸器	人工呼吸器の設定とその特性を理解することができる。	森野
11	人工呼吸・酸素療法２	酸素療法	在宅酸素療法の意義が理解できる。	森野
12	排痰法１	排痰法の理論	排痰法の名称と手順、適応と禁忌を理解できる。	森野
13	排痰法２	排痰法の実践	健常者を対象に排痰法を実施できる。	森野

14	評価のまとめ 2	・問題点の統合と解釈 ・症例情報、問題点、結果の解釈をまとめ、症例報告書を作成する	・それぞれの問題点の関連を理解し、評価結果の解釈ができる。 ・呼吸リハビリテーションにおける一般的な症例報告書を作成することができる。	森野
15	評価から治療プログラムの立案	評価結果と治療プログラムの立案	模擬症例を通じて、評価結果の解釈ならびに問題点の抽出、治療プログラムを立案する流れを理解する。	森野
評価方法		レポート課題 50%、筆記試験 30%、講義に対する姿勢 20%		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		なし		
参考図書		日本呼吸ケア・リハビリテーション学会　他・編『呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法 第 2 版』照林社、2012 年 高橋仁美 他・編『動画で分かる呼吸リハビリテーション 第 4 版』中山書店、2016 年 石川朗、玉木彰・編『15 レクチャーシリー /理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第 2 版』中山書店、2017 年		
学習の準備		（予習）参考図書にて予習をしておくこと。内部障害理学療法学の該当範囲を理解しておくこと （復習）授業中に配布した資料を見直し、理解を深め、暗記すべきことを暗記すること（合計 1 時間）		
オフィスアワー		月・火・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		森野陽は、民間病院で呼吸器疾患における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かして慢性期から急性期に至るまでより実践的な指導をすることができる。		

科目名	理学療法ゼミⅠ	担当教員	隈元 庸夫 信太 雅洋 小林 巧 山中 正紀 小塚 直樹 久保田 健太 世古 俊明 森野 陽 佐藤 公博 小川 峻一 伊藤 俊輔 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	通年	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3H0881	③、④、⑤					

科目概要	本科目では、指導教員の指導のもと、論文抄読を通じて、思考力ならびに科学的な観察力を身に付ける。論文抄読においては、PICOつまりP：patient、I: intervention、C: comparison、O: outcomeを明らかにすることを意識しながら、論文の批判的吟味を行うことができるようになることを目標とする。
学習目標	① 研究の流れを理解する。 ② 論文の批判的吟味ができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	研究の流れ	研究企画書から結果報告までの過程を理解する。	担当教員全員
2	演習 2-10	論文抄読	興味のあるテーマに沿った論文抄読を行い、研究テーマを探る。論文の批判的吟味ができる。	担当教員全員
3	演習 11-15	研究テーマの探索	研究テーマを設定する。	担当教員全員

評価方法	学習への取り組み（100%）
課題に対するフィードバック	各ゼミにて対応する。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	1 （予習）興味がある分野の論文を事前に読んでみること（2 時間） 2 （復習）論文を理解する上で必要な知識について復習すること（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	スポーツ傷害理学療法学	担当教員	角瀬 邦晃 神成 透 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0901	③、④、⑤

科目概要	スポーツ損傷に対する基本的な理学療法評価および治療を行うために必要な知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で発生頻度の高い捻挫や靭帯損傷などの外傷と、オーバーユースによって生じる関節障害、成長期に特異的なスポーツ傷害などに関して、機能解剖、病態、受傷機転、診断・評価、治療・予防の一連の流れを学習し、地域のスポーツ競技者・愛好者に貢献できる知識の習得を目標とする。
学習目標	① 代表的なスポーツ外傷および障害に関する基本的な知識を身につける。 ② 代表的なスポーツ外傷および障害に対する理学療法の評価と治療に必要な知識を身につける。 ③ 代表的なテーピング手技に関する知識と基本的技術を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	スポーツ外傷・障害に対する理学療法の概要	スポーツ外傷・障害に対する理学療法とスポーツ特異的な動作に関して理解する。	
2	下肢のスポーツ理学療法①	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法	代表的な下肢スポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。	
3	下肢のスポーツ理学療法②	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法	代表的な下肢スポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。	
4	国際大会における PT の役割	国際大会において理学療法士が果たす役割	国際大会における理学療法士の役割や実際の内容について理解する。	
5	上肢・体幹のスポーツ理学療法①	上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法	代表的な上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。	
6	上肢・体幹のスポーツ理学療法②	上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法	代表的な上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法を理解する。	
7	テーピング①	足関節捻挫に対するテーピング	足関節捻挫に対するテーピングの意義と手技を理解し、実践する。	
8	テーピング②	足関節捻挫に対するテーピング	足関節捻挫に対するテーピングの意義と手技を理解し、実践する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3 筆記試験，レポート課題の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	青木治人・監『スポーツリハビリテーションの臨床』メディカル・サイエンス・インターナショナル、2019 年
参考図書	臨床スポーツ医学編集委員会・編『スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 第 2 版』臨床スポーツ医学編集委員会、2015 年 宗田大・編『復帰をめざすスポーツ整形外科』メジカルビュー社、2011 年 片寄正樹、他・編『スポーツ理学療法プラクティス 機能評価診断とその技法』文光堂、2017 年 片寄正樹、他・編『スポーツ理学療法プラクティス 急性期治療とその技法』文光堂、2017 年 山本利春・編『競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング』文光堂、2014 年

学習の準備	1（予習）運動器傷害基礎論、運動器障害理学療法学、運動器障害理学療法学演習Ⅰの内容を確認する（2時間）。 2（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（2時間）。
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	高齢者理学療法学	担当教員	伊藤 俊一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0911	①、②、③、④、⑤、⑥

科目概要	本科目では、老年症候群（フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム）を中心とした理学療法の評価、治療および高齢者のリスク管理について講義を行う。
学習目標	① 本邦における高齢化の実態と社会問題について説明できる。 ② 老年症候群の概念について説明できる。 ③ 講義した疾患に対する高齢者理学療法評価とアプローチのポイントを説明できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	高齢者の特質の理解	高齢化の実態と世界および日本に於ける社会問題	高齢化の実態と高齢化に伴う社会問題を理解する。	
2	老年症候群について	老年症候群の概要と対策	老年症候群に対するリハの重要性と具体的対策を理解する。	
3	高齢者の運動機能･認知機能評価	高齢者の運動・認知機能評価方法と評価意義	高齢者の運動・認知機能評価と評価意義について理解する。	
4	高齢者理学療法学各論. 1	転倒･骨折予防に対する理学療法	転倒に対する機能評価と理学療法アプローチのポイントを理解する。	
5	高齢者理学療法学各論. 2	メタボリックシンドローム及び内部疾患に対する理学療法	メタボリックシンドローム及び内部疾患に対する機能評価と理学療法アプローチのポイントを理解する。	
6	高齢者理学療法学各論. 3	認知症等に対する理学療法	認知症に対する評価と理学療法アプローチのポイントを理解する。	
7	高齢者理学療法学各論. 4	高齢者の状態に応じた支援や目標設定	在宅、通所リハなどを含め、高齢者の状態に応じた理学療法の視点を養う。	
8	高齢者理学療法の今後について	高齢者理学療法における今後の課題と展望	高齢者理学療法の課題と今後の可能性について理解する（課題）。	

評価方法	定期試験（90%）、課題（10%）
課題に対するフィードバック	1. 講義中、講義終了後に質問を受けて回答する。 2. 試験の解説は別途時間帯でも対応する。
教科図書	特に指定しない（資料配布）
参考図書	島田裕之 ほか.『高齢者理学療法学』医歯薬出版, 2017 年 池添冬芽 ほか.『理学療法学テキスト、高齢者理学療法学』MEDICAL VIEW 社, 2020 年
学習の準備	1. 老年学や健康増進障害予防概論の内容および参考図書の該当箇所を熟読しておく（2 時間） 2. 授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	毎週火曜日～金曜日　8：30～17：00

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	神経筋疾患理学療法学	担当教員	伊藤 俊輔 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3L1011	③、④					

科目概要	主に神経及び筋肉の変性に起因する疾患について、その病態生理を理解し、病態を考慮した理学療　法評価及び基本的理学療法治療、リハビリテーションを理解することを目的とする。特に本科目では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群などの進行性の神経筋疾患に対し学習し理解を深める。
学習目標	①各神経筋疾患の病態を理解できる。 ②各神経筋疾患の理学療法評価・治療を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	講義１	総論	中枢神経疾患ならびに神経筋疾患についての病態を理解する。	
2	講義２	多発性硬化症	多発性硬化症の病態、多発性硬化症に対する理学療法評価や治療を理解する。	
3	講義３	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の病態、筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法評価や治療を理解する。	
4	講義４	ギランバレー症候群	ギランバレー症候群の病態、ギランバレー症候群に対する理学療法評価や治療を理解する。	
5	講義５	パーキンソン病１	パーキンソン病の病態を理解する。	
6	講義６	パーキンソン病２	パーキンソン病に対する理学療法評価や治療を理解する。	
7	講義７	脊髄小脳変性症１	脊髄小脳変性症の病態を理解する。	
8	講義８	脊髄小脳変性症２	脊髄小脳変性症に対する理学療法評価や治療を理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	
参考図書	・潮見泰藏・著『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション-カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ-』羊土社、2012 年 ・尾上尚志、他・編『病気が見える vol.7 第２版』メディックメディア、2017 年 ・中山恭秀、他・編『Crosslink 理学療法学テキスト　神経障害理学療法学Ⅱ　神経筋障害』メジカルビュー、2019 年 ・吉尾雅春・監修『標準理学療法学　専門分野　運動療法学　各論　第５版』医学書院、2023 年 ・森岡周、他・編『標準理学療法学　専門分野　神経理学療法学　第３版』医学書院、2023 年 ・ヒントレ研究所・編『PT/OT 基礎固めヒント式トレーニング　臨床医学編(改訂第３版)』南江堂、2024

学習の準備	授業資料などを用い毎回しっかり復習（計 4 時間）すること
オフィスアワー	月曜日～木曜日の 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可能。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	日常生活活動学（作業療法）	担当教員	山田 恭平 佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L0991	①、②、③、④

科目概要	対象者の日常生活活動（ADL）を評価し、治療等を実践していくための基本的な知識について学習する。評価方法としては、基本姿勢、基本動作、リーチ動作における観察視点、分析視点について学習する。また、FIMやBI等の定量的な評価方法について学習する。
学習目標	①　日常生活活動（ADL）の評価方法、支援方法について理解する。 ②　姿勢、基本動作、活動などの観察視点や分析方法を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	ADL の概念と範囲、ADL の評価	ADL、IADL の概念と範囲について理解する。ADL 評価の目的･方法、ADL 遂行に影響する要素について理解する。	
2	総論	ADL の治療・援助	ADL 治療・援助の視点、方法について理解する。	
3	活動分析	活動分析（工程分析）	活動分析の視点、重要性について理解する。	
4	活動分析	活動分析（工程分析）	活動分析の視点、重要性について理解する。	
5	姿勢分析	姿勢・動作・活動分析について（基礎）	分析の視点、重要性について理解する。	
6	動作分析	動作分析（リーチ動作、前方、側方）	動作分析の視点、重要性について理解する。	
7	動作分析	動作分析（リーチ動作、後方）	動作分析の視点、重要性について理解する。	
8	動作分析	動作分析（リーチ動作、後方、下方）	動作分析の視点、重要性について理解する。	
9	動作分析	動作分析（リーチ動作、座位バランス）	動作分析の視点、重要性について理解する。	
10	動作分析	動作分析（リーチ動作、まとめ）	動作分析の視点、重要性について理解する。	
11	福祉用具 自助具	福祉用具の範囲について 自助具の目的、選定、製作の留意点など	福祉用具の範囲について理解する。 自助具導入の視点や製作時の留意点について理解する。	
12	補装具	車椅子の適合・選定について 1	車椅子の基本的な寸法、対象者の能力や用途に応じた各部品の選定について理解する。	
13	補装具	車椅子の適合・選定について 2	車椅子の基本的な寸法、対象者の能力や用途に応じた各部品の選定について理解する。	
14	評価様式	ADL の代表的な評価様式について	FIM、Barthel Index の概要、採点方法について理解する。	

15	評価様式	ADL の代表的な評価様式について	FIM、Barthel Index の概要、採点方法について理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義の中でフィードバックを行う。 講義中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	なし
参考図書	齋藤宏 他・著『姿勢と動作　第 3 版』メヂカルフレンド社、2010 年 伊藤利之・著『ADL とその周辺　第 3 版』医学書院、2015 年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書　改訂第 3 版　日常生活活動』協同医書出版社、2009 年 など
学習の準備	1　予習として、作業療法評価学・演習、運動学・演習の内容を復習しておくこと（1 時間） 2　予習として、四肢、体幹の筋の起始・停止について復習しておくこと（1 時間） 3　1,2 に加えて、講義で学習した内容について関連書籍を自ら確認しておくこと（1 時間） 4　事後学習として、講義内容について資料等を確認し理解を深めておくこと（1 時間）
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 20 分～17 時 50 分。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	日常生活活動学 （作業療法）演習	担当教員	山田 恭平※ 佐藤 拓也※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03L1002	①、②、③、④					

科目概要	「日常生活活動学（作業療法）」の講義内容を踏まえて、対象者の日常生活活動（ADL）を評価し、治療等を支援していくための技術や考え方について演習を通して理解する。具体的には、寝返り、起き上がり、立ち上がり、移動や移乗も含めた動作の演習や、食事や更衣動作やトイレ動作等の活動分析方法の演習を通して、日常生活場面におけるアプローチ方法を学習する。また、これらの生活動作を観察して客観的事実として記述し、分析するという過程についても学習する。
学習目標	ADL の基本となる姿勢、基本動作、セルフケアに関する観察、記録などの演習を通して、具体的な分析・評価や治療／援助の考え方・方法について理解し、実践できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	概論	ADL 概論	ADL の評価、治療・援助の概要を確認する。	山田
2	演習 1	動作分析・活動分析の考え方 座位・立位、正常動作の観察と分析	動作分析・活動分析の考え方について確認、理解する。	山田
3	演習 2	寝返り動作の観察と分析	実践を通して寝返り動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
4	演習 3	寝返り動作の観察と分析	実践を通して寝返り動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
5	演習 4	起き上がり動作の観察と分析	実践を通して起き上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
6	演習 5	起き上がり動作の観察と分析	実践を通して起き上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
7	演習 6	立ち上がり動作の観察と分析	実践を通して立ち上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
8	演習 7	立ち上がり動作の観察と分析	実践を通して立ち上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
9	演習 8	活動分析の方法（食事・整容）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
10	演習 9	活動分析の方法（食事・整容）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
11	演習 10	活動分析の方法（トイレ・排泄・入浴）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
12	演習 11	活動分析の方法（トイレ・排泄・入浴）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
13	演習 12	活動分析の方法（移乗動作）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田 佐藤
14	演習 13	活動分析の方法（移乗動作）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田 佐藤

15	まとめ	動作分析、活動分析	本演習の流れを理解した上で、実技試験での実践方法、および留意点を理解する。	山田

評価方法	実技試験 50%、筆記試験 50%
課題に対するフィードバック	講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	なし
参考図書	齋藤宏 他・著『姿勢と動作　第 3 版』メヂカルフレンド社、2010 年 伊藤利之・著『ADL とその周辺　第 3 版』医学書院、、2015 年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書　改訂第 3 版　日常生活活動』協同医書出版社、2009 年 伊藤利之 他・編『新版　日常生活活動（ADL)』医歯薬出版、2010 年 など
学習の準備	1　予習として、作業療法評価学・演習、運動学・演習の内容を復習しておくこと 2　予習として、四肢、体幹の筋の起始・停止について復習しておくこと 3　1,2 に加えて、講義で学習した内容について関連書籍を自ら確認しておくこと 4　事後学習として、講義内容について資料等を確認し理解を深めておくこと（計 1 時間）
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 20 分～17 時 50 分。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	山田恭平・佐藤拓也は、民間病院で日常生活活動における作業療法の実務経験を有しており、その経験を活かして具体的な動作演習や分析方法についてより実践的な指導をすることができる。

科目名	義肢装具学（作業療法）	担当教員	長南 行浩 山中 正紀 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1011	③、④

科目概要	義肢装具学は、身体障害作業療法学において対象者の機能障害を補完するために重要な分野である。義肢装具学における知識･技術は、対象者の機能障害を改善･代償することで、活動制限を軽減し、参加を促進することができる。また、義肢装具の製作を行う義肢装具士との連携が強く求められる分野でもある。そこで本科目では、特に作業療法との関連の深い上肢装具を中心に講義を行い、義肢装具士や福祉との連携に対応できる知識を習得する。
学習目標	①　補装具の支給体系について理解する。 ②　装具の種類と適応について理解する。 ③　スプリントの製作工程について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 義肢装具学総論	用語の定義 補装具の種目・処方・支給体系	補装具の種目について理解する。 補装具の支給体系の優先順位を理解する。	
2	上肢装具(1)	上肢装具の種類と適応(1) 肩装具、上腕装具、肘装具 上肢の末梢神経損傷 手指の変形	装具の名称と適応について理解する。 実際の使用をイメージできる。 上肢の末梢神経損傷における麻痺筋と障害される運動について理解する。 手指の変形とその原因について理解する。	
3	上肢装具(2)	上肢装具の種類と適応(2) 手関節装具、手装具、指装具	装具の名称と適応について理解する。 実際の使用をイメージできる。	
4	義足の基礎知識(1)	義足の種類と適応	義足の種類と適応について理解する。	
5	義足の基礎知識(2)	義足のチェックアウト	義足のチェックアウトについて理解する。	
6	疾患別装具	片麻痺に対する装具 脊髄損傷に対する装具 関節リウマチに対する装具 小児装具	各疾患に使用される装具について理解する。	
7	スプリント製作(1)	手の機能解剖 スプリント材 スプリント製作の工程と道具 トレース法	手のアーチ・基本的肢位について理解する。 スプリント材の特徴について理解する。 スプリント製作の工程について理解する。 多目的トレース法について理解する。	
8	スプリント製作(2)	各スプリントの型紙 いろいろなスプリント 上肢装具・スプリントのチェックポイント	各スプリントの型紙について理解する。 スプリントの種類について理解する。 上肢装具･スプリントのチェックポイントについて理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	日本整形外科学会・著『義肢装具のチェックポイント 第9版』医学書院、2021年

参考図書	日本作業療法士協会・監『作業療法学全書 改訂第 3 版 第 9 巻 作業療法技術学 1 義肢装具学』協同医書出版社、2009 年 やさききよし・著『手のスプリントのすべて 第 4 版』三輪書店、2015 年 山口淳・監『写真でみる基本スプリントの作りかた（型紙見本付)』医歯薬出版、2007 年 坪田貞子・編『動画で分かる！熱可塑性スプリント作製マニュアル 基礎から臨床応用まで』三輪書店、2012 年
学習の準備	1（予習）指定した教科書の該当部分を事前に読んでおくこと（1 時間） 2（予習）筋の神経支配を理解しておくこと（1 時間） 3（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする(2 時間)
オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	義肢装具学（作業療法）演習	担当教員	長南 行浩※ 山中 正紀※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03L1022	③、④					

科目概要	義肢装具のうち、更生用は身体機能を補完・代替し、日常生活や就労・就学のために長期間にわたり継続して使用されるものであり、義肢装具士が製作する。一方、治療用装具・訓練用仮義肢は治療を目的として使用されるものであり、作業療法士が製作する。本科目では、特に作業療法と関連の深い義手を中心に学習し、治療用装具として製作する機会の多いスプリントについて製作演習を行い、対象者の機能障害の改善や代償に対する基本的な技術を習得する。また、対象者が使用していることが考えられる義足についても触れる。
学習目標	① 基本的なスプリントが製作できる。 ② 義手・義足の基礎知識について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス スプリント作成演習(1)	カックアップスプリント(1)	カックアップスプリントの製作工程が実践できる。	長南
2	スプリント作成演習(2)	カックアップスプリント(2)	カックアップスプリントを製作することができる。	長南
3	スプリント作成演習(3)	背側保護スプリント(1)	背側保護スプリントの製作工程が実践できる。	長南
4	スプリント作成演習(4)	背側保護スプリント(2)	背側保護スプリントを製作することができる。	長南
5	スプリント作成演習(5)	ナイトスプリント(1)	ナイトスプリントの製作工程が実践できる。	長南
6	スプリント作成演習(6)	ナイトスプリント(2)	ナイトスプリントを製作することができる。	長南
7	スプリント作成演習(7)	RIC スプリント(1)	RIC スプリントの製作工程が実践できる。	長南
8	スプリント作成演習(8)	RIC スプリント(2)	RIC スプリントを製作することができる。	長南
9	スプリント作成演習(9)	指伸展ダイナミックスプリント(1)	指伸展ダイナミックスプリントの製作工程が実践できる。	長南
10	スプリント作成演習(10)	指伸展ダイナミックスプリント(2)	指伸展ダイナミックスプリントを製作することができる。	長南
11	スプリント作成演習(11)	総括	スプリントのチェックアウトができる。	長南
12	義手の基礎知識(1)	義手の種類と適応	義手の種類と適応について理解する。	長南
13	義手の基礎知識(2)	義手のチェックアウト	義手のチェックアウトについて理解する。	長南

14	下肢装具	下肢装具の分類と部品 靴型装具、足装具、短下肢装具、長下肢装具、膝装具、股装具	下肢装具の分類と部品について理解する。 下肢装具の種類と適応について理解する。	山中
15	体幹装具	体幹装具の意義・種類・分類 側彎症装具 頸椎装具	体幹装具の意義・種類・分類について理解する。 側彎症装具の種類について理解する。 頸椎装具の種類について理解する。	山中
評価方法		筆記試験（50%）、課題（50%）		
課題に対するフィードバック		1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。		
教科図書		日本整形外科学会・著『義肢装具のチェックポイント 第 9 版』医学書院、2021 年		
参考図書		日本作業療法士協会・監『作業療法学全書 改訂第 3 版 第 9 巻 作業療法技術学 1 義肢装具学』協同医書出版社、2009 年 やさききよし・著『手のスプリントのすべて 第 4 版』三輪書店、2015 年 山口淳・監『写真でみる基本スプリントの作りかた（型紙見本付)』医歯薬出版、2007 年 坪田貞子･編『動画で分かる！熱可塑性スプリント作製マニュアル基礎から臨床応用まで』三輪書店、2012 年		
学習の準備		1（予習）指定した教科書の該当部分を事前に読んでおくこと 2（予習）義肢装具学（作業療法）を復習しておくこと 3（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（計 1 時間）		
オフィスアワー		講義の前後とする。		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		長南行浩は、民間病院で身体障害領域における義肢装具を使用した作業療法の勤務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 山中 正紀は、民間病院において運動療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		

科目名	身体障害作業治療学	担当教員	三宅 環 久保 勝幸 佐藤 公博 古川 元則 澤田 勝也 池田 友樹 長南 行浩 秦 健一郎 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1121	①、③、④

科目概要	本講座では、骨関節、中枢神経、末梢神経、筋疾患などの身体障害に対する作業療法の基本的な介入について解説し、各疾患別による障害の症状や病態像、評価、作業療法介入・治療・訓練ついて学習する。また、各疾患に関連する基本的知識や、治療原理、社会サービスの適応についても学び、具体的な介入方法や基本技術を習得する。
学習目標	基本的な治療原理を理解し、対象者に介入する基本的技術を習得する。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	概要	身体障害分野での作業療法オリエンテーション・身体障害者手帳	身体障害分野での作業療法の治療理論および身体障害者手帳制度を理解し、申請書類が記載できる。	
2	疾患別作業療法 1	パーキンソン病に対する作業療法	パーキンソン病の分類、成因、治療原理を理解し、治療手技を体験する。	
3	疾患別作業療法 2	RA に対する作業療法	RA の分類、成因、治療原理を理解し、治療手技を体験する。	
4	疾患別作業療法 3	脊髄損傷に対する作業療法 1	脊髄損傷の神経症状について理解する。	
5	疾患別作業療法 4	脊髄損傷に対する作業療法 2	脊髄損傷の疫学について理解する。 ASIA 機能障害スケールについて理解する。 脊髄損傷の治療の考え方について理解する。	
6	疾患別作業療法 5	整形外科領域の作業療法 1	骨折・末梢神経障害の疫学、構造、合併症について理解する。	
7	疾患別作業療法 6	整形外科領域の作業療法 2	骨折・末梢神経障害に対する作業療法介入理論の理解を深め体験する。	
8	疾患別作業療法 7	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の構造、特徴、治療の考え方を理解する。	
9	疾患別作業療法 8	内部障害の作業療法	内部疾患の構造、特徴、治療の考え方を理解する。	
10	疾患別作業療法 9	悪性腫瘍に対する作業療法	悪性腫瘍の疾患構造、悪性腫瘍に対する作業療法介入理論の理解を深め体験する。	
11	疾患別作業療法 10	脳血管障害に対する作業療法 1 急性期	脳血管障害の急性期の治療の考え方、リスク管理について理解し、治療手技を体験する。	

12	疾患別作業療法 11	脳血管障害に対する作業療法 2 回復期	脳血管障害の回復期の治療の考え方、ADL との関連について理解し、治療手技を体験する。	
13	疾患別作業療法 12	脳血管障害に対する作業療法 3 生活期	脳血管障害の生活期の治療の考え方を理解し、介護保険サービスの導入、治療手技を体験する。	
14	疾患別作業療法 13	脳血管障害に対する作業療法 4 治療手技 1	治療器具や福祉用具の導入を理解し、治療手技を体験する。	
15	疾患別作業療法 14	脳血管障害に対する作業療法 5 治療手技 2	機能的電気刺激療法を理解し、実施できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に適宜行い、試験に関しては試験終了後にオフィスアワーで対応する。
教科図書	長崎重信・編『作業療法ゴールドマスターテキスト 4　身体障害作業療法学第 3 版』MEDICAL VIEW、2023 年 医療情報科学研究所・編『病気が見える vol. 7 脳・神経 第 2 版』MEDIC MEDIA、2017 年
参考図書	鈴木則宏・編『神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ改訂第 2 版』メジカルビュー社、2015 年
学習の準備	予習：該当部分の専門基礎科目に関わる項目の知識を整理しておくこと（2 時間） 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（2 時間）
オフィスアワー	講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	生活環境学（作業療法）	担当教員	久保 勝幸 鈴木 絵美 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03M1191	①、③、④、⑤、⑥

科目概要	障害児・者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL維持・向上の上で重要である。リハビリテーションは、対象者が抱える心身の障害のみならず、住環境、地域や職場（学校）環境をも考慮した幅広い視野を持った支援が必要である。本講義では、住環境整備に関する基礎的な知識、具体的な手法のほか、まちづくりについても理解し、対象者の特徴を考慮した適切な支援について考察を深める。
学習目標	① 住環境整備に必要な基礎的な知識、具体的な手法について理解し、対象者の状況に応じた住環境の評価や援助方法について理解する。 ② 我が国における福祉のまちづくりについて理解し、高齢者や障害者が地域で生活するための支援方法について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 住環境整備の意義（1）	住環境とは 我が国の住宅事情と住宅施策 高齢者・障害者の住宅事情と住宅施策	高齢者・障害者にとっての住宅の問題について理解する。住環境整備の意義について理解する。	
2	住環境整備の意義（2）	介護保険制度における住環境整備	介護保険制度における住環境整備とその課題について理解する。	
3	住環境整備の進め方（1）	住環境整備の手法・過程・留意点	住環境整備の手法・過程・留意点について理解する。	
4	住環境整備の進め方（2）	情報収集・評価 多職種連携・OTの役割	住環境整備のための情報収集・評価の内容について理解する。 住環境整備における職種間連携の重要性、OTに求められる役割について理解する。	
5	建築知識の基本	住環境整備に必要な建築用語 図面の見方と見取図の書き方	住環境整備に必要な建築用語について理解する。 図面の見方と見取図の書き方について理解する。	
6	住環境整備の基本的配慮（1）	住宅部位・各室	住宅部位や各室における住環境整備の配慮点について理解する。	
7	住環境整備の基本的配慮（2）	住宅の平面計画・インテリア・照明・冷暖房・非常時の対応・経費と維持管理	住宅全般の配慮点について理解する。	
8	住環境整備と建築関連法規 移動用福祉用具	建築制限 リフト・段差解消機・階段昇降機・住宅用エレベーター	住環境整備の際の建築制限について理解する。 移動用福祉用具の機能・条件について理解する。	
9	住環境整備の実際（演習）	住環境の評価	住環境を実際に計測し、見取図を書くことができる。	
10	福祉のまちづくり	我が国の福祉のまちづくり歴史について	福祉のまちづくりに関する取り組みの過程及び課題を理解する。	
11	都市構造の実態と課題	歩道の特徴や機能について	高齢者・障害者のまちの移動における具体的な課題及び対策を理解する。	
12	住環境整備の実態把握（講義）	住環境整備における他職種の役割およびその連携について・実際	住環境整備における他職種の役割、連携について、臨床での実際例を通して理解する。	

13	住環境整備の実態把握（実践例）	住環境整備の実践例を通して､障害像等に合わせた手すりや福祉用具の適応について紹介する。	障害像に合わせた手すりや福祉用具の適応について、臨床での実際例を通して理解する。	
14	住環境整備の実態把握（グループワーク）	実際に手すりや福祉用具を使用し、住環境整備の一部を体験する。	実際の体験により、手すりや福祉用具の適応を理解する。	
15	住環境整備の実態把握（グループワーク）	障害像等に合わせた住環境整備を検討する。	グループワークを通して、障害像等に合わせた住環境整備の方法を理解する。	

評価方法	筆記試験（80%）､レポート課題（20%）
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない（資料を配付する）
参考図書	野村歡、他・著『OT・PT のための住環境整備論第 2 版』三輪書店、2015 年 木村哲彦・監『生活環境論生活支援の視点と方法第 6 版』医歯薬出版、2010 年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書改訂第 3 版第 10 巻作業療法技術学 2 福祉用具の使い方・住環境整備』協同医書出版社、2009 年 伊藤利之、他・編『新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際』医歯薬出版、2010 年
学習の準備	1　事前学習として、日常生活活動学（作業療法）および演習を理解しておくこと(2 時間) 2　事後学習として、資料を見直し、要点を整理しておくこと､また､自宅図面の計測とレポート課題を行うこと(2 時間)。
オフィスアワー	木曜日　16:20～17:50 その他担当教員から連絡する
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	地域作業療法学	担当教員	浅野 友佳子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03M1201	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	超高齢社会の進行に伴って、リハビリテーションサービスを必要とする対象者が増加している。対象者が住みなれた地域で生活できるように支援するためには、地域でのリハビリテーションサービスの充実が必要である。そこで本科目では、自宅で生活するために、介護保険法や障害者総合支援法などの制度を活用した、医療だけではなく保健、福祉における作業療法の支援方法について学び、幅広い視野をもって社会に奉仕する作業療法士の仕事に興味・関心を持つ。
学習目標	① 地域リハビリテーションにおける作業療法の理念と役割について理解する。 ② 地域保健・医療・福祉制度について理解する。 ③ 様々な地域リハビリテーションの実践について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 地域作業療法の理念と役割(1)	地域社会とは 地域で生活するということ	地域社会とそこで生活する人々について理解する。	
2	地域作業療法の理念と役割(2)	地域における作業療法対象者 地域での作業療法	地域における各ライフステージの作業療法対象者とその支援について理解する。	
3	地域作業療法の理念と役割(3)	地域作業療法の理念 地域作業療法の役割	地域作業療法の理念について理解する。 地域における作業療法士の役割（他職種との協業）について理解する。	
4	地域作業療法の評価	地域作業療法の評価の視点と具体的な評価手法	地域作業療法で必要な評価の視点と具体的な評価手法を理解する。	
5	地域保健・医療・福祉制度と作業療法(1)	発達障害児・者に対する制度と作業療法	障害児・者に対する制度を理解し、作業療法士の役割を理解する。	
6	地域リハビリテーションによる支援と実践(1)	発達障害児・者に対する地域リハビリテーションの支援と実践	発達障害児・者に対する地域リハビリテーションの支援と実践を理解する。	
7	地域保健・医療・福祉制度と作業療法(2)	障害者に対する制度と作業療法	障害者に対する制度を理解し、作業療法士の役割を理解する。	
8	地域リハビリテーションによる支援と実践(2)	障害者に対する地域リハビリテーションの支援と実践	障害者に対する地域リハビリテーションの支援と実践を理解する。	
9	地域保健・医療・福祉制度と作業療法(3)	介護保険制度の背景と概念 介護保険サービスと作業療法	介護保険創設の背景・介護保険の概要を理解する。介護保険の流れ・介護保険サービスについて理解する。	
10	地域リハビリテーションによる支援と実践(3)	介護保険対象者に対する地域リハビリテーションの支援と実践	介護保険対象者に対する地域リハビリテーションの支援と実践を理解する。	
11	地域保健・医療・福祉制度と作業療法(4)	日常生活総合支援事業（地域包括ケアシステム）と作業療法	地域包括ケアシステムを理解し、作業療法士の役割を理解する。	
12	地域リハビリテーションによる支援と実践(4)	自助グループ・町内会などにおける実践	自助グループや町内会などにおける実践的な作業療法について理解する。	
13	地域における作業療法の実践(1)	訪問リハビリテーションにおけるまちつくりの実践	訪問リハビリテーションにおけるまちつくりの実践について理解する。	

14	地域における作業療法の実践(2)	まちつくりの視点での地域リハビリテーション	グループワークにて実際のある都市をモデルとした地域リハビリテーションについて理解する。	
15	地域における作業療法の実践(3)	まちつくりの視点での地域リハビリテーション	グループワークにて実際のある都市をモデルとした地域リハビリテーションについて共通認識として理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	各講義の際に、簡単なグループワークにて全体の課題の理解度を確認し、フィードバックを行う。 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない（配布資料を使用する)。
参考図書	日本作業療法士協会・監『作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学』協同医書出版社、2009年 長﨑重信・監『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学』メジカルビュー社、2016年 矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野 地域作業療法学 第2版』協同医書出版社、2012年
学習の準備	1.（予習）毎回グループワークも行うため、対象疾患や対象時期の作業治療学および評価学、関係法規等を他の講義の内容を復習すること（2時間） 2.（復習）講義で理解が不十分であった場所を明確にし、資料などをもとに確認し、不十分な点は次回の講義で質問できるように準備すること（2時間）
オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	生活行為向上リハビリテーション論	担当教員	山田 恭平 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC3L1401	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるもととなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援のあり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。
学習目標	① 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について理解する。 ② 生活行為向上マネジメントツールについて理解し、実践できるようになる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	生活行為向上マネジメントの背景と概要	オリエンテーション 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要	生活行為向上マネジメントの開発背景と概要を理解する。	
2	生活行為向上マネジメントの面接技法	生活行為目標を引き出す面接技法について	クライエントにインテークする際の技法について講義と演習を通して学び、体験する。	
3	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント	アセスメントシートの作り方について①	生活行為アセスメントシートの作成を講義と演習を通して学ぶ。	
4	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント	アセスメントシートの作り方について②	生活行為アセスメントシートの作成を、演習を通して学ぶ。	
5	生活行為向上マネジメントの目標設定	合意目標の設定方法について	アセスメント結果から具体的な目標を立案することが出来る。	
6	生活行為向上マネジメントの工程分析	生活行為工程分析について	目標となる生活行為について工程分析を行う事が出来る様になる。	
7	生活行為向上マネジメントのプログラム立案	プログラムの立案について①	工程分析を踏まえて、多職種を交えた包括的なプログラムを立案できる。	
8	生活行為向上マネジメントのプログラム立案	プログラムの立案について②	工程分析を踏まえて、多職種を交えた包括的なプログラムを立案できる。	
9	生活行為向上マネジメントの立案プログラムの発表	立案したプログラムのグループ発表	作成したプログラムを他者に分かりやすく説明できる。多様な視点があることを理解できる。	
10	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクル	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクルとツール使用方法のまとめ①	これまで検討したプランの発表や質疑を通して、インテークからプログラム立案、次の課題や取り組みに向けての流れを理解する。	
11	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクル	生活行為向上マネジメントのPDCAサイクルとツール使用方法のまとめ②	これまで検討したプランの発表や質疑を通して、インテークからプログラム立案、次の課題や取り組みに向けての流れを理解する。	

12	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
13	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
14	生活行為向上マネジメントの実践例	多領域での生活行為向上マネジメントの実践例	実践例に基づき多領域での生活行為向上リハビリテーションを学ぶ。	
15	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例	生活行為向上マネジメントの活用例やその効果について理解することができる。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義内でのグループ発表の内容、および提出された課題（シート）に対して良い点と修正が必要な点について解説する。
教科図書	配布資料
参考図書	日本作業療法士協会編・著『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第 2 版』医歯薬出版、2020 年
学習の準備	１．予習：作業療法概論、作業療法評価学などの専門科目について資料等を見直して講義に望むこと（2 時間） ２．復習：講義の内容の復習、課題に対するグループワークを行うこと、生活行為向上マネジメントの関連書籍を読んで、理解を深めること（2 時間）
オフィスアワー	講義の前後。火曜日と木曜日の 16 時 20 分～17 時 50 分。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	医療安全管理学	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 和田 龍彦 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	3年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC3F0481	③、⑤、⑥					

科目概要	人の命を扱う医療現場においては、患者ならびに医療従事者が有害事象を起こさない、また遭わないようにするための対策が常に求められている。医療機器の危険性や特徴を理解し、安全な取り扱いを身に付けることは医療人にとって必須条件となる。本講義では、医療機器の取扱いと安全管理、医療現場での安全管理体制の構築と安全環境を確保する心構え、さらに感染防止や医療ガスの取扱いなどを具体例にそって習得する。
学習目標	① 人の命と取り扱う医療機器の取扱いとその安全性について理解する。 ② 医療現場における安全管理体制を習得する。 ③ 有害事象の未然防止と発生事故への適切な対応策について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	医療現場と危険性	医療安全とは．医療事故と有害事象．リスクマネジメント．医療事故調査制度.	医療安全管理と医療事故の実態を学び、リスクマネジメントや事故調査制度の説明ができる。	
2	生体物性と医療材料	生体の電気的特性と温度特性．生体の力学的特性と代用臓器．医用材料の特徴と安全性.	生体の機械的特性や電気的特性、温度特性や光特性、さらに生体用人工材料の説明ができる。	
3	生体計測（信号と雑音）	生体情報とは．生体情報の計測手段．センサと増幅器．雑音と信号．情報の保存と管理.	生体情報の計測構成とセンサの現状を習得し、雑音の低減策や医療情報管理の説明ができる。	
4	医療設備の安全確保	院内設備とその安全．ISO と JIS．感電とマクロショック．院内停電とその対策．医療安全のための分析.	医療電気設備の体系化と国内外の規格を習得し、院内設備の安全や停電対策の説明ができる。医療事故の分析ができる。	
5	医療検出機器の取扱いと安全管理	循環系および呼吸系生体情報検出機器の取扱いとその安全管理. 脳波や筋電図測定と測定機器.	医療検出機器の安全な取扱いと管理ができ、代表的医療機器の構成や動作原理を説明できる。	
6	滅菌・消毒・感染防止	院内感染．滅菌と消毒．感染防止機器．医療ガス.	滅菌・殺菌・消毒等が区別できると共に、滅菌装置の構成を知り、感染の要因とその対策について説明できる。	
7	リハビリテーション治療時の安全確保	リハビリテーション時におけるリスク管理の概要	リハビリテーションを行う際に想定される危険を説明でき、安全管理方法について説明できる。	
8	リハビリテーション治療時の安全確保	リハビリテーション時におけるパルスオキシメーター．在宅酸素療法機器．人工呼吸器.	リハビリテーションを行う際にパルスオキシメータや人工呼吸器を使用する際の注意点を説明できる。	

評価方法	筆記試験(100%)で評価する。
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	教員作成教材を使用する。
参考図書	日本生体医工学会 ME 技術教育委員会『ME の基礎知識と安全管理 改訂第 7 版』南江堂、2020 年　等

学習の準備	講義の理解が不十分である箇所を明確にしておき、次の講義で質問出来るよう準備しておくこと （4 時間）
オフィスアワー	非常勤講師は講義の前後。 常勤講師は月・火・水・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	物理療法学	担当教員	佐藤 公博 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3H0581	③

科目概要	物理療法は熱や光線、電気などの物理的エネルギーを痛みの緩和、循環機能の改善などを目的に作用させる治療方法である。「自然科学概論」で学んだ幅広い教養をもとに、物理的エネルギーが生体へ及ぼす臨床的効果について理解する。
学習目標	① 生体に及ぼす物理的エネルギーの臨床的効果について理解する。 ② 物理療法の方法と技術を統合的に理解し、代表的な治療について機器操作ができる。 ③ 運動療法学との相互関係を理解し、理学療法学の体系における物理療法学の科学的な考え方の基礎を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション / 総論	物理療法総論：歴史的背景、理学療法の体系における位置づけ、治療の目的と効果について	1．物理療法の歴史と代表的人物の業績について理解する。 2．運動療法と物理療法の関係を理解する。 3．物理療法の目的と効果について理解する。	
2	温熱療法１	熱の物理学 熱力学の基礎、比熱と熱伝導率	1．熱伝達について物理的作用を理解する。 2．比熱と熱伝導率について理解する	
3	温熱療法２	温熱の生理学	熱が生体へ及ぼす生理的影響を理解する。	
4	各論 温熱療法３	伝導性温熱療法（ホットパック・パラフィン）	ホットパックとパラフィン浴の作用機序、適応・効果、禁忌、実施上の注意について理解する。	
5	各論 温熱療法４	エネルギー変換熱①　電磁波 縦波と横波、電磁波、波長と周波数	1．波（波動）の基本事項について理解する 2．電磁波の物理的特性と生理的特性を理解する。	
6	各論 温熱療法５	エネルギー変換熱②　極超短波、超短波	超短波療法と極超短波療法の適応･効果､禁忌､実施上の注意について理解する。	
7	各論 温熱療法６	エネルギー変換熱③　超音波 圧電効果と逆圧電効果、熱発生原理	超音波の物理的特性と生理的特性を理解する。	
8	各論 温熱療法７	エネルギー変換熱④　超音波 温熱効果と非温熱効果 /　変換熱まとめ	超音波療法の適応・効果、禁忌、実施上の注意について理解する。	
9	各論 電気療法１	電気の物理的・生理的作用 低周波と高周波、強さ時間曲線、クロナキシー	1．電気の物理的・生理的作用を理解する。 2．低周波療法の適応・効果、禁忌、実施上の注意について理解する。	
10	各論 電気療法２	ゲートコントロール説と疼痛抑制機序 TENS	ゲートコントロール説について理解する。	
11	各論 電気療法３	通電療法各論（TES,FES,その他）	各通電療法の適応・効果、禁忌、実施上の注意について理解する。	
12	各論 電気療法４	まとめ, 国家試験におけるポイント	国家試験問題を通して､基礎と臨床について整理し理解する。	
13	寒冷療法 水治療法	寒冷の生理的作用、温熱との関係、水の物理的・生理的作用、	各治療法の適応・効果、目的、禁忌、実施上の注意について理解する。	

14	光線療法 牽引療法	赤外線、紫外線、レーザー光線の特性 頸椎牽引、腰椎牽引	各治療法の適応・効果、目的、禁忌、実施上の注意について理解する。	
15	まとめ	温熱療法と電気療法(実習)	リスク管理と禁忌について理解し、機器操作および管理について理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	授業を通じてフィードバックする。
教科図書	吉田英樹 編集　『Crosslink 理学療法テキスト物理療法学』　メジカルビュー社　2020 年
参考図書	適宜、授業で紹介する
学習の準備	（予習）主な学習内容・到達目標を読み、用語を調べる。特に物理学の基礎事項はノートにまとめる(2時間)。 （復習）配布資料を再読し、重要事項・理解が不十分な事項についてノートにまとめる。該当する国家試験過去問題を解く(2 時間)。
オフィスアワー	水曜日　16:20~17:00
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	義肢装具学（理学療法）	担当教員	伊藤 俊一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3H0671	①、②、③、④、⑤					

科目概要	義肢装具学は、義肢学と装具学に大別される。義肢学では、義肢の必要性、切断原因、切断肢の管理、装着トレーニング、歩行･ADLトレーニングなどを学習する。装具学では、各種疾患に於ける装具の必要性、選択、適合判定、ADL動作へ適応させることを学習して、義肢･装具の理学療法に於ける役割を学習する。
学習目標	① 義肢学では、切断の原因、義肢の基礎知識（選択、アライメント、適合判定、切断肢管理、義肢装着トレーニング、各種異常歩行）について理解する。 ② 装具学では、装具の必要性、装具の選択、適合判定、ADL 動作への適応を学習して、装具療法に対する理学療法の役割を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	装具学総論	装具の定義、目的、種類、基本構造などを学習する	装具の定義、目的、種類、基本構造を理解して説明できる。	
2	下肢装具	下肢装具の種類と機能、適合、その理学療法を学習する	下肢装具の種類と機能、適合チェックを理解して説明できる。	
3	体幹・上肢装具	体幹･上肢装具の種類と機能、適合、その理学療法を学習する	体幹･上肢装具の種類と機能を理解し、説明できる。	
4	片麻痺用装具	片麻痺に対する装具療法を学習する	片麻痺に対する装具療法の目的・意義を理解して説明できる。	
5	脊損用装具･車椅子	脊髄損傷に対する装具、各種車椅子の学習	脊髄損傷に対する装具の目的･意義、車椅子の種類･適応を理解して説明できる。	
6	義肢学総論	切断の理学療法の概要を視聴覚器材も含めて学習する	切断者のリハビリテーションおよび理学療法の概要を理解する。	
7	切断術①	切断の疫学、原因、切断部位を学習する	切断の現況、原因、部位を理解し説明できる。	
8	切断術②	切断管理と断端トレーニングを学習する	切断部の処理、断端管理を理解し説明できる。	
9	切断者の理学療法評価	切断者評価に関して学習する	切断術前後の理学療法評価を理解し説明できる。	
10	切断者の理学療法①	義足・ソケットの種類と機能を学習する	義足の部品と機能を理解して説明できる	
11	切断者の理学療法②	大腿義足のアライメントおよび適合チェックに関して学習する	大腿義足のアライメントと適合チェックを理解して説明できる	
12	切断者の理学療法③	下腿義足のアライメントおよび適合チェックに関して学習する	下腿義足のアライメントと適合チェックを理解して説明できる	
13	切断者の理学療法④	大腿義足と異常歩行との関連を学習する	大腿義足の異常歩行とその原因を理解して説明できる。	
14	切断者の理学療法⑤	下腿義足と異常歩行との関連を学習する	下腿義足の異常歩行とその原因を理解して説明できる。	

15	切断者の理学療法⑦	足部切断者に対する理学療法を学習する	足部切断者に対する理学療法を理解し、説明できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1.. 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2. 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	日本整形外科学会. 『義肢装具のチェックポイント（第 9 版)』医学書院, 2014 年 配布資料
参考図書	日本義肢装具学会・監『装具学 第 4 版』医歯薬出版, 2013 日本義肢装具学会・監『義肢学 第 3 版』医歯薬出版, 2015 細田多穂・監『義肢装具学テキスト 改訂第 3 版』南江堂, 2017
学習の準備	1.（予習）事前に教科書の該当箇所を読み、分からない用語、分からないことをピックアップする（2 時間） 2.（復習）教科書と配布資料を見直し、専門用語や義肢装具の理学療法を理解する（2 時間）
オフィスアワー	火曜日～金曜日 8：30～17：00。その他、在室時はいつでも可能。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	神経障害理学療法学実習	担当教員	久保田 健太※ 山中 正紀※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	実習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0673	③、④、⑤

科目概要	「神経障害理学療法学」および「神経障害理学療法学演習」で学習したことを基に、脳血管障害に対する介助方法や運動療法を実技形式で学習する。特に歩行、立位、立ち上がり、座位、寝返り・起き上がりなどの基本動作における運動療法を肢位別だけではなく、肢位間のつながりも意識すること、運動学や生理学、運動学習理論を踏まえたmotor learning programを実践できるように理解を深める。また従来の疾患特異的な運動療法のみならず、最新のエビデンストレーニングも実践し学習する。 脊髄損傷は、永続的で重篤な症候や合併症を引き起こし、日常生活に重大な支障をきたす疾患である。他職種と連携を取りチーム医療を提供し、症状や障害の改善を図る必要がある。その症状や障害を理解するために、臨床症例の動画の活用をしながら学習する。
学習目標	① 脳卒中の基本動作における介助法を理解する。 ② 脳卒中の評価ポイント、運動療法を理解する。 ③ 脊髄損傷の障害や症候・合併症等への理解を深め、具体的な対応を理解する。 ④ 脊髄損傷の神経学的評価について理解する。 ⑤ 脊髄損傷の運動療法を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	脳血管障害	筋緊張１	肢位変化に対する筋緊張の変化を観察し、緊張の変化が動作に与える影響を実技形式で学習する。	久保田
2	脳血管障害	片麻痺者の寝返り・起き上がり	寝返りや起き上がり時の評価のポイント、運動療法を、実技を通して学習する。また介助法も習得する。	久保田
3	脳血管障害	片麻痺者の座位・立ち上がり	座位や立ち上がり時の評価のポイント、運動療法を、実技を通して学習する。また介助法も習得する。	久保田
4	脳血管障害	片麻痺患者の立位・歩行	立位や歩行時の評価のポイント、運動療法を、実技を通して学習する。また介助法も習得する。	久保田
5	脳血管障害	片麻痺患者の上肢に対する運動療法	麻痺側上肢の評価のポイント、運動療法などを、実技を通して学習する。	久保田
6	脳血管障害	片麻痺患者の下肢に対する運動療法	麻痺側下肢の評価のポイント、運動療法などを、実技を通して学習する。	久保田
7	脊髄障害	脊髄損傷総論①	脊髄障害の原因・回復過程について理解し、説明することができる。	山中
8	脊髄障害	脊髄損傷総論②	脊髄損傷の診断・治療について理解し、説明することができる。	山中
9	脊髄障害	脊髄損傷総論③	脊髄損傷の診断について理解し、説明することができる。	山中
10	脊髄障害	脊髄損傷総論④	ASIA スコアリングシステムについて理解し、説明することができる。	山中
11	脊髄障害	脊髄損傷の症候と合併症①	脊髄損傷の呼吸障害及び、排泄障害とその対応について理解し、説明することができる。	山中

12	脊髄障害	脊髄損傷の症候と合併症②	脊髄損傷の自律神経障害、その他の症候及び合併症などの対応について理解し、説明することができる。	山中
13	脊髄障害	四肢麻痺	四肢麻痺について臨床症例を通して学ぶことができる。	山中
14	脊髄障害	対麻痺	対麻痺について臨床症例を通して学ぶことができる。	山中
15	脊髄障害	脊髄障害に対する運動療法・生活環境支援	脊髄損傷の運動療法及び生活環境支援を学ぶことができる。	山中

評価方法	レポート（40%）・筆記試験（60%）
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	岩崎洋・編『脊髄損傷理学療法マニュアル 第 3 版』文光堂、2020 年
参考図書	田中宏太佳・編『動画で学ぶ 脊髄損傷のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ』医学書院、2010 年 伊藤利之、江藤文夫・編『新版日常生活活動(ADL) －評価と支援の実際－』医歯薬出版、2011 年 神奈川ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院脊髄損傷マニュアル編集委員会・編『脊髄損傷ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝマニュアル 第 3 版』 医学書院、2019 年
学習の準備	全般：授業資料などを用い 1 回につき、しっかり復習する（1 時間） 脊髄障害：事前配布する予習プリントなどを用い、人体構造機能学の知識を持って授業に臨むこと
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:50、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	久保田健太・山中 正紀は、民間・公的病院等で脳血管障害および脊髄損傷に対する介助方法や運動療法の実務経験を有しており、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	運動器障害理学療法学演習Ⅱ	担当教員	小林 巧※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0702	⑤

科目概要	「運動器障害理学療法学演習Ⅰ」の内容を踏まえ、各疾患の急性期・回復期・慢性期における理学療法が行えるようになるための考え方を身につけることを目的とする。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理や治療アプローチはそれぞれ異なるため、実際の臨床場面における各疾患の患者を想定し、必要な評価・治療アプローチを選択できる知識・思考を身につける。
学習目標	① 代表的な運動器疾患を有する患者に対する一連の理学療法評価を理解できる。 ② 代表的な運動器疾患を有する患者に対するリスク管理を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	運動器疾患のケーススタディ	運動器疾患に対するケーススタディの流れを理解する。	小林
2	グループワーク1	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	小林
3	グループワーク2	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	小林
4	グループワーク3	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	小林
5	グループワーク4	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	野陳
6	グループワーク5	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	角瀬
7	グループワーク6	プレゼンテーション資料作成	担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。	角瀬
8	プレゼンテーション1	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	小林
9	プレゼンテーション2	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	小林
10	プレゼンテーション3	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	小林
11	プレゼンテーション4	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	小林
12	プレゼンテーション5	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	野陳
13	プレゼンテーション6	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	野陳
14	プレゼンテーション7	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	角瀬

15	プレゼンテーション８	プレゼンテーション	担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。	角瀬
評価方法	プレゼンテーション（70%）・講義に対する姿勢（30%）			
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションを通してフィードバックする。			
教科図書	細田多穂・編『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2016 年			
参考図書	医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』メディックメディア、2017 年 工藤慎太郎・著『運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略』医学書院、2017 年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション』メジカルビュー社、2014 年 石井慎一郎・監『膝関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 片寄正樹・監『足部・足関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 永井聡、他・編『股関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018 年 石川朗、他・編『運動器障害理学療法学 Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011 年 相澤純也・監『クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!』羊土社、2017 年			
学習の準備	復習として、講義内で学んだ内容について整理すること（1 時間）			
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	小林巧・野陳佳織・角瀬邦晃は、病院で運動器疾患に対する理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。			

科目名	内部障害理学療法学演習 II	担当教員	信太 雅洋※ 近藤 和夫※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0732	③、④、⑤、⑥

科目概要	「内部障害理学療法学」の内容を踏まえ、虚血性心疾患や心不全を中心とした心臓リハビリテーションにおける評価、問題点の抽出、具体的な治療について学習する。とくに全身状態の把握の仕方、リスク管理と運動処方について理解を深め、安全かつ効果的な運動処方を行うことができる能力を身につける。
学習目標	内部障害理学療法を行う上で、病態把握の方法について理解し、運動処方を立案し、実施する際のリスク管理について説明できること

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	心臓リハ各論１	心臓疾患の評価（心電図を含む）１	心臓の評価として、正常心電図から異常心電図について演習して理解する。	信太
2	心臓リハ各論２	心臓疾患の評価（心電図を含む）２	心臓の評価として、正常心電図から異常心電図について演習して理解する。	信太
3	心臓リハ各論３	心臓リハ（心筋梗塞急性期のリハ）１	心筋梗塞急性期のリハビリテーションと理学療法士の役割について理解する。	信太
4	心臓リハ各論４	心臓リハ（心筋梗塞急性期のリハ）２	心筋梗塞急性期のリハビリテーションと理学療法士の役割について理解する。	信太
5	心臓リハ各論５	心臓リハ（心筋梗塞急性期の ｖ リハ）３	合併症（心不全・狭心症・不整脈）に対する理学療法を理解する。	信太
6	心臓リハ各論６	心臓リハ（心筋梗塞回復期・維持期のリハ）	心筋梗塞回復期･維持期のリハビリテーションと理学療法士の役割について理解する。	信太
7	心臓リハ各論７	心肺運動負荷試験の体験１	心臓リハ評価の代表的な心肺運動負荷試験を体験して運動処方に活かすことができる。	信太
8	心臓リハ各論８	心肺運動負荷試験の体験２	心臓リハ評価の代表的な心肺運動負荷試験を体験して運動処方に活かすことができる。	信太
9	心臓リハ各論９	心臓リハ（事例検討）１	グループで病態を把握・整理する。	信太
10	心臓リハ各論 10	心臓リハ（事例検討）２	グループで運動処方（プログラム）立案する。	信太
11	心臓リハ各論 11	末梢循環器リハ１	閉塞性脳脈硬化症やバージャー病などの動脈系･深部静脈血栓症などの静脈系末梢循環障害の理学療法について理解する。	信太
12	心臓リハ各論 12	末梢循環器リハ２	閉塞性脳脈硬化症やバージャー病などの動脈系･深部静脈血栓症などの静脈系末梢循環障害の理学療法について理解する。	信太
13	心臓リハ各論 13	心臓リハビリの実際１	心臓リハビリの実際について理解する。	近藤
14	心臓リハ各論 14	心臓リハビリの実際２	心臓リハビリの実際について理解する。	近藤

15	腎臓リハ各論	腎不全（血液透析含む）のリハ	腎不全の病態を理解して、運動療法プログラムを立案する。	信太

評価方法	筆記試験 50%、レポートまたは小テスト 50%
課題に対するフィードバック	配布する資料（課題）について解説する。
教科図書	細田多穂監修『内部障害理学療法学テキスト 改訂第 4 版』南江堂、2022 年 『心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン(2021 年改訂版)JCS2021』
参考図書	高橋哲也・編著『呼吸・心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ』羊土社、2015 年 日本腎臓リハビリテーション学会 『腎臓リハビリテーションガイドライン』南江堂、2018 年 古川順光・著『内部障害に対する運動療法−基礎から臨床実践まで−』メジカルビュー社、2018 年
学習の準備	人体構造機能学Ⅰ（内蔵脈管系）の心血管・呼吸器・腎臓をしっかり復習して授業に臨むこと（1 時間）
オフィスアワー	常勤講師は月・火・木・金曜日 16 時 30 分から 18 時 非常勤講師は講義の前後
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	信太雅洋、近藤和夫は、民間病院で内部疾患における理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	地域理学療法学	担当教員	世古 俊明 田井　将彦 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3M0741	③、⑥

科目概要	急速に進行する少子高齢化により我が国の社会構造は大きく変化し、保健・医療・福祉・介護領域にも影響を及ぼしている。理学療法を必要とする対象者は増加し、住み慣れた地域で生活できるよう支援するための地域理学療法の充実が必要であり、本科目では自宅で生活するために、介護保険法や障害者総合支援法などの制度を活用した、医療だけではなく保健、福祉、介護における理学療法の支援方法について学び、幅広い視野をもって地域社会に奉仕する理学療法士に興味・関心を広げる。
学習目標	①高齢者や障がい者が地域で暮らすことをイメージすることができる。 ②生活障害とは何かを理解し、理学療法士として支援する方法を理解することができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	理学療法各論 1	介護保険制度と理学療法との関わり①	急速に拡充する介護保険制度について、実態と課題について理解する。	
2	理学療法各論 2	介護保険制度と理学療法との関わり②	介護保険制度と理学療法の関わりや現状での役割、期待される役割を理解する。	
3	理学療法各論 3	福祉用具とその諸制度（福祉用具貸与）	介護保険制度に設けられているテクニカルエイド（特に福祉用具貸与）に関する、サービスの仕組みやその内容を理解する。	
4	理学療法各論 4	福祉用具とその諸制度（福祉用具購入費給付）	介護保険制度に設けられているテクニカルエイド（特に福祉用具購入費給付）に関する、サービスの仕組みやその内容を理解する。	
5	理学療法各論 5	福祉用具とその諸制度（住宅改修費給付）	介護保険制度に設けられているテクニカルエイド（特に住宅改修費給付）に関する、サービスの仕組みやその内容を理解する。 住宅改修の範囲を理解する。	
6	理学療法各論 6	オリエンテーション 理学療法における障害の捉え方	対象疾患に関わらず、理学療法士の役割や目指す目標について説明することができる。	
7	理学療法各論 7	生活障害について	「生活障害」の概念を理解する。	
8	理学療法各論 8	地域：在宅における生活障害と生活機能向上のための理学療法士の役割	1. 地域：在宅における生活障害について理解することができる。 2. 生活障害改善のための理学療法士の役割について理解することができる。	
9	理学療法各論 9	ICF と生活障害	1. ICF についての理解を深める。 2. ADL・QOL・ICF の関連を理解する。 3. ICF の中の参加が生活目標に直結することを理解する。	
10	理学療法各論 10	訪問リハビリテーション	1. 訪問リハビリテーションの概要について理解する。 2. 訪問リハビリテーションの特性について理解する。	
11	理学療法各論 11	通所リハビリテーション	1. 通所リハビリテーションの概要について理解する。 2. 通所リハビリテーションの特性について理解する。	

12	理学療法各論 12	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概念について理解する。	
13	理学療法各論 13	終末期の地域リハビリテーション	1. 高齢者の尊厳について理解する。 2. 高齢者を死が間近な存在として捉え、理学療法やリハビリテーションのあり方について考える。	
14	理学療法各論 14	障がい者スポーツと理学療法①	パラリンピックに焦点をあてて、障がい者のQOLを考える。	
15	理学療法各論 15	小児の在宅リハビリテーション	在宅でできる運動や遊びについて考える。脳性麻痺児のシーティングとポジショニングについて理解する。	

評価方法	レポート(100%)
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック)。 2 試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	なし。資料を配布する。
参考図書	伊藤日出男、他・著『PT マニュアル地域理学療法学　第 2 版』医歯薬出版、2002 年 牧田光代・編『標準理学療法学専門分野　地域理学療法学　第 3 版』医学書院、2012 年 日本理学療法士協会『理学療法白書 2020 年度版』HUMAN PRESS、2021 年
学習の準備	1 （予習）参考図書の内容および配布資料の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	常勤講師は月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可 非常勤講師は講義の前後。または用紙にて提出すること。可能な限り対応
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	生活環境学（理学療法）	担当教員	信太 雅洋 蛭間 基夫 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3M0751	①、③、④、⑤、⑥					

科目概要	障害児・者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL維持・向上の上で重要である。リハビリテーションは、対象者が抱える心身の障害のみならず、住環境、地域や職場（学校）環境をも考慮した幅広い視野を持った支援が必要である。本講義では、住環境整備に関する基礎的な知識、具体的な手法のほか、「まち」の構造等についても理解し、対象者の特徴を考慮した適切な支援について考察を深める。
学習目標	単なる住宅内だけではなく、高齢者や障害者が生活する地域や職場とともに、都市全体をも含めた生活環境について理解すること また、理学療法の展開や具体的支援に活かせる視点を持つこと

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	環境整備の重要性、PT・OT の介入の現状	障害者や高齢者の生活にどうして物理的環境整備が必要であるのかについて説明できる。PT の住宅改善の介入状況を説明できる。	
2	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザイン	環境整備に重要な影響を及ぼす代表的なデザイン思想について実践例を通して理解できる。	
3	福祉のまちづくり１	我が国の「福祉のまちづくり」の歴史的過程	我が国の「福祉のまちづくり」の歴史的過程を説明できる。	
4	福祉のまちづくり２	我が国の「福祉のまちづくり」の現状	「福祉のまちづくり」の歴史的過程から現在の生活環境の課題を説明できる。	
5	都市構造の実態１	歩道の移動に関する PT の支援のあり方	歩道の構造的特徴により交通困難者にもたらされる制約を把握し、PT としての具体的支援のあり方を説明できる。	
6	都市構造の実態２	横断歩道の移動に関する PT の支援のあり方	横断歩道の構造的特徴により交通困難者にもたらされる制約を把握し、PT としての具体的支援のあり方を説明できる。	
7	海外の支援の実態	環境整備に関する海外セラピストの実態	福祉先進国とされるデンマークを例として、海外セラピストの住宅改善の介入実態を理解する。	
8	住宅改善の支援過程１	住宅改善の支援過程	複数の過程により構成される住宅改善の支援の流れを理解する。	
9	住宅改善の支援過程２	住宅改善支援における PT・OT の役割	住宅改善の支援過程の中で PT に求められる専門性や各過程における具体的な役割について理解する。	
10	住宅改善の支援過程３	住宅改善のプランニングの考え方と進め方	PT として必要なプランニングの具体的方法を説明できる。	
11	具体的支援内容１	住宅改善のプランニング(移動編１)	移動に関する住宅改善について説明できる。	
12	具体的支援内容２	住宅改善のプランニング(移動編２)	移動に関する住宅改善について説明できる。	
13	具体的支援内容３	住宅改善のプランニング(入浴編)	入浴に関する住宅改善について説明できる。	

14	具体的支援内容4	住宅改善のプランニング(排泄編)	排泄に関する住宅改善について説明できる。	
15	まとめ	事例検討	住宅改善事例にて全体的な流れを説明できる。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	事前配布された資料を解説する。
教科図書	なし。資料配布する。
参考図書	鈴木浩・編著『地域計画の射程』八朔社、2010 年 東京商工会議所・編『福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改訂 4 版』東京商工会議所、2016 年 中島明子・編著『HOUSERs』萌文社、2017 年 鶴見隆正、他・編『標準理学療法学専門分野日常生活活動学・生活環境学第 5 版』医学書院、2017 年
学習の準備	1　ADL について復習しておくこと（2 時間） 2　配布資料について予習・復習すること（2 時間）
オフィスアワー	信太：月・火・木・金曜日 16 時 30 分から 18 時 蛭間：講義の前後の時間に対応可能であるが、相談・質問等の内容については事前に信太先生に伝えておくことが望ましい
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床評価学セミナー（理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP3N0782	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	本セミナーでは、「臨床評価学実習」に向け、これまで“理学療法評価学”で学習した臨床上、必要な知識・ 技術・態度について演習を交えて理解する。知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の流れについて理解を深める。
学習目標	① 実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ② 実習領域の評価に関連する知識を復習する。 ③ 実習領域の評価に関連する実技を復習する。 ④ 実習で体験した内容を報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス1	臨床評価学実習の概要	臨床評価学実習の概要を理解する。	担当教員全員
2	ガイダンス２	知り得た情報の管理方法、記録とレポート作成方法	知り得た情報の管理方法を理解する。 実習記録とレポートの作成方法を理解する。	担当教員全員
3	演習１	実習領域の評価に関連する知識	実習領域の評価に関連する知識を復習する。	担当教員全員
4	演習２	〃	〃	担当教員全員
5	演習３	〃	〃	担当教員全員
6	演習４	〃	〃	担当教員全員
7	演習５	〃	〃	担当教員全員
8	演習６	〃	〃	担当教員全員
9	報告１	実習施設の概要や役割の報告	実習施設の概要や役割および体験内容を報告する。	担当教員全員
10	報告２	〃	〃	担当教員全員

11	報告 3	〃	〃	担当教員全員
12	報告 4	〃	〃	担当教員全員
13	報告 5	〃	〃	担当教員全員
14	報告 6	〃	〃	担当教員全員
15	報告 7	〃	〃	担当教員全員

評価方法	実技試験（60%）、サマリー発表（40%）
課題に対するフィードバック	1 実技試験終了後、フィードバックする。 2 サマリー発表を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	臨床評価学実習に向けて、これまで学習した内容をできる限り復習すること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床評価学実習に向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の流れについて実践的な指導をする。

科目名	臨床評価学実習（理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	4単位	実習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HRP3N0793	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	評価学実習では、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の過程を実習する。①必要な情報収集、面接および検査測定を選択して実施すること、②評価手段によって得られた結果を個々に分析すること、③その結果を解釈すること、④評価過程を適切に記録し、報告することが目標となる。さらにこの過程を通じて、対象者の障害を把握する科学的な観察力や思考力も養う。
学習目標	①　必要な情報収集、面接および検査測定を選択して実施する。 ②　評価手段によって得られた結果を個々に分析する。 ③　分析結果をもとに統合解釈を経験して評価の意義を理解する。 ④　評価過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１週）	上記学習目標①～④	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４週）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床評価学実習評価表、実習報告会の内容を総合して判定する。
課題に対するフィードバック	実習報告会を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1　臨床評価学実習に臨むにあたって、これまでの学習内容をできる限り理解しておくこと 2　実習後は、実習で学んだことを整理しておくこと

オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	病院・施設において、臨床実習担当の指導・監督の下、理学療法の実務を見学・体験させる。

科目名	ケーススタディー	担当教員	伊藤 俊輔 世古 俊明 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3L0841	①、④、⑥

科目概要	これまでに学んだ理学療法に関する検査測定、個人因子や環境因子を含めた評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム作成・実施について基礎的な知識を基に、整形外科的疾患、中枢神経疾患の症例を中心としたケーススタディを行う。ケーススタディを通し、評価項目の選択・結果の解釈ができるように学んでいく。そして得られた評価結果から、統合と解釈および問題点の抽出の仕方についてもイメージすることができ、臨床実習に繋げられるように進めて行く。
学習目標	患者背景などの一般情報や医学的情報から検査項目を選択する思考過程を養い、検査目的や検査結果の解釈に関する思考力を深める。また、統合と解釈から治療に関する思考過程が向上する。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション	オリエンテーション	科目概要について理解する。 理学療法評価の流れを理解する。	
2	整形外科的疾患	股関節疾患のケーススタディ１	股関節疾患の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	
3	〃	股関節疾患のケーススタディ２	股関節疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	
4	〃	膝関節疾患のケーススタディ１	膝関節疾患の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	
5	〃	膝関節疾患のケーススタディ２	膝関節疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	
6	〃	腰部疾患のケーススタディ１	腰部疾患の患者情報から検査項目を選択ができる。また、検査の目的を理解できる。	
7	〃	腰部疾患のケーススタディ２	膝腰部疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	
8	〃	整形外科疾患のビデオケーススタディ１	動作観察ができる。検査項目の選択ができる。	
9	〃	整形外科疾患のビデオケーススタディ２	問題点抽出、治療プログラム立案ができる。	
10	中枢神経疾患	脳卒中のケーススタディ１	脳卒中の患者情報から検査項目を選択できる。また、検査の目的を理解できる。	
11	〃	脳卒中のケーススタディ２	脳卒中患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	
12	〃	神経筋疾患のケーススタディ１	神経筋疾患の患者情報から検査項目を選択ができる。また、検査の目的を理解できる。	
13	〃	神経筋疾患のケーススタディ２	神経筋疾患患者の全体像を把握し、統合・解釈ができる。治療プログラム立案ができる。	
14	〃	中枢神経疾患のビデオケーススタディ１	動作観察ができる。検査項目の選択ができる。	

15	〃	中枢神経疾患のビデオケーススタディ 2	問題点抽出、治療プログラム立案ができる。	

評価方法	レポート(100%)
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する（フィードバック)。 2 試験（レポート課題）の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	なし
参考図書	限元庸夫・著『症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作』ヒューマンプレス、2017 年 市橋則明・著『運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第 2 版』文光堂、2014 年 鶴見隆正、辻下守弘・編集『標準理学療法学　専門分野　理学療法　臨床実習とケーススタディ 第 3 版』医学書院、2020 年
学習の準備	1 （予習）事前情報、配布資料の該当箇所を熟読しておくこと（2 時間） 2 （復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	理学療法研究法	担当教員	隈元 庸夫 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP3H0851	①、③、④、⑤

科目概要	保健・医療・福祉、すべての領域において根拠を持ったリーズニングと治療、支援が求められる。その根拠を作り出す作業が研究である。本講義では、一般的な研究手法に加え、医用統計学、診療ガイドライン、理学療法の研究領域と研究実践について網羅的に学習する。また、研究倫理、インフォームド・コンセント、各省庁・団体が定める研究指針について概観する。さらに、研究発表および研究論文作成の手順・方法について学習する。
学習目標	① 理学療法領域における研究の意義を理解する。 ② 一般的な研究手法を理解できる。 ③ 研究倫理を理解できる。 ④ 一般的な医用統計手法を理解できる。 ⑤ 研究計画書作成の流れを理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	講義 1	研究概論	研究の目的と意義を理解する。	
2	講義 2	研究の種類 1：観察研究	観察研究を理解する。	
3	講義 3	研究の種類 2：介入研究	介入研究を理解する。	
4	講義 4	研究の種類 3：データ統合型研究	データ統合型研究を理解する。	
5	講義 5	研究倫理	研究倫理を理解する。	
6	講義 6	文献	文献を簡潔にまとめ報告できる。	
7	講義 7	医用統計学	一般的な統計手法を理解する。	
8	講義 8	研究計画書	研究計画書作成の流れを理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	なし
参考図書	講義で紹介する。
学習の準備	1（予習）興味がある分野の論文を事前に読んで、卒業研究で取り組みたいテーマをイメージしておくこと（2 時間）。 2（復習）研究を実施する上で必要な知識について復習すること（2 時間）。

オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	社会生活行為学	担当教員	山田 恭平 佐々木 努 仙石 泰仁 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR03L1031	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	作業療法の介入にあたっては、身の回りの日常生活動作に加えて、対象者の役割に関わる日常生活関連活動への支援が重要である。そこで本科目では、ICF分類における活動・参加に焦点を当て、地域社会で生活するために必要な家事活動、車の運転、職業関連活動、就学活動等を支援するために必要な知識、制度および他職種連携等について学習する。
学習目標	① ICF の枠組みを踏まえた上で、社会生活活動に対する支援の考え方を理解する。 ② 家事・就学・職業関連活動の支援について理解する。 ③ 自動車運転の支援について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	ICF および社会生活活動について 生活行為について	ICF および社会生活活動について理解する。	
2	生活関連活動	主な対象疾患やその特徴 家事活動などの評価および介入方法について	対象疾患の特徴を理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	
3	就学	主な対象疾患やその特徴 法制度について 評価および介入方法について	対象疾患および関連する法制度について理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	
4	職業関連活動	主な対象疾患やその特徴 法制度について 評価および介入方法について	対象疾患および関連する法制度について理解する。 評価の方法、支援の考え方を理解する。	
5	自動車運転①	若年・高齢者ドライバーの特徴 法制度について	若年・高齢者ドライバーの特徴を理解する。 法制度について理解する。	
6	自動車運転②	若年・高齢者ドライバーの特徴 評価および介入方法について	運転評価の方法、支援の考え方を理解する。	
7	自動車運転③	脳卒中、高次脳機能障害者の特徴 社会資源、法制度について	対象疾患の特徴を理解する。 社会資源、法制度について理解する。	
8	自動車運転④	脳卒中、高次脳機能障害者の特徴 評価および介入方法について	運転評価の方法、支援の考え方を理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	（一社）日本作業療法士協会・編『生活行為向上マネジメント 改訂第 2 版』、2016 年 鴨下賢一、他・著『発達が気になる子への生活動作の教え方―苦手が「できる」にかわる！』中央法規、2013 年 三村將・監『医療従事者のための自動車運転評価の手引き』新興医学出版社、2011 年
学習の準備	1．（予習）次回学習する作業療法専門領域の科目を復習しておくこと（1 時間） 2．（予習）ICF について理解を深めておく、また関連書籍を読んでおくこと（2 時間） 3．事後学習として、講義内容についてを復習すること（1 時間）

オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時 50 分。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	精神障害作業治療学	担当教員	松田 竜幸 森元 隆文 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1131	①、②、③、④、⑤

科目概要	生物・心理・社会学的側面を持つ精神障害への治療・介入は単一の特殊技能にとどまらず、複合的なアプローチによる協業的、相互作用的かつ多元的な作業療法的支援が重要となる。本講座では、各種疾患・障害像から生活障害の起こりやすい状況の理解と特性に合った対応を学習することを基本とし、心理社会的側面の治療的アプローチを題材に、主体的生活者としての対象者について、多面的な理解、より良い予防的かつ効果的なリハビリテーションアプローチ、作業療法アプローチ、治療の構成・構造について、集団的機序を通して意見交換することでさらなる理解を深める。
学習目標	① 作業療法評価から治療目標を設定し、有効な治療構造を設定できる。 ② 精神障害領域で行われている治療実践の場や、方法について説明できる。 ③ 精神障害領域の作業療法実践の方法を理解し、その適応について説明できる。 ④ 精神障害領域の作業療法に関連ある理論や治療法について説明できる。 ⑤ 精神障害領域のトピックに基づき集団におけるリーダー体験ができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	治療構造概説	作業療法の構造と形態	作業療法を成り立たせる構造と構成物と形態についての概要を説明できる。	
2	回復段階概説	回復段階に応じた作業療法	各種精神科疾患のそれぞれの病相期・回復段階の異同や作業療法の目的・働きかけを説明できる。	
3	コミュニケーションと傾聴	作業療法場面のコミュニケーション（基本的傾聴・積極的傾聴）	面接やコミュニケーションにおける基本的傾聴・積極的傾聴を理解し実践できる。	
4	認知行動療法(1)	認知行動療法の基本構造と技法	認知行動療法の基本的な構造と技法の理解ができる。	
5	認知行動療法(2)	認知行動療法の技法と実践	認知行動療法の技法を体験する。	
6	心理教育概説(1)	心理教育の知識と理論	心理教育の基本的な知識と理論の理解ができる。	
7	心理教育概説(2)	心理教育の理論と実際	心理教育の理論と実際を理解し、対象者への説明を体験する。	
8	各種疾患対応(1)	統合失調症と作業療法の取り組み方	統合失調症の作業療法場面の特徴と適切な作業療法の取り組み方を説明できる。	
9	各種疾患対応(2)	気分障害と作業療法の取り組み方	気分障害の作業療法場面の特徴と適切な作業療法の取り組み方を説明できる。	
10	各種疾患対応(3)	神経症性障害の作業療法の取り組み方	神経症性障害の作業療法場面の特徴と適切な作業療法の取り組み方を説明できる。	
11	各種疾患対応(4)	パーソナリティ障害・摂食障害と作業療法の取り組み方	パーソナリティ障害・摂食障害の作業療法場面の特徴と適切な作業療法の取り組み方を説明できる。	
12	各種疾患対応(5)	アルコール依存症・てんかんと作業療法の取り組み方	アルコール依存症・てんかんの作業療法場面の特徴と適切な作業療法の取り組み方を説明できる。	

13	社会生活技能訓練(1)	社会生活技能訓練の知識と理論	社会生活技能訓練の基本的な知識やモデルを理解できる。	
14	社会生活技能訓練(2)	社会生活技能訓練の実践	社会生活技能訓練のモデルを体験する。	
15	事例検討	作業療法プログラムの立案方法と効果判定方法	精神科作業療法プログラム立案方法と効果判定方法を理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	教員作成教材 早坂友成・編著『精神科作業療法の理論と技術』メジカルビュー社、2018 年
参考図書	山根寛・著『精神障害と作業療法　新版』三輪書店、2017 年 上野 武治・著『標準理学療法・作業療法学　精神医学第 4 版増補版』医学書院、2021 年 香山明美、他・編『生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで－□第 2 版』医歯薬出版株式会社、2014 年 石井良和、他・編『精神障害領域の作業療法』中央法規、2010 年
学習の準備	予習：教科図書を通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	松田竜幸：毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。 森元隆文：講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	発達障害作業治療学	担当教員	佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03L1141	①、③、④					

科目概要	発達期に生じた障害を有する小児では、疾患により特徴的な問題を抱え易く、また、現在のみならず将来に亘りライフステージによって対処すべき課題があり、療育の視点に基づいた作業療法支援が必要となる。本講義では、作業遂行要素の評価を基に、とくに脳性運動障害児、発達障害児の障害構造、発達過程での対処すべき課題に対する理解を深める。また、代表的な治療理論について理解し、対象児への具体的な作業療法介入について幅広い視野から考察を深める。
学習目標	① 脳性運動障害児、発達障害児の障害構造について理解する。 ② 対象児の発達過程で対処すべき課題、具体的な作業療法介入の考え方・方法について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	作業療法の概要、過程	発達障害領域における作業療法の概要、評価～治療の過程について（復習）作業療法手段としての遊びの設定について	発達障害領域における作業療法の評価～治療過程での留意すべき点について確認する。（復習）作業療法手段として遊びを設定する際の要件について理解する。	
2	脳性麻痺の評価・治療	脳性麻痺の他職種による一般的治療介入 痙直型両麻痺児の病態、問題、対処について	脳性麻痺児への他職種による一般的治療介入について理解する。 痙直型両麻痺児の障害特徴・関連して生じる問題、治療介入のポイントを理解する。	
3	脳性麻痺の評価・治療	痙直型両麻痺児の病態、問題、対処について	痙直型両麻痺児の障害特徴・関連して生じる問題、治療介入のポイントを理解する。	
4	脳性麻痺の評価・治療	痙直型片麻痺児の病態、問題、対処について	痙直型片麻痺児の障害特徴・関連して生じる問題、治療介入のポイントを理解する。	
5	脳性麻痺の評価・治療	アテトーゼ型児の病態、問題、対処について	アテトーゼ型児の障害特徴・関連して生じる問題、治療介入のポイントを理解する。	
6	脳性麻痺の評価・治療	脳性麻痺児で見られる異常姿勢／運動の形成過程、生じる問題、対処について	脳性麻痺児で見られる異常姿勢／運動の形成過程、生じる問題、対処について理解する。	
7	重症児・者の評価・治療	重症心身障害児・者の異常姿勢の評価、posturing の考え方・具体的方法について	重症心身障害児・者の異常姿勢の評価、posturing の考え方・具体的方法について理解する。	
8	各機能の評価・治療	上肢機能の発達と評価・治療の視点	CP 児と発達障害児を例に、上肢機能の発達過程と評価・治療の視点について、理解する。	
9	各機能の評価・治療	視覚機能の発達と評価・治療の視点	CP 児と発達障害児を例に、視覚機能、遊び・認知発達の過程と評価・治療の視点について理解する。	
10	各機能の評価・治療	遊び・認知発達の過程・評価・治療の視点	CP 児と発達障害児を例に、遊び・認知発達の過程と評価・治療の視点について理解する。	
11	各機能の評価・治療	心理・社会機能の発達と評価・治療の視点	CP 児と発達障害児を例に、心理・社会機能の発達過程と評価・治療の視点について理解する。	
12	各機能の評価・治療	ADL の発達過程・評価・治療の視点 学習・就労に向けた評価・支援の視点	CP 児と発達障害児を例に、ADL や学習・就労に向けた評価・支援の視点について理解する。	
13	各機能の評価・治療	様々な対象児の食事の問題、摂食機能の発達と評価、食事指導の実際 1	摂食機能の発達過程と評価の視点、実際的な指導のアプローチについて理解する。	

14	各機能の評価・治療	様々な対象児の食事の問題、摂食機能の発達と評価、食事指導の実際 2	CP 児のほか、発達障害児、知的障害児に見られる食事に関する問題について理解する。	
15	治療理論	感覚統合療法ほか代表的な治療理論について	感覚統合理論と治療の考え方、ほか代表的な治療理論について理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	長崎重信・監修「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト　発達障害作業療法学（第 3 版)」 メジカルビュー社
参考図書	岩崎清隆・鴨下賢一・著『発達障害の作業療法〔基礎編〕第 3 版』三輪書店 岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一・著『発達障害の作業療法〔実践編〕第 3 版』三輪書店 田村良子・編『作業療法学全書第 6 巻作業治療学 3　発達障害』協同医書出版 EVA BOEER・編著『脳性まひ児の家庭療育　第 4 版』医歯薬出版 Jung Sun Hong・著『正常発達　脳性まひ治療への応用』三輪書店
学習の準備	1.（予習）次回のテキスト等の通読と用語の確認をする（2 時間)。 2.（復習）講義内容の理解／不十分である箇所を明確にし、不十分な箇所は担当教員に質問できるよう準備する（2 時間)。
オフィスアワー	火曜日～金曜日　13 時～17 時　随時
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	老年期障害作業治療学	担当教員	久保 勝幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1151	①、②、③、④、⑤、⑥

科目概要	超高齢社会の現代は、高齢者の生活障害を予防・改善し、生活の質を高める作業療法介入が重要視されている。老年期の作業療法では、高齢者が自分らしい人生を送る主体であることを支援するという理念のもと、さまざまな介入が行われている。そこで本科目では、老年学で学習した加齢に伴う心身の変化を踏まえた上で、加齢や老年期の病理に起因する生活障害を理解し、主として維持期（生活期）における対象者への介入について講義を行い、制度を踏まえた実践や多職種との連携に対応できる知識を習得する。
学習目標	①　超高齢社会の現状と高齢者のライフスタイルについて理解する。 ②　老年期の生活障害について理解する。 ③　維持期（生活期）における対象者への介入について理解する。 ④　認知症に対する評価-介入過程を理解する。 ⑤　老年期作業療法の対象者に対して、評価-介入過程を模擬的に実践できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス 老年期作業療法の理念と役割	老年期における作業療法士の役割と形態 老年期作業療法の理念と目的、歴史的変遷	老年期作業療法の考え方について理解する。 老年期作業療法における作業療法士の役割と変遷について理解する。	
2	高齢者の特徴	高齢者の生活課題 生理的老化と生活障害	高齢者の生活の特徴について理解する。 生理的な老化と生活障害について理解する。	
3	高齢社会（1）	高齢化の進展 高齢者のライフスタイル	高齢者のライフスタイルの特徴と作業バランスについて理解する。	
4	高齢社会（2）	高齢者関連の保健･福祉･医療制度の変遷 現在の高齢者関連の法制度	高齢者関連の法制度について理解する。	
5	老年期作業療法のプロセス（1）	評価のプロセス	老年期作業療法の評価のプロセスを理解する。	
6	老年期作業療法のプロセス（2）	評価の解釈、目標設定、介入のプロセス	老年期作業療法の評価の解釈、目標設定、介入のプロセスについて理解する。	
7	認知症（1）	認知症の疫学、画像的理解、臨床場面での症状	認知症に関わる上での基本的な事項を理解する。	
8	認知症（2）	認知症の治療	認知症における薬物療法と非薬物療法について理解する。	
9	作業療法理論に基づいた実践（1）	人間作業モデルの概要	人間作業モデルの概要について理解する。	
10	作業療法理論に基づいた実践（2）	人間作業モデルの評価-介入過程	人間作業モデルの評価について理解する。	
11	老年期作業療法の実践に必要な知識（1）	低栄養，喀痰吸引	低栄養，喀痰吸引について理解する。	
12	老年期作業療法の実践に必要な知識（2）	喀痰吸引	喀痰吸引を実践できる。	
13	事例検討（1）	事例提示、評価計画の立案	老年期作業療法の対象者に対して、評価計画を立案できる。	

14	事例検討（2）	評価の解釈、目標設定	評価結果を解釈して目標を設定できる。	
15	事例検討（3）	介入計画の立案 事例検討のまとめ	老年期作業療法の対象者に対して評価-介入過程を模擬的に実践できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない（資料を配付する）。
参考図書	山田孝・編『クリニカル作業療法シリーズ高齢期障害領域の作業療法第 2 版』中央法規出版、2016 年 矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野高齢期作業療法学第 3 版』医学書院、2015 年 鎌倉矩子、他・著『老年期の作業療法改訂第 3 版』三輪書店、2018 年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書改訂第 3 版第 7 巻作業治療学 4 老年期』協同医書出版社、2008 年
学習の準備	1　事前学習として、老年学、作業療法評価学の老年期障害に関係する部分を理解しておくこと(2 時間)。 2　事後学習として、資料を見直し、要点を整理しておくこと、また、事例の評価計画の立案と目標設定を検討し発表資料を作成すること(2 時間)。
オフィスアワー	木曜日　16:20～16:50。その他担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	高次脳機能障害作業治療学	担当教員	佐々木　努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1161	③、④

科目概要	何らかの原因で認知機能が破綻したことによる生活障害を有する対象者を支援することが作業療法士の役割である。加えて、加齢や疾病に伴う認知機能の変化・低下を予防し、対象者のよりよい生活を維持するために支援することも作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した内容を改めて概観しながら、あらゆる認知機能の変化・低下に対する支援方法を理論的に学習する。 また、現在、地域・医療機関・福祉施設の臨床で実践されている支援方法についても学習する。
学習目標	①　認知機能の回復過程とメカニズムを理解する。 ②　認知機能障害とその基礎的介入方法を理解する。 ③　生活に見られる障害とその介入方法を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	認知機能治療学総論	認知機能の回復メカニズムを理解する。	
2	注意機能	注意障害への介入	注意障害への介入方法を理解する。	
3	記憶機能	記憶障害への介入	記憶障害への介入方法を理解する。	
4	半側空間無視	半側空間無視への介入	半側空間無視への介入方法を理解する。	
5	行為機能	行為障害への介入	行為障害への介入方法を理解する。	
6	言語機能	言語障害への介入	言語障害への介入方法を理解する。	
7	遂行機能	遂行機能障害への介入	遂行機能障害への介入方法を理解する。	
8	その他の認知機能	その他の認知機能障害への介入	様々な認知機能障害への介入方法を理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	多くの良書が出版されている。講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	毎週木曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	総合事例演習	担当教員	三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐々木 努※ 山田 恭平※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1172	①、④、⑤

科目概要	本講座では、作業療法の対象となる疾患について、評価～治療計画～治療をどのように展開するか学習する。演習では既習の知識を統合・応用し、グループワークとプレゼンテーションを中心に行い、様々な思考過程について理解を深める。
学習目標	各疾患の典型例について障害構造を理解し、評価計画・ICF による分類・治療計画を立案できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	身障事例演習概論 1	オリエンテーション 事例演習概論	作業療法における事例研究の位置づけを説明できる	三宅
2	身障演習 1	身体障害系疾患に対する評価計画作成 1	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
3	身障演習 2	身体障害系疾患に対する評価計画作成 2	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
4	身障演習 3	身体障害系疾患に対する評価計画作成 3	演習を通し、評価計画を立案できる	山田
5	身障演習 4	身体障害系疾患に対する評価計画作成 4	演習を通し、評価計画を立案できる	三宅
6	身障プレゼン 1	プレゼンテーション：評価計画 1	発表とフィードバックを通し、評価計画を作成できる	三宅 山田
7	身障プレゼン 2	プレゼンテーション：評価計画 2	発表とフィードバックを通し、評価計画を作成できる	三宅 山田
8	身障講義 1	評価計画の立て方	身体障害領域の評価計画を作成できる	山田
9	身障演習 5	身体障害系疾患に対する ICF による焦点化 1	演習を通し、ICF による焦点化ができる	三宅
10	身障演習 6	身体障害系疾患に対する ICF による焦点化 2	演習を通し、ICF による焦点化ができる	三宅
11	身障プレゼン 3	プレゼンテーション：ICF による焦点化	発表とフィードバックを通し、ICF による焦点化の理解を深める	三宅 山田
12	身障講義 2	ICF による焦点化、目標設定の考え方	ICF による焦点化、目標設定の理解を深め、自ら立案できる	三宅 山田
13	精神事例演習概論	精神障害領域に対する事例研究の概要と評価計画	精神科作業療法における事例研究の意義と評価計画の要点を説明できる	松田

14	精神演習1	精神障害領域に対する評価計画作成	演習を通し、評価計画を立案できる	松田
15	精神プレゼン 1	プレゼンテーション：評価計画（精神科作業療法）	演習を通し、評価計画の理解を深める	松田
16	精神演習 2	評価計画の作成方法（精神科作業療法）	評価計画を作成できる（精神科作業療法）	松田
17	精神演習 3	精神障害領域に対する ICF による焦点化	演習を通し、ICF による焦点化ができる	松田
18	精神演習 4	精神障害領域に対する ICF による焦点化	演習を通し、ICF による焦点化ができる	松田
19	精神プレゼン 2	プレゼンテーション：ICF による焦点化	演習を通し、ICF による焦点化の理解を深める	松田
20	精神演習 5	目標設定（精神科作業療法）	長期目標・短期目標を設定できる（精神科作業療法）	松田
21	維持期の事例 1	事例提示 演習：評価計画の立案	維持期の事例に対する評価計画が立案できる	久保
22	維持期の事例 2	評価結果提示 演習：ICF による評価結果の整理	維持期の事例の評価結果を ICF により整理できる	久保
23	維持期の事例 3	演習：評価結果の統合と解釈	維持期の事例の評価結果を統合し解釈することができる	久保
24	維持期の事例 4	演習：課題抽出・目標設定・プログラム立案 まとめ	維持期の事例に対して、課題を抽出し,目標を設定し、プログラムを立案できる。 維持期の事例に対する作業療法の目的と内容の特性について説明できる。	久保
25	発達障害領域の事例 1	事例提示 演習：評価計画の立案	発達障害領域の事例に対する評価計画が立案できる	佐藤
26	発達障害領域の事例 2	評価結果提示 演習：ICF による評価結果の整理	発達障害領域の事例の評価結果を ICF により整理できる	佐藤
27	発達障害領域の事例 3	演習：評価結果の統合と解釈	発達障害領域の事例の評価結果を統合し解釈することができる	佐藤
28	発達障害領域の事例 4	演習：課題抽出・目標設定・プログラム立案 まとめ	発達障害領域の事例に対して、課題を抽出し、目標を設定し,プログラムを立案できる 発達障害領域の事例に対する作業療法の目的と内容の特性について説明できる	佐藤
29	記録と日誌演習 1	臨床実習を想定して模擬的に記録と日誌を記載し振り返りを行う	記録についての問題点・注意点を学習し、適切な記録を作成することができる	三宅 松田
30	記録と日誌演習 2	評価実習の実際の記録、情報から振り返りを行う	記録についての問題点・注意点を学習し、適切な記録を作成することができる	三宅

評価方法	課題提出（100%）
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に適宜行い、課題に関してはオフィスアワーで対応する。
教科図書	配付資料
参考図書	国際生活機能分類－国際障害分類改訂版：厚生労働省ホームページ （http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html）
学習の準備	予習：身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域・高齢領域の代表疾患の病態等を理解しておくこと 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（合計 1 時間）
オフィスアワー	月曜日 16 時 00 分～17 時 30 分ほか各担当教員から連絡する。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	三宅環・佐々木努・山田恭平は、民間病院で身体障害系疾患における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 松田竜幸は、民間病院で精神障害領域における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 久保勝幸は、民間病院で維持期における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 佐藤拓也は、民間病院で発達障害領域における治療計画について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	総合実技演習	担当教員	山田 恭平※ 久保 勝幸※ 三宅 環※ 佐々木 努※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03L1182	①、②、③、④、⑤

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで本科目では、身体、老年期、発達、精神における評価の過程・手段・目的について理解した上で、3年次前期までに学習した実技演習の内容について実践的な応用技能を習得することを目的とする。
学習目標	① 身体・老年期（高次脳機能障害も含む）・発達障害領域における実践を想定した検査法について理解する。 ② 精神障害領域における実践を想定した検査法について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ROM測定	基本的な ROM 測定の確認した上で､応用的な方法について学習する	基本から実践的な ROM 測定について理解し、実践的できる。	山田
2	ROM 測定	基本的な ROM 測定の確認した上で､応用的な方法について学習する	基本から実践的な ROM 測定について理解し、実践的できる。	山田
3	MMT	基本的な MMT の確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な MMT について理解し､実践的できる。	山田
4	MMT	基本的な MMT の確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な MMT について理解し､実践的できる。	山田
5	各種検査	基本的な検査法を確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な検査法について理解し､実践的できる。	山田
6	各種検査	基本的な検査法を確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な検査法について理解し､実践的できる。	山田
7	動作分析	事例を通して、評価、治療における動作分析の考え方について実践する	基本から実践まで理解できる	山田
8	動作分析	事例を通して、評価、治療における動作分析の考え方について実践する	基本から実践まで理解できる	山田
9	動作分析	事例を通して、評価、治療における動作分析の考え方について実践する	基本から実践まで理解できる	山田
10	動作分析	事例を通して、評価、治療における動作分析の考え方について実践する	基本から実践まで理解できる	山田
11	高次脳機能検査	基本的な神経心理学的検査の内容を理解した上で，実施することを学ぶ。	マニュアルに沿って，基本的な神経心理学的検査を実施できる。	佐々木
12	高次脳機能検査	基本的な神経心理学的検査の内容を理解した上で，実施することを学ぶ。	マニュアルに沿って，基本的な神経心理学的検査を実施できる。	佐々木
13	高次脳機能検査	症例に適した神経心理学的検査を選択・実施し，生活障害との関連を学習する。	神経心理学的検査の結果から生活障害を推測できる。	佐々木

14	高次脳機能検査	症例に適した神経心理学的検査を選択・実施し、生活障害との関連を学習する。	神経心理学的検査の結果から生活障害を推測できる。	佐々木
15	発達障害	発達障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。	佐藤
16	発達障害	発達障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。	佐藤
17	発達障害	発達障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。 実践的な方法について理解する。	佐藤
18	発達障害	発達障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。 実践的な方法について理解する。	佐藤
19	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。	松田
20	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。	松田
21	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。	松田
22	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。 実践的な方法について理解する。	松田
23	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。 実践的な方法について理解する。	松田
24	精神障害	精神障害領域に関する評価法、検査法について総合的に学習する	基本的な評価、検査方法を習得する。 実践的な方法について理解する。	松田
25	移乗動作	基本的な移乗動作の介助法を確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な方法について理解し、実践的できる。	山田
26	移乗動作	基本的な移乗動作の介助法を確認した上で、応用的な方法について学習する	基本から実践的な方法について理解し、実践的できる。	山田
27	総復習・まとめ	検査や移乗介助等について一連の流れで実践的な方法を学習する	一連の流れで評価ができる。	山田 他教員
28	総復習・まとめ	検査や移乗介助等について一連の流れで実践的な方法を学習する	一連の流れで評価ができる。	山田 他教員
29	総復習・まとめ	対象者を想定して、検査や移乗介助等について一連の流れで実践的な方法を学習する	対象者の特徴に合わせて一連の評価ができる。	山田 他教員
30	総復習・まとめ	対象者を想定して、検査や移乗介助等について一連の流れで実践的な方法を学習する	対象者の特徴に合わせて一連の評価ができる。	山田 他教員

評価方法	実技試験（100%）
課題に対するフィードバック	演習を通してフィードバックを行う。 演習中、演習後に質問を受け、回答する。
教科図書	限元庸夫・編『臨床 ROM　測定からエクササイズまで』ヒューマン・プレス、2017 年 Helen J.Hislop、他・著、津山直一、他・訳『新・徒手筋力検査法第 10 版』協同医書出版社、2020 年 長崎重信『作業療法ゴールドマスターテキスト 4　身体障害作業療法学改訂第 2 版』MEDICAL VIEW、2015 年
参考図書	矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野作業療法評価学第 3 版』医学書院、2017 年
学習の準備	1.（予習）演習に関連する 3 年次前期までに学習した実技内容について復習しておくこと 2.（復習）演習で学習した内容について復習し、関連書籍の内容も確認しておくこと（計 1 時間）
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時 50 分、その他在室時はいつでも可能

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	山田恭平は、民間病院でROM（関節可動域）測定・MMT（徒手筋力検査）・反射検査・協調性検査・感覚検査・脳卒中片麻痺検査の臨床応用について及び基本動作介助について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 佐藤拓也は、民間病院で基本動作介助について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 松田竜幸は、民間病院で面接・観察について、作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 佐々木努は、民間病院で高次脳検査について作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 三宅環・久保勝幸は、民間病院で作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。

科目名	臨床評価学セミナー（作業療法）	担当教員	山田 恭平※ 佐々木 努※ 三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03N1252	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床評価学実習に向けて学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。
学習目標	①　実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ②　実習領域の評価に関連する知識を復習する。 ③　実習領域の評価に関連する実技を復習する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	実習に必要な態度・姿勢	実習に必要な態度と姿勢を理解する。	担当教員全員
2	演習 2	実習領域の評価に関連する知識	実習領域の評価に関連する知識を復習する。	担当教員全員
3	演習 3	〃	〃	担当教員全員
4	演習 4	〃	〃	担当教員全員
5	演習 5	〃	〃	担当教員全員
6	演習 6	〃	〃	担当教員全員
7	演習 7	〃	〃	担当教員全員
8	演習 8	実習領域の評価に関連する実技	実習領域の評価に関連する実技を復習する。	担当教員全員
9	演習 9	〃	〃	担当教員全員
10	演習 10	〃	〃	担当教員全員
11	演習 11	〃	〃	担当教員全員
12	演習 12	〃	〃	担当教員全員
13	演習 13	〃	〃	担当教員全員

14	演習 14	〃	〃	担当教員全員
15	演習 15	〃	〃	担当教員全員

評価方法	筆記試験 50%　及び　客観的臨床能力試験（OSCE）50%
課題に対するフィードバック	講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	特になし
参考図書	特になし（演習に必要な資料を随時配布する）
学習の準備	臨床評価学実習に向けて、これまで学習した内容を復習すること 臨床評価学実習で求められる評価手技について確認しておくこと（計 1 時間）
オフィスアワー	火曜日 14：40～17：50。その他の教員については、各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床評価学実習に向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、臨床見学実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をする。

科目名	臨床評価学実習（作業療法）	担当教員	山田 恭平※ 佐々木 努※ 三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	4単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR03N1263	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床評価学実習では、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価の一連の過程を実習する。対象者と適切に対応し、リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害を把握する科学的な観察力を、実践を通して養う。
学習目標	①　必要な情報収集、面接観察および検査測定を選択して実施する。 ②　評価手段によって得られた結果を個々に分析する。 ③　分析結果をもとに統合解釈を経験して評価の意義を理解する。 ④　評価過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習 1	実習施設における実習（第 1 週）	上記学習目標①～④	臨床実習指導者
2	臨床実習 2	実習施設における実習（第 2 週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習 3	実習施設における実習（第 3 週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習 4	実習施設における実習（第 4 週）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床評価学実習評価表（80%）、実習報告会の内容（20%）
課題に対するフィードバック	実習中は、実習指導者が随時フィードバックを行い、担当教員は実習指導者と密に連絡を取りながら必要に応じて学生にフィードバックを行う。 実習後は、個別に担当教員がフィードバックを行う。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	・臨床評価学実習に臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておくこと ・実習施設より具体的な事前学習課題について確認し、実習施設で必要な評価手技を学習しておくこと・実習施設情報や対象となる疾患の特徴について事前に調べておくこと
オフィスアワー	毎週月曜日 13：00～14：30。その他の教員については、各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	民間病院において、臨床実習担当の指導・監督の下、作業療法の実務を見学・体験させる。

科目名	作業療法研究法	担当教員	佐々木 努 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR03H1311	③、④

科目概要	保健・医療・福祉、すべての領域において根拠を持ったリーズニングと治療、支援が求められる。その根拠を作り出す作業が研究である。本講義では、一般的な研究手法に加え、医用統計学、診療ガイドライン、作業療法の研究領域と研究実践について網羅的に学習する。また、研究倫理、インフォームド・コンセント、各省庁・団体が定める研究指針について概観する。さらに、研究発表および研究論文作成の手順・方法について学習する。
学習目標	①　作業療法領域における研究の意義を理解する。 ②　一般的な研究手法を理解できる。 ③　一般的な医用統計手法を理解できる。 ④　研究倫理を理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	講義 1	研究概論	研究の目的と意義を理解する。	
2	講義 2	研究の種類１：文献・調査研究	文献・調査研究を理解する。	
3	講義 3	研究の種類２：実験研究	実験研究を理解する。	
4	講義 4	研究の種類３：事例研究	事例研を理解する。	
5	講義 5	医用統計学	一般的な統計手法を理解する。	
6	講義 6	研究倫理	研究倫理を理解する。	
7	講義 7	文献抄読	文献を簡潔にまとめ報告できる。	
8	講義 8	研究の流れ	研究の一連の流れを理解する。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	講義で紹介する。
学習の準備	予習：次回のテキストが配布されている場合は、通読し用語の確認をする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)
オフィスアワー	毎週火曜日 15：00～16：30。その他は、随時対応する。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床治療学セミナーⅠ （理学療法）	担当教員	限元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP4N0802	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	本セミナーでは、「臨床治療学実習Ⅰ」に向け、これまで理学療法治療学で学習した臨床上、必要な知識・ 技術について、実践的に演習を行い、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈、問題点の抽出、理学療法プログラムの立案という一連の流れについて理解を深める。
学習目標	① 実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ② 実習領域に関連する知識を復習する。 ③ 実習領域に関連する実技を復習する。 ④ 実習で体験した内容を報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス1	臨床治療学実習Ⅰの概要	臨床治療学実習Ⅰの概要を理解する。	担当教員全員
2	ガイダンス２	知り得た情報の管理方法、記録とレポート作成方法	知り得た情報の管理方法を理解する。 実習記録とレポートの作成方法を理解する。	担当教員全員
3	演習１	実習領域の評価・治療に関連する知識と技術	実習領域の評価・治療に関連する知識と技術を復習する。	担当教員全員
4	演習２	〃	〃	担当教員全員
5	演習３	〃	〃	担当教員全員
6	演習４	〃	〃	担当教員全員
7	演習５	〃	〃	担当教員全員
8	演習６	〃	〃	担当教員全員
9	報告１	実習施設の概要や役割および体験内容の報告	実習施設の概要や役割および体験内容を報告する。	担当教員全員
10	報告２	〃	〃	担当教員全員

11	報告 3	〃	〃	担当教員 全員
12	報告 4	〃	〃	担当教員 全員
13	報告 5	〃	〃	担当教員 全員
14	報告 6	〃	〃	担当教員 全員
15	報告 7	〃	〃	担当教員 全員

評価方法	実技試験（60%）、報告会（40%）
課題に対するフィードバック	1 実技試験終了後、フィードバックする。 2 サマリー発表を通してフィードバックする。
教科図書	指定しない。
参考図書	なし
学習の準備	臨床治療学実習 I に向けて、これまで学習した内容をできる限り復習すること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、治療学実習 I に向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の流れについて実践的な指導をする。

科目名	臨床治療学実習Ⅰ（理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	8単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP4N0813	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床治療学実習Ⅰでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を学習する。リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害について問題解決する理学療法士としての能力を、実践を通して養う。一部、実習期間内に訪問リハ・通所リハの見学・経験を含む。
学習目標	①　評価結果および分析から統合解釈を行い対象者の全体像を把握する。 ②　評価から治療計画の立案を行う。 ③　基本的な評価手段が確実に実施できる。 ④　一連の過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１週）	上記学習目標①～④	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４週）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習５	実習施設における実習（第５週）	〃	臨床実習指導者
6	臨床実習６	実習施設における実習（第６週）	〃	臨床実習指導者
7	臨床実習７	実習施設における実習（第７週）	〃	臨床実習指導者
8	臨床実習８	実習施設における実習（第８週）	〃	臨床実習指導者
評価方法	臨床治療学実習Ⅰ評価表、実習報告会の内容を総合して判定する。			

課題に対するフィードバック	実習報告会を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1　臨床治療学実習Ⅰに臨むにあたって、これまでの学習内容をできる限り理解しておくこと 2　実習後は、実習で学んだことを整理しておくこと
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	病院・施設において、臨床実習担当の指導・監督の下、理学療法の実務を見学・体験させる。

科目名	臨床治療学セミナーⅡ （理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 角瀬 邦晃※ 野陳 佳織※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP4N0822	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	本セミナーでは、「臨床治療学実習Ⅱ」に向け、これまで理学療法治療学で学習した臨床上、必要な知識・ 技術について、実践的に演習を行い、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈、問題点の抽出、理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、再評価という一連の流れについて理解を深める。
学習目標	① 実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ② 実習領域に関連する知識を復習する。 ③ 実習領域に関連する実技を復習する。 ④ 実習で体験した内容を報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	ガイダンス	臨床治療学実習Ⅱの概要	臨床治療学実習Ⅱの概要を理解する。	担当教員全員
2	演習 1	実習領域の評価・治療に関連する知識と技術	実習領域の評価・治療に関連する知識と技術を復習する。	担当教員全員
3	演習 2	〃	〃	担当教員全員
4	演習 3	〃	〃	担当教員全員
5	演習 4	〃	〃	担当教員全員
6	演習 5	〃	〃	担当教員全員
7	演習 6	〃	〃	担当教員全員
8	演習 7	〃	〃	担当教員全員
9	報告 1	実習施設の概要や役割および体験内容の報告	実習施設の概要や役割および体験内容を報告する。	担当教員全員
10	報告 2	〃	〃	担当教員全員

11	報告 3	〃	〃	担当教員 全員
12	報告 4	〃	〃	担当教員 全員
13	報告 5	〃	〃	担当教員 全員
14	報告 6	〃	〃	担当教員 全員
15	報告 7	〃	〃	担当教員 全員

評価方法	実技試験（60%）、報告会（40%）
課題に対するフィードバック	1 実技試験終了後、フィードバックする。 2 サマリー発表を通してフィードバックする。
教科図書	指定しない。
参考図書	なし
学習の準備	臨床治療学実習Ⅱに向けて、これまで学習した内容をできる限り復習すること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床治療学実習Ⅱに向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の流れについて実践的な指導をする。

科目名	臨床治療学実習Ⅱ（理学療法）	担当教員	隈元 庸夫※ 伊藤 俊一※ 信太 雅洋※ 小林 巧※ 山中 正紀※ 小塚 直樹※ 久保田 健太※ 世古 俊明※ 森野 陽※ 佐藤 公博※ 小川 峻一※ 伊藤 俊輔※ 野陳 佳織※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	8単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP4N0833	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床治療学実習Ⅱでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療実施までの一連の過程を実習する。リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害を治療する理学療法士としての能力を、実践を通して養う。
学習目標	①　評価を行う。 ②　その結果を解釈する。 ③　治療プログラムを立案する。 ④　実際に治療内容を実施する。 ⑤　それらに関して一連の過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１週）	上記学習目標①～④	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４週）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習５	実習施設における実習（第５週）	〃	臨床実習指導者
6	臨床実習６	実習施設における実習（第６週）	〃	臨床実習指導者
7	臨床実習７	実習施設における実習（第７週）	〃	臨床実習指導者
8	臨床実習８	実習施設における実習（第８週）	〃	臨床実習指導者
評価方法	臨床治療学実習Ⅱ評価表、実習報告会の内容を総合して判定する。			

課題に対するフィードバック	実習報告会を通してフィードバックする。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	特に指定しない。
学習の準備	1　臨床治療学実習Ⅱに臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておくこと 2　実習後は、実習で学んだことを整理しておくこと
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	病院・施設において、臨床実習担当の指導・監督の下、理学療法の実務を見学・体験させる。

科目名	理学療法研究法演習（卒業研究）	担当教員	隈元 庸夫 信太 雅洋 小林 巧 山中 正紀 小塚 直樹 久保田 健太 世古 俊明 森野 陽 佐藤 公博 小川 峻一 伊藤 俊輔 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	通年	4単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRP4H0862	③、④、⑤					

科目概要	研究を実施した場合、その研究結果を対象者と社会に対して報告することが求められている。本科目では、理学療法研究法で学習した研究の基本に則り、実際の研究の実施を通じて、研究計画書、倫理的配慮、研究の実施、研究報告に関する理解を深める。また、担当教員の指導の下、プレゼンテーションを行い、またディスカッションを行うことで、その理解をさらに深める。本科目を通じて、思考力、表現力、問題解決能力の総合的なスキルの向上を目指し、生涯にわたり学習し、研究し続ける姿勢を醸成すると共に、期間中に理学療法士としての総合演習問題を実施する。
学習目標	①　研究の流れを理解する。 ②　研究データ収集、分析、考察を行う。 ③　研究成果を報告する。 ④　科学論文の形式に従い、論文を作成する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	研究の流れ	研究計画書から結果報告までの過程を理解する。	担当教員全員
2	演習 2-10	研究計画書作成	研究テーマを探り、研究計画を立てる。	担当教員全員
3	演習 11-30	研究データ収集	研究データの収集を行う。	担当教員全員
4	演習 31-40	研究データ分析	研究データを分析する。	担当教員全員
5	演習 41-55	研究発表	研究成果を発表する。	担当教員全員
6	演習 56-60	研究論文	研究成果を論文にまとめる。	担当教員全員

評価方法	①研究論文（35%）・学習への取り組み（15%） ②筆記試験（50%） ※①と②のいずれか１つでも６割に満たない場合、当該科目は「D」判定となる。
課題に対するフィードバック	各ゼミにて対応する。
教科図書	特に指定しない。

参考図書	特に指定しない。
学習の準備	担当教員と研究テーマ、データ収集、発表内容について計画的に進めること（1 時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	担当教員	佐々木 努※ 三宅 環※ 山田 恭平※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR04N1272	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床治療学実習Ⅰに向けて学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。
学習目標	①　実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ②　実習領域に関連する知識を復習する。 ③　実習領域に関連する実技を復習する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	実習に必要な態度・姿勢	実習に必要な態度と姿勢を理解する。	担当教員全員
2	演習 2	実習領域に関連する知識	実習領域に関連する知識を復習する。	担当教員全員
3	演習 3	〃	〃	担当教員全員
4	演習 4	〃	〃	担当教員全員
5	演習 5	〃	〃	担当教員全員
6	演習 6	〃	〃	担当教員全員
7	演習 7	〃	〃	担当教員全員
8	演習 8	実習領域に関連する実技	実習領域に関連する実技を復習する。	担当教員全員
9	演習 9	〃	〃	担当教員全員
10	演習 10	〃	〃	担当教員全員
11	演習 11	〃	〃	担当教員全員
12	演習 12	〃	〃	担当教員全員

13	演習 13	〃	〃	担当教員 全員
14	演習 14	〃	〃	担当教員 全員
15	演習 15	〃	〃	担当教員 全員

評価方法	関連知識に関する試験（50%）、客観的臨床能力試験 OSCE（50%）、症例試験（50%）とし、合計 60%以上で合格とする
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	予習：臨床治療学実習Ⅰに向けて、これまで学習した内容を復習すること 復習：講義・演習内容について、理解を深めること（計 1 時間）
オフィスアワー	講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床治療学実習Ⅰに向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をする。

科目名	臨床治療学実習Ⅰ（作業療法）	担当教員	佐々木 努※ 三宅 環※ 山田 恭平※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	8単位	実習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04N1283	①、②、③、④、⑤、⑥

科目概要	臨床治療学実習Ⅰでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価および治療計画立案までの一連の過程を実習する。対象者のリスク管理を的確に行い、対象者の障害を解決する能力を、実践を通して養う。
学習目標	①　評価結果および分析から統合解釈を行い対象者の全体像を把握する。 ②　評価から治療計画の立案を行う。 ③　基本的な評価手段が確実に実施できる。 ④　一連の過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１週）	上記学習目標①～④	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４週）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習５	実習施設における実習（第５週）	〃	臨床実習指導者
6	臨床実習６	実習施設における実習（第６週）	〃	臨床実習指導者
7	臨床実習７	実習施設における実習（第７週）	〃	臨床実習指導者
8	臨床実習８	実習施設における実習（第８週）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床治療学実習Ⅰ評価表80%、実習報告会の内容（発表資料、発表スキル、質疑への対応）20%
課題に対するフィードバック	適宜、実習指導者よりフィードバックを行う。
教科図書	なし
参考図書	なし

学習の準備	担当教員、および実習指導者の指導にもと、その日の実習経験を踏まえて自己学習を行うこと。
オフィスアワー	月曜の 16 時 30 分～18 時 00 分、ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	民間病院において、臨床実習担当の指導・監督の下、作業療法の実務を見学・体験させる。

科目名	臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	担当教員	佐々木 努※ 三宅 環※ 山田 恭平※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR04N1292	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床治療学実習Ⅱに向けて学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。
学習目標	①　実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ②　実習領域に関連する知識を復習する。 ③　実習領域に関連する実技を復習する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	実習に必要な態度・姿勢	実習に必要な態度と姿勢を理解する。	担当教員全員
2	演習 2	実習領域に関連する知識	実習領域に関連する知識を復習する。	担当教員全員
3	演習 3	〃	〃	担当教員全員
4	演習 4	〃	〃	担当教員全員
5	演習 5	〃	〃	担当教員全員
6	演習 6	〃	〃	担当教員全員
7	演習 7	〃	〃	担当教員全員
8	演習 8	実習領域に関連する実技	実習領域に関連する実技を復習する。	担当教員全員
9	演習 9	〃	〃	担当教員全員
10	演習 10	〃	〃	担当教員全員
11	演習 11	〃	〃	担当教員全員
12	演習 12	〃	〃	担当教員全員

13	演習 13	〃	〃	担当教員全員
14	演習 14	〃	〃	担当教員全員
15	演習 15	〃	〃	担当教員全員

評価方法	関連知識に関する試験（50%）、客観的臨床能力試験 OSCE（50%）、症例試験（50%）とし、合計 60%以上で合格とする
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	予習：臨床治療学実習Ⅱに向けて、これまで学習した内容を復習すること 復習：講義・演習内容について、理解を深めること（合計 1 時間）
オフィスアワー	講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	担当教員の実務経験を基に、臨床評価学実習Ⅱに向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をする。

科目名	臨床治療学実習Ⅱ（作業療法）	担当教員	佐々木 努※ 三宅 環※ 山田 恭平※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	前期	8単位	実習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR04N1303	①、②、③、④、⑤、⑥					

科目概要	臨床治療学実習Ⅱでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価および治療実施までの一連の過程を実習する。対象者のリスク管理を的確に行い、対象者の障害を解決する能力を、実践を通して養う。
学習目標	①　評価から治療までの一連の過程を実施する。 ②　基本的な作業療法評価・治療が実施できる。 ③　一連の過程を適切に記録し、報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	臨床実習１	実習施設における実習（第１週）	上記学習目標①～③	臨床実習指導者
2	臨床実習２	実習施設における実習（第２週）	〃	臨床実習指導者
3	臨床実習３	実習施設における実習（第３週）	〃	臨床実習指導者
4	臨床実習４	実習施設における実習（第４週）	〃	臨床実習指導者
5	臨床実習５	実習施設における実習（第５週）	〃	臨床実習指導者
6	臨床実習６	実習施設における実習（第６週）	〃	臨床実習指導者
7	臨床実習７	実習施設における実習（第７週）	〃	臨床実習指導者
8	臨床実習８	実習施設における実習（第８週）	〃	臨床実習指導者

評価方法	臨床治療学実習Ⅱ評価表 80%、実習報告会の内容（発表資料、発表スキル、質疑への対応）20%
課題に対するフィードバック	適宜、実習指導者よりフィードバックを行う。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	担当教員、および実習指導者の指導にもと、その日の実習経験を踏まえて自己学習を行うこと。

オフィスアワー	月曜の 16 時 30 分～18 時 00 分、ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	民間病院において、臨床実習担当の指導・監督の下、作業療法の実務を見学・体験させる。

科目名	作業療法研究法演習（卒業研究）	担当教員	佐々木 努※ 山田 恭平※ 三宅 環※ 松田 竜幸※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	通年	4単位	演習

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04H1322	③、④、⑤

科目概要	研究を実施した場合、その研究結果を対象者と社会に対して報告することが求められている。本講義では、作業療法研究法で学習した内容に基づいて、研究計画書作成、倫理同意書作成、研究実施、研究報告の過程を体験する。また、上記の過程については担当教員の指導の下、担当教員と小グループ（ゼミ）内で研究の進捗状況を確認しながら進める。また小グループ内での批判的ディスカッションを行うことで研究の意義や目的を確認するプロセスや研究の楽しさを学習する。
学習目標	①　研究の流れを理解する。 ②　研究データ収集、分析、考察を行う。 ③　研究成果を報告する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1	研究の流れ	研究計画書から結果報告までの過程を理解する。	担当教員
2	演習 2-10	研究計画書作成	研究テーマを探り、研究計画を立てる。	担当教員
3	演習 11-30	研究データ収集	研究データの収集を行う。	担当教員
4	演習 31-40	研究データ分析	研究データを分析する。	担当教員
5	演習 41-55	研究発表	研究成果を発表する。	担当教員
6	演習 56-60	研究論文	研究成果を論文にまとめる。	担当教員

評価方法	研究論文（50%）、研究発表（50%）
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	予習：３年次の研究法で学習した内容を復習すること。 復習：担当テーマに関する文献レビュー、データ分析と解釈を各自で行い、理解が不十分な内容について担当教員に質問を行う準備を行う。（計１時間）
オフィスアワー	毎週月曜日 13：00～14：30。その他の教員については、各担当教員から連絡する。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	公衆衛生学	担当教員	森 満 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC4G0491	③、④、⑤、⑥

科目概要	公衆衛生学と関連する国家試験問題が毎年、多数出題されている。講義では毎回、公衆衛生学と関連する2つのテーマについて資料を配布して説明し、それと関連する国家試験問題を解説する。
学習目標	公衆衛生学と関連する国家試験問題に正解できるようになることが目標である。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	国際生活機能分類ICF、高齢者の特徴など	1-1. 国際生活機能分類 ICF 1-2. 高齢者の特徴、認知機能	国際生活機能分類 ICF、高齢者の特徴、認知機能について説明できる。	
2	ADL・QOL、医療関連法規	2-1. ADL・QOL 2-2. 医療関連法規	ADL・QOL、医療関連法規について説明できる。	
3	生活習慣病対策、その他の疾病対策	3-1. 生活習慣病対策 3-2. その他の疾病対策	生活習慣病対策、その他の疾病対策について説明できる。	
4	介護保険、人口静態、人口動態、がん対策	4-1. 介護保険 4-2. 人口静態、人口動態、がん対策	介護保険、人口静態、人口動態、がん対策について説明できる。	
5	障害者福祉、社会保障、医療倫理など	5-1. 障害者福祉、精神保健、難病対策、生活保護 5-2. 社会保障、医療制度、医療施設、医療倫理	障害者福祉、精神保健、難病対策、生活保護、社会保障、医療制度、医療施設、医療倫理について説明できる。	
6	感染症対策、生活環境など	6-1. 感染症対策、食品衛生、学校保健 6-2. 生活環境、地球環境、産業保健	感染症対策、食品衛生、学校保健、生活環境、地球環境、産業保健について説明できる。	
7	疫学的研究デザイン、データの集約など	7-1. 疫学の概念、疫学的研究デザイン 7-2. データの集約、疾患の測定	疫学の概念、疫学的研究デザイン、データの集約、疾患の測定について説明できる。	
8	関連の強さ、スクリーニング検査など	8-1. 関連の強さ、偶然の評価 8-2. 予防の概念、スクリーニング検査、診断学的検査	関連の強さ、偶然の評価、予防の概念、スクリーニング検査、診断学的検査について説明できる。	

評価方法	筆記試験（100%）過去の国家試験で出題された多肢選択問題と同様の形式の問題を 60 題出題し、マークシートに解答する。
課題に対するフィードバック	各回とも講義資料と問題集を配布する。その中には、関連する国家試験形式の多肢選択問題が多数、含まれているので、講義を受講して問題集に正解できるようになること。試験によって、講義内容の理解度を判定する。
教科図書	毎回、講義資料と問題集を配布する。
参考図書	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会
学習の準備	（予習）公衆衛生学と関連するさまざまな報道に普段から関心を持ち、関連する記事を読む（2 時間）。 （復習）講義で配布した資料と問題集を復習する（2 時間）。
オフィスアワー	月曜日から金曜日までの午前 9 時～午後 5 時、在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	担当教員	世古 俊明※ 小川 峻一※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	4年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HRC4G0552	③、④、⑤、⑥					

科目概要	「健康増進障害予防概論」および「健康増進障害予防演習Ⅰ」で学んだ知識・技術を基礎として、理学療法学、作業療法学、健康増進科学等の各分野における最新の知見を集約し、健康増進と障害予防のための実際のヘルスプロモーションに向けた介入計画の立案、指導、環境調整、他職種連携について学び知識を統合する。
学習目標	健康増進のためのヘルスプロモーション推進を理解し、実際の対象に対する運動器ならびに認知機能評価結果から、健康増進と障害予防に効果的となる根拠に基づいた介入プログラム立案の基礎知識と実践力を獲得し、他職種連携の知識や役割を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論.1	健康増進のためのヘルスプロモーション	健康増進のためのヘルスプロモーションの概念を理解する。	世古
2	総論.2	ヘルスプロモーションと地域活動	地域活動に関して必要な知識を理解する。	世古
3	身体機能と健康増進プログラム.1	身体機能評価と改善のためのプログラムの理解	身体機能評価結果から維持・改善のためのプログラムを理解する。	世古
4	身体機能と健康増進プログラム.2	身体機能の維持・向上改善プログラムの立案	身体機能評価結果から維持・改善のためのプログラムを立案できる。	世古
5	認知機能と健康増進プログラム.1	認知機能のための評価とプログラムの理解	認知機能評価結果から維持・改善のためのプログラムを理解する。	小川
6	認知機能と健康増進プログラム.2	認知機能の維持・向上プログラムの立案	認知機能評価結果から維持・改善のためのプログラムを立案できる。	小川
7	健康増進と他職種連携.1	健康増進と他職種連携の理解	他職種連携のための知識を理解する。	小川
8	健康増進と他職種連携.2	健康増進と他職種連携の事例検討	他職種連携のための知識を用いて、事例対象者に対する他職種連携の役割を理解する。	小川
9	健康増進と他職種連携.3	他専門職学生との協同演習.1	他職種連携について理解する。	世古 小川
10	健康増進と他職種連携.4	他専門職学生との協同演習.2	他職種連携について理解する。	世古 小川
11	健康増進と他職種連携.5	他専門職学生との協同演習.3	他職種連携におけるリハビリテーション職種の役割について理解する。	世古 小川
12	健康増進と他職種連携.6	他専門職学生との協同演習.4	他職種連携におけるリハビリテーション職種の役割について理解する。	世古 小川
13	健康増進と他職種連携.7	他専門職学生との協同演習.5	他職種連携における自己課題を明らかとし、課題解決方法を検討する。	世古 小川
14	健康増進と他職種連携.8	他専門職学生との協同演習.6	他職種連携における自己課題を明らかとし、課題解決方法を検討する。	世古 小川

15	まとめ	健康増進のためのプログラムのエビデンス	健康増進のためのプログラムのエビデンを整理して理解する。	世古
評価方法		レポート（90%）、授業における応対や態度などの講義への関心度（10%）		
課題に対するフィードバック		講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。		
教科図書		特に指定しない（資料を配布する）。		
参考図書		日本ヘルスプロモーション理学療法学会・編「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション　理論と実践、改訂第 2 版」南江堂		
学習の準備		「健康増進障害予防概論」および「健康増進障害予防演習 I 」で学んだ知識・技術の内容を整理しておくこと（1 時間）		
オフィスアワー		月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		世古俊明・小川峻一は、民間病院で健康増進と障害予防のための実際のヘルスプロモーションに向けた介入計画の立案、指導、環境調整の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		

科目名	理学療法管理学	担当教員	佐藤 公博 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	必修	4年	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP4J0871	①、④、⑤、⑥

科目概要	管理とマネジメントに関する概念について学び、国家資格取得後に現場で活動する医療専門職として、必要な知識について学び理解を深める。社会保障制度、医療・保健・福祉制度の全体像を理解したうえで、職業倫理と専門職論、業務管理、情報管理、リスク管理、理学療法学教育・研究管理について学び、社会が求める理学療法士像、自ら目標とする理学療法士像について考察する。
学習目標	1．経営学における人や組織の理論を医療に応用しマネジメントの基礎について理解する 2．医療専門職に関する理論を理解し、理学療法士の専門性と自分の目標について考察する。 3．医療、保健、福祉制度について全体像を理解する

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	講義	オリエンテーション、管理とマネジメント①	管理とマネジメントの概念について理解する。	
2	講義	管理とマネジメント②	経営学の視点からマネジメントについて理解する	
3	講義	組織運営とマネジメント	病院組織の特性と理学療法管理の視座、病院組織の特性について理学療法士の視点からの管理について理解する。	
4	講義	職業倫理と医療プロフェッショナリズム	職業倫理とプロフェッショナリズムについて理解する	
5	講義	専門職とチームケア	専門職の役割とチームケアの必要性について理解する	
6	講義	社会保障の仕組み	社会保障制度、役割、機能、費用負担について理解する	
7	講義	医療保険制度	国民皆保険制度、医療費、保険診療のしくみについて理解する。	
8	講義	介護保険制度	介護保険制度の歴史、特徴、理学療法との関係について理解する	
9	講義	医療・保健・福祉の連携	社会保障、社会保険、医療保険、介護保険制度などの変遷について理解し、マネジメント・連携について理解する	
10	講義	業務管理	理学療法士の業務、多職種との連携を理解する	
11	講義	情報管理	理学療法士の業務に必要な情報と診療記録の分類とその管理について理解する	
12	講義	リスク管理	医療福祉におけるコンプライアンス、安全への取り組みの方法を理解する	
13	講義	教育・研究管理	理学療法学教育の体系と変遷について全体を理解したうえで専門職としての教育・研究管理について理解する。	
14	講義・演習	目標管理とモチベーション①（演習）	社会が求める理学療法士像、自ら目標とする理学療法士像について考察する。	

15	講義・演習	目標管理とモチベーション②（演習）	理学療法士の専門性、自ら目標とする理学療法士像について考察する。	

評価方法	①　授業内での演習(50%)　②　レポート(50%)
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする
教科図書	石川朗総編集 『理学療法テキスト 理学療法管理学』中山書店 2020 年
参考図書	金谷さとみ、高橋仁美編集　リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック　2022 年
学習の準備	（予習）主な学習内容・到達目標を読み、用語を調べる。(2時間)。 （復習）教科書、配布資料を再読し、重要事項・理解が不十分な事項についてノートにまとめる。該当する国家試験過去問題を解く(2 時間)。
オフィスアワー	水曜日　13:00~14:30
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	理学療法ゼミⅡ	担当教員	隈元 庸夫 信太 雅洋 小林 巧 山中 正紀 久保田 健太 世古 俊明 森野 陽 佐藤 公博 小川 峻一 伊藤 俊輔 野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	4単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP4H0891	③、④、⑤

科目概要	本科目では、「理学療法ゼミⅠ」で学んだ基礎をもとに、論文抄読だけでなく、論文を要約し、プレゼンテーションを行うことで、表現力も身に付ける。また、研究実施の一部参加を通じて、思考力、科学的な観察力を深めることを目的とする。
学習目標	① 論文を要約し、プレゼンテーションを行う。 ② 研究を実施し、科学的な思考力・観察力を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	演習1-15	論文抄読	論文を要約し、プレゼンテーションを行う。	担当教員全員
2	演習 16-23	研究データ収集	研究データの収集を行う。	担当教員全員
3	演習 24-30	研究データ分析	研究データを分析する。	担当教員全員

評価方法	学習への取り組み（100%）
課題に対するフィードバック	各ゼミにて対応する。
教科図書	なし
参考図書	なし
学習の準備	1 （予習）興味がある分野の論文を事前に読んでみること（2時間） 2 （復習）研究を実施する上で必要な知識について復習すること（2時間）
オフィスアワー	月曜日 13:00～14:30、その他各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	神経障害理学療法学特論	担当教員	伊藤 俊輔 小川 峻一 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP4L0931	③、⑤

科目概要	「神経障害理学療法学」、「神経障害理学療法学演習」、「神経障害理学療法学実習」、「神経疾患理学療法学」で学習した脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患に関する知識をもとに、中枢神経障害における具体的な場面を想定した課題について、問題解決型学習を中心に実践する。課題の中から解剖学的・症候学的視点から治療アプローチの関連性について理解を深め、臨床的思考能力を養う。また、グループワーク形式を用いて、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を目的とする。
学習目標	中枢疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	脳卒中1	脳卒中の病態	脳卒中の病態を理解できる。	
2	脳卒中 2	脳卒中の理学療法評価	脳卒中の適切な理学療法評価を理解する。	
3	脳卒中 3	脳卒中の治療 1	脳卒中の適切な理学療法治療を理解する。	
4	脳卒中 4	脳卒中の治療 2	脳卒中の適切な理学療法治療を理解する。	
5	神経筋疾患 1	神経筋疾患の病態 1	神経筋疾患の病態を理解できる。	
6	神経筋疾患 2	神経筋疾患の病態 2	神経筋疾患の病態を理解できる。	
7	神経筋疾患 3	神経筋疾患の理学療法評価 1	神経筋疾患の適切な理学療法評価を理解する。	
8	神経筋疾患 4	神経筋疾患の理学療法評価 2	神経筋疾患の適切な理学療法評価を理解する。	
9	神経筋疾患 5	神経筋疾患の治療 1	神経筋疾患の適切な理学療法治療を理解する。	
10	神経筋疾患 6	神経筋疾患の治療 2	神経筋疾患の適切な理学療法治療を理解する。	
11	脊髄損傷 1	脊髄損傷の病態、理学療法評価	脊髄損傷の病態、適切な理学療法評価を理解する。	
12	脊髄損傷 2	脊髄損傷の理学療法評価、治療	脊髄損傷の適切な理学療法治療を理解する。	
13	小児疾患 1	小児疾患の病態、理学療法評価	小児疾患の病態、適切な理学療法評価を理解する。	

14	小児疾患 2	小児疾患の治療	小児疾患の適切な理学療法治療を理解する。	
15	まとめ	神経疾患に関する総復習	様々な神経障害分野に関する病態、理学療法評価、治療を理解、説明できる。	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	なし
参考図書	医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア、2017 年 潮見泰藏・編『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション –カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ–』羊土社、2012 年 福井圀彦、他・編著『脳卒中最前線 第 4 版』医歯薬出版、2009 年 大畑光司、他・責任編集『神経障害理学療法学Ⅰ15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011 年 大畑光司、他・責任編集『神経障害理学療法学Ⅱ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2012 年 森山英樹・責任編集『理学療法評価学Ⅰ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2013 年 森山英樹・責任編集『理学療法評価学Ⅱ 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2013 年 細田多穂・監『小児理学療法学テキスト 改定第 3 版』南江堂、2018 年 岩﨑洋・編著『脊髄損傷理学療法マニュアル 第 3 版』文光堂、2020 年
学習の準備	1.（予習）神経障害理学療法学、神経障害理学療法学演習、神経障害理学療法学実習、神経筋疾患理学療法学の内容を復習しておくこと（2 時間） 2.（復習）授業中に配布した資料を見直し、専門用語の意味等を理解しておくこと（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 10 時～16 時、その他在室時はいつでも可
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	運動器障害理学療法学特論	担当教員	小林 巧 野陳 佳織 角瀬邦晃 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP4L0941	③、⑤

科目概要	筋・骨関節系に関わる人体構造機能学や「運動学」などの“基礎医学”、“理学療法評価学”、「運動器障害理学療法学」、「運動器障害理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ」などの理学療法治療学にて得られた知識・技術と、「臨床実習」にて得られた経験を統合し、運動器疾患に対する理学療法が行えるようになるための発展的な学習を目的とする。運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を養うことを目標とする。
学習目標	運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	肩関節１	肩関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肩関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
2	肩関節２	肩関節疾患の理学療法	代表的な肩関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
3	肘・手関節１	肘・手関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肘・手関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
4	肘・手関節２	肘・手関節疾患の理学療法	代表的な肘・手関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
5	脊柱１	脊柱疾患の病態と理学療法評価	代表的な脊柱疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
6	脊柱２	脊柱疾患の理学療法	代表的な脊柱疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
7	股関節１	股関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な股関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
8	股関節２	股関節疾患の理学療法	代表的な股関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
9	膝関節１	膝関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な膝関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
10	膝関節２	膝関節疾患の理学療法	代表的な膝関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
11	足部・足関節１	足部・足関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な足部・足関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
12	足部・足関節２	足部・足関節疾患の理学療法	代表的な足部・足関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
13	スポーツ傷害１	上肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	

14	スポーツ傷害２	脊柱スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な脊柱のスポーツ外傷･障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
15	スポーツ傷害３	下肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な下肢のスポーツ外傷･障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	

評価方法	筆記試験（80%）・講義に対する姿勢（20%）
課題に対するフィードバック	1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3 筆記試験，レポート課題の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。
教科図書	細田多穂・監『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第 2 版』南江堂、2016 年
参考図書	整形外科リハビリテーション学会･編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション　下肢』メジカルビュー社、2014 年 整形外科リハビリテーション学会･編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション　上肢・体幹』メジカルビュー社、2014 年
学習の準備	１（予習）運動器傷害基礎論、運動器障害理学療法学、運動器障害理学療法学演習Ⅰの内容を確認する（2 時間）。 ２（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（2 時間）。
オフィスアワー	月曜日 13 時~14 時半、その他在室時はいつでも可能
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	内部障害理学療法学特論	担当教員	信太 雅洋 森野 陽 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRP4L0951	③、⑤

科目概要	「内部障害理学療法学」、「内部障害理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ」で学習した呼吸リハビリテーション、心臓リハビリテーションに関する知識をもとに、内部疾患に対するリハビリテーションにおける問題解決型学習を中心に実践する。具体的には、解剖学的・症候学的視点から治療アプローチの関連性について理解を深めること、グループワーク形式を用いて、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を図る。
学習目標	① 呼吸リハビリテーションに関連する解剖学、生理学の知識を整理し、また呼吸リハビリテーションにおける評価・治療に関する理解を深める。 ② 心臓リハビリテーションに関連する解剖学、生理学の知識を整理し、また心臓リハビリテーションにおける評価・治療に関する理解を深める。 ③ その他内部障害リハビリテーションに関連する解剖学、生理学の知識を整理し、リハビリテーションにおける評価・治療に関する理解を深める。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	オリエンテーション 呼吸リハビリテーション(1)	オリエンテーション 呼吸リハビリテーションに関連する解剖学・生理学	気管、肺の構造の理解を深める。	
2	呼吸リハビリテーション(2)	呼吸リハビリテーションに関連する解剖学・生理学	気管、肺の機能の理解を深める。	
3	呼吸リハビリテーション(3)	呼吸リハビリテーションの評価と治療	COPD における呼吸リハビリテーションの評価と治療の理解を深める。	
4	呼吸リハビリテーション(4)	呼吸リハビリテーションの評価と治療	肺炎に対する呼吸リハビリテーションの評価と治療の理解を深める。	
5	呼吸リハビリテーション(5)	呼吸リハビリテーションの評価と治療	その他の呼吸器疾患に対する呼吸リハビリテーションの評価と治療の理解を深める。	
6	心臓リハビリテーション(1)	心臓リハビリテーションに関連する解剖学・生理学	心臓の構造と機能についての理解を深める。	
7	心臓リハビリテーション(2)	心臓リハビリテーションに関連する解剖学・生理学	血管や血液の構造と機能についての理解を深める。	
8	心臓リハビリテーション(3)	心臓疾患の評価と治療	心臓疾患の病態と治療についての理解を深める。（ポンプ不全・心筋虚血・不整脈）	
9	心臓リハビリテーション(4)	心臓リハビリテーションの評価と治療	心電図を含め運動生理についての理解を深める。	
10	心臓リハビリテーション(5)	心臓リハビリテーションの評価と治療	急性期・慢性期のリハについての理解を深める。	
11	その他内部疾患に対するリハビリテーション(1)	その他内部疾患に対するリハビリテーションに関連する解剖学・生理学	消化器、内分泌器、腎臓の構造の理解を深める。	
12	その他内部疾患に対するリハビリテーション(2)	その他内部疾患に対するリハビリテーションに関連する解剖学・生理学	消化器、内分泌器、腎臓の機能の理解を深める。	

13	その他内部疾患に対するリハビリテーション(3)	その他内部疾患に対するリハビリテーションに関連する解剖学・生理学	消化器、内分泌器、腎臓の機能の理解を深める。	
14	その他内部疾患に対するリハビリテーション(4)	その他内部疾患に対するリハビリテーションの評価と治療	糖尿病などに対するリハビリテーションの評価と治療の理解を深める。	
15	その他内部疾患に対するリハビリテーション(5)	その他内部疾患に対するリハビリテーションの評価と治療	腎疾患などに対するリハビリテーションの評価と治療の理解を深める。	
評価方法	筆記試験（100%）			
課題に対するフィードバック	1　講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2　定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。			
教科図書	なし			
参考図書	【共通】 ・細田多穂・監『内部障害理学療法学テキスト 改訂第 3 版』南江堂、2017 年 ・医療情報科学研究所・編『クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説』医療情報科学研究所、2022 年 【代謝障害（糖尿病）】 ・日本糖尿病学会・編著『糖尿病治療ガイド 2018-2019』文光堂、2018 年 ・清野裕、他・監『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社、2015 年 【呼吸器】 ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、他・編『呼吸リハビリテーションマニュアル運動療法 第 2 版』照林社、2012 年 ・高橋仁美、他・編『動画でわかる呼吸リハビリテーション 第 3 版』中山書店、2012 年 ・玉木彰・編『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第 2 版』中山書店、2017 年 ・千住秀明、他・監『呼吸理学療法標準手技』医学書院、2008 年 ・医療情報科学研究所・編『病気がみえる 呼吸器 第 3 版 』メディックメディア、2018 年 【循環器】 ・居村茂幸・監『ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 改訂第 2 版』羊土社、2015 年 ・石川朗・他著『15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環代謝 第 2 版』中山書店、2017 年 ・医療情報科学研究所・編『病気がみえる 循環器 第 4 版』メディックメディア、2017 年			
学習の準備	内部障害理学療法学、内部障害理学療法学演習Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと（計 4 時間）			
オフィスアワー	月・火・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時			
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				

科目名	作業療法管理学	担当教員	三宅 環 伊藤 隆 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04J1331	①、⑤、⑥

科目概要	講義を通して、リハビリテーション部門および作業療法部門の組織体系について理解し、医療・福祉・介護領域（病院・施設等）での役割について理解する。また、組織における作業療法部門の位置づけと、実際の管理、運営方法について学習する。また、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録等の個人情報の取り扱い、医療事故・ヒアリハットに対する危機管理等の実際や、守秘義務等のチーム医療で必須となる職業倫理について理解を深める。
学習目標	①　作業療法部門の管理・運営について説明できる。 ②　作業療法に関わる職能団体の役割と運営について説明できる。 ③　医療機関の中における他部門と作業療法部門の役割を理解する。 ④　管理・運営に関する法律・制度について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	講義 1	管理・運営総論	管理・運営の概要を理解し説明できる	
2	講義 2	診療報酬の仕組み 1	診療報酬の仕組みを理解し説明できる	
3	講義 3	診療報酬の仕組み 2	診療報酬の仕組みを理解し説明できる	
4	講義 4	介護保険の仕組み	介護保険の仕組みを理解し説明できる	
5	講義 5	障がい者福祉の仕組み	障害者福祉の仕組みを理解し説明できる	
6	講義 6	リスク管理（感染対策）	感染対策を理解し説明できる	
7	講義 7	リスク管理（医療安全）	医療安全を理解し説明できる	
8	演習 1	リスク管理（グループワーク）	発表とフィードバックを通し、リスク管理マネジメントを作成できる	
9	講義 8	多職種連携・地域連携のマネジメント	多職種・地域間の連携を理解し説明できる	
10	講義 9	職業倫理	職業倫理の概略を理解し説明できる	
11	講義 10	組織の仕組みと目標設定	組織の仕組み、構成を理解し説明できる	
12	演習 2	組織の仕組みと目標設定（グループワーク）	発表とフィードバックを通し、組織運営表を作成できる	
13	講義 12	情報マネジメント	情報マネジメントを理解し説明できる	
14	講義 13	作業療法士教育とキャリア開発	作業療法教育とキャリア開発を理解し説明できる	

15	講義 14	業務管理	業務管理を理解し説明できる	

評価方法	筆記試験（100%）
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に適宜行い、試験に関しては試験終了後にオフィスアワーで対応する。
教科図書	指定しない（配付資料）
参考図書	（一社）日本作業療法士協会『作業療法事故防止マニュアル 2005』、2005 年
学習の準備	予習：該当部分の専門基礎科目に関わる項目の知識を整理しておくこと 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（合計 4 時間）
オフィスアワー	講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	作業療法特別セミナー	担当教員	三宅環 山田恭平 佐々木努 久保勝幸 佐藤拓也 松田竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	3単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04L1341	③

科目概要	作業療法士として臨床業務を遂行するにあたっては、生涯学習は欠かせないものであり、新しい知見や制度改定に対応していくことが求められる。そこで、本科目では、多岐に渡る作業療法領域の中からいくつかのトピックについて着目し、臨床実習の経験をもとに、基礎的な知識を整理する。生涯学習の基盤となるような探求心、問題解決能力、思考力を養う。 ※講義順は変更になる場合があります。
学習目標	専門基礎科目で学んだことを臨床的な知識として整理できるようになる

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	作業療法概論 リハ概論	作業療法概論、作業活動、リハ概論	これまでに学習したことを整理し、応用する力を身につける	
2	脳血管障害 老年期障害	老年期障害､高次脳機能障害､外傷性脳損傷､脳出血・脳腫瘍病変	以下、同様	
3	中枢神経	脳・脊髄、脳神経、脳血管など神経系		
4	臨床神経医学	高次脳機能障害、認知症		
5	脳血管障害	ブルンストローム法、脳血管障害（急性期、回復期)、片麻痺		
6	臨床神経医学	脳・神経の病態生理、脳血管障害		
7	生理学・病理学	代謝、血液、免疫、内分泌など 代謝・内分泌疾患、感覚器など		
8	ADL	ADL の評価法、ADL 介入、住宅改修、福祉用具、嚥下など		
9	評価法	評価法総論、ROM、MMT、感覚検査		
10	義肢装具、脊髄損傷	義肢装具、脊髄損傷		
11	関節リウマチ、整形疾患、整形外科	関節リウマチ、整形疾患、整形外科学		
12	解剖学、運動学	神経筋支配、筋・靭帯、運動学		

13	神経変性・筋疾患	神経変性・筋疾患、変性疾患、自己免疫疾患		
14	内科学１	内科学、膠原病、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、その他の疾患		
15	内科学２	内科学、膠原病、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、その他の疾患		
16	解剖学・生理学・病理学	循環、呼吸、消化と吸収、排泄など 循環系、内臓諸器官		
17	神経変性・筋疾患	筋ジストロフィー、筋疾患		
18	小児科学	人間発達学		
19	骨・関節 発生と組織	骨・関節、発生と組織		
20	就労支援	就労支援		
21	精神医学 臨床心理学	精神医学、臨床心理学		
22	精神障害	精神医学		
23	精神障害	精神医学		

評価方法	筆記試験（中間試験と修了試験で合計 100 点）
課題に対するフィードバック	講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	医療情報科学研究所『クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士　国家試験問題解説』メディックメディア、2024 年 医歯薬出版社・編『PT/OT　国家試験必修ポイント』医歯薬出版社、2024 年
学習の準備	１．予習：講義範囲を参考図書で確認し、事前学習をして臨むこと（2 時間） ２．復習：講義内容について、類似した国家試験の問題を調べて、解答および解説できるようにすること（2 時間）
オフィスアワー	月曜日 16 時 00 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	特別支援教育概論	担当教員	池田 千紗 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04L1351	①、③、④、⑤、⑥

科目概要	2007年、特別な場で教育を行う「特殊教育」から、 一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う「特別支援教育」へと発展的に転換したことで、教育・福祉・ 医療等の連携がこれまで以上に求められるようになった。本講義では、学校作業療法の実践から特別支援教育で求められる外部専門家としての作業療法士の役割について考察を深める。
学習目標	①多様な学びの場と合理的配慮について理解する。 ②教育機関との連携方法と福祉・医療機関の役割について理解する。 ③学校作業療法の実践事例から外部専門家の役割について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	特別支援教育のとは①	多様な学びの場について	子どもが教育を受ける際の選択肢や個別の指導計画、支援計画について理解する。	
2	特別支援教育とは②	合理的配慮について	子どもが教育を受ける権利について理解する。	
3	福祉機関の役割	教育・福祉機関の連携について	教育・福祉機関の連携方法、福祉サービス（主に保育所等訪問支援事業）について理解する。	
4	医療機関の役割	教育・医療機関の連携について	教育・医療機関の連携方法について理解する。	
5	学校作業療法の実践①	学校作業療法で支援を行った事例について （特別支援学級での実践紹介）	特別支援学級での実践について知る。	
6	学校作業療法の実践②	学校作業療法で支援を行った事例について （特別支援学級での評価と支援）	特別支援学級での実践について、評価方法や支援方法を考える。	
7	学校作業療法の実践③	学校作業療法で支援を行った事例について （通級指導教室での実践紹介）	通級指導教室での実践について知る。	
8	学校作業療法の実践④	学校作業療法で支援を行った事例について （通級指導教室での評価と支援）	通級指導教室での実践について、評価方法や支援方法を考える。	

評価方法	課題（学習のまとめプリント）（100%）
課題に対するフィードバック	各講義で課題「学習のまとめプリント」を提示し、次回講義で解説する。 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	講義の中で紹介する。
学習の準備	（予習）第 2 回の講義以降、講義中に配布する資料を通読し用語の確認をする（2 時間） （復習）講義中に配布する「学習のまとめ（プリント）」に取り組み、次回の講義で提出する（2 時間）。
オフィスアワー	講義の前後とする。

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	箱づくり法	担当教員	松田 竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04L1361	①、②、③、④、⑤

科目概要	箱づくり法は、箱を作り、振り返る一連の作業を通して対象者の作業能力・対人技能などを評価する作業面接である。作業体験を共有することにより、客観的指標と主観的体験内容に基づき、具体的な援助を対象者と確認することができる。また、数値化、視覚化されたデータは対象者や治療チームに具体的なエビデンスを提供する。本講義では、臨床で使えるようになることを重視し、箱づくり法のやり方やデータの読み方を中心に、臨床場面で見落とし、見誤り、思い込み陥りがちな治療者自身の“評価の目”を養うことを目的とする。
学習目標	① 箱づくり法の概要を理解する。 ② 箱づくり法を実践し、記録することができる。 ③ 得た情報をまとめることができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論	箱づくり法とは何か	箱づくり法の概要を理解する。	
2	作業面接	実施方法の確認と注意点	マニュアルを理解し、使用書式を確認する。	
3	作業面接	実施方法の確認と注意点	評価結果のデータ入力方法、結果の解釈を理解する。	
4	作業面接演習	箱づくり法の実施	箱づくり法を実際に実施し、結果を入力できる。	
5	作業面接演習	箱づくり法の実施	箱づくり法を実際に実施し、結果を入力できる。	
6	結果のまとめ	データの解釈・評価のまとめについて	結果をまとめ、解釈ができる。	
7	結果のまとめ	データの解釈・評価のまとめについて	まとめ、解釈を使用書式に記入できる。	
8	結果のまとめ	データの解釈・評価のまとめについて	評価結果を対象者に伝えることができる。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	資料配付
参考図書	箱作り研究会・編『箱づくり作業面接としての箱づくり法』2013 年
学習の準備	予習：配付資料や参考図書に目を通し、事前に考える機会とする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(2 時間)

オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	身体・老年期障害作業治療学特論	担当教員	三宅 環 久保 勝幸 佐々木 努 山田 恭平 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04L1371	①、②、③

科目概要	本講義では身体・老年期障害領域の作業療法で対象となる疾患の特徴や、作業療法支援の実際例を通して、具体的な治療展開、支援方法について理解を深める。また、文献検索、文献抄読、グループワーク、プレゼンテーションを通して、症例を深く掘り下げて考察することを学ぶ。また、臨床現場における事例のまとめ方や発表の方法についても学習する。この事例研究の過程を通して、身体・老年期障害領域における知識や実践方法についての探求心を深めていく。
学習目標	① 身体・老年期障害領域の病態を理解し、説明できる。 ② 認知症の生活支援について説明できる。 ③ 症例検討を通して治療目標、治療計画を適切に立案できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	作業活動1	対象者のニーズに合わせた作業活動	講義及びグループワークを通して身体・老年期障害領域の病態を理解する。	
2	作業活動 2	作業活動から対象者を選定する	講義及びグループワークを通して身体・老年期障害領域の病態を理解する。	
3	作業活動 3	義肢、装具学から考える作業活動 1	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	
4	作業活動 4	義肢、装具学から考える作業活動 2	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	
5	作業活動5	認知症の作業活動 1	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	
6	作業活動 6	認知症の作業活動 2	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	
7	作業活動 7	作業活動と画像診断 1	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	
8	作業活動 8	作業活動と画像診断 2	講義及びグループワークを通して適切な技術を身につけ実践できる。	

評価方法	課題提出（100%）
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に適宜行い、試験に関しては試験終了後にオフィスアワーで対応する
教科図書	指定しない（配付資料）
参考図書	日本作業療法協会編『作業療法ガイドライン 2012 年版』社団法人日本作業療法士協会、2012 年
学習の準備	予習：該当部分の専門基礎科目に関わる項目の知識を整理しておくこと 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること（合計 4 時間）

オフィスアワー	月曜日 16 時 00 分～17 時 30 分 ほか各担当教員から連絡する。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	精神障害作業治療学特論	担当教員	松田 竜幸 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**					
HR04L1381	①、②、③、④、⑤					

科目概要	疾病性と事例性の混在する精神障害領域の対象者について、そのかかえている多層的な生活機能の諸点と作業療法支援の実際例から理解ならびに探求を深める。個々の症例を取り巻く状況は複合的な要因の相互作用によるため、一面的に終わらずに各々の生活機能の分析と関係性を踏まえることが必要である。対象者の意思、要望を踏まえた上で適切に作業療法支援を進めていくための段取りや考え方を身につけられるように進めていく。
学習目標	① 多層的な生活機能の諸点から作業療法の支援を理解する。 ② 包括的なアプローチの視点を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	総論・包括的視点(1)生物学的視点	症例性と事例性、包括的アプローチ、生物学的視点からの治療や支援について	症例性と事例性、包括的アプローチ、生物学的視点からの治療や支援について理解する。	
2	包括的視点(2)心理学的視点	心理学的視点からの治療や支援について	心理学的視点からの治療や支援について理解する。	
3	包括的視点(3)倫理社会的視点	心理社会的視点からの治療や支援について	心理社会的視点からの治療や支援について理解する。	
4	ふりかえり	セラピスト自身の振り返りについて サービス提供者に望ましい要因について	サービス提供者に望ましい要因や各種のツールで項目を学び、自身についてふりかえって理解する。	
5	各種療法	精神科臨床に必要な各種療法について	各種療法について学び、体験し、理解する。	
6	コンパッション	感情とセルフコンパッションについて	感情の機能やコンパッションフォーカスとセラピーを体験し理解する。	
7	コミュニケーションと集団	コミュニケーションの深さと対人交流、ASD のコミュニケーション	コミュニケーションについて治療観点からのスキルを学び、理解する。	
8	コーピングスキル	ストレスへの気づきや対処方法について	ストレスについて学び、理解し、自身のコーピングリストを作成する。	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に質問を受け、回答する
教科図書	教員作成教材
参考図書	山根寛『精神障害と作業療法　新版』三輪書店、2017 年 上野武治・編『標準理学療法･作業療法学　精神医学　第 4 版』医学書院、2015 年 香山明美、他・編『生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで－ 第 2 版』医歯薬出版株式会社、2014 年 石井良和、他・編『精神障害領域の作業療法』中央法規、2010 年 早坂友成・編著『精神科作業療法の理論と技術』メジカルビュー社、2018 年
学習の準備	予習：参考図書に目を通し、どういった事柄が重要視されているのか考える機会とする。(2 時間) 復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行

	う。(2 時間)
オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：50。その他在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	発達障害作業治療学特論	担当教員	佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR04L1391	①、②、③、④、⑤

科目概要	文献抄読を通じて、発達障害領域で作業療法の対象となる疾患の特徴や、作業療法支援の実際例から、対象児の有する様々な要素によって優先されるべき課題など、具体的な介入の視点、ポイントについて理解を深める。また、障害を有する児に対して治療手段として用いられる玩具・遊具などの持つ要素について理解し、その作製や活用法について考察を深める。既習の知識に基づいたこれらの課題を通して、発達障害領域における作業療法の実践についての探求心を深める。
学習目標	① 発達障害領域の作業療法が関与する課題について関心を高め、現状についての調査、今後の課題について考察できる。 ② 治療過程で用いられる玩具・治療具について考察を深めることで分析、考案の視点を養う。 ③ 自らの調査、考察結果について総合的に整理し、報告することが出来る。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	テーマの調査・報告	オリエンテーション 発達障害領域の作業療法に関するテーマの探索	発達障害領域の作業療法のうち関心あるテーマについて調べ、焦点化することが出来る。	
2	テーマの調査・報告	発達障害領域の作業療法に関するテーマの報告	焦点化したテーマの概要について報告が出来る。	
3	テーマの調査・報告	テーマに関連する対象児の概要について	関心ある対象児の特徴、課題、OT 支援などの概要を整理し報告が出来る。	
4	テーマの調査・報告	テーマについての現状、課題について	テーマについての現状、課題について報告が出来る。	
5	治療具、玩具	関連する治療具、玩具の概要について	テーマに直接関連する／対象児で用いられる治療具、玩具の概要について報告が出来る。	
6	治療具、玩具	関連する治療具、玩具の分析・作製の考案	上記の治療具、玩具の持つ治療的要素、適用法、課題、作製する場合の具体的提案を報告が出来る。	
7	治療具、玩具	関連する治療具、玩具の効果判定法について	治療具、玩具の効果判定方法について報告が出来る。	
8	まとめ	プレゼンテーション	調査したテーマ、玩具／治療具について総合的に整理し、報告が出来る。	

評価方法	課題(100%)
課題に対するフィードバック	講義中、講義終了後に質問を受け、回答する。
教科図書	特に指定しない。
参考図書	発達障害基礎論、発達障害作業治療学など関連する授業で用いた教科書など
学習の準備	（予習）自ら課題を設定し、調査・報告の準備を行う（2 時間）。 （復習）フィードバックを基に適宜、調査・報告内容の確認、改善を行う（2 時間）。
オフィスアワー	火曜日～金曜日　13 時～17 時。その他、在室時はいつでも可

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	

科目名	国際医療支援論	担当教員	内藤 順子 ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	1単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HRC4H1411	①、⑥

科目概要	海外の医療事情を理解し、発展途上国などにおけるリハビリテーション(特に理学療法・作業療法分野)の現状を理解し、国際協力における理学療法士ならびに作業療法士の役割について考察する。世界の健康問題とグローバルヘルス（国際保健医療）における基本的理念を理解し、グローバルヘルス活動の事例を通してリハビリテーションに対する幅広い視野を持ち、国際的に貢献するための素養を深める。有資格者となった後に、こうした国際医療支援の分野に従事することを希望する者に対し、より高い動機づけとなることをねらいとしている。
学習目標	① 具体的事例から、国内外のグローバルヘルス（国際保健医療）問題とその動向・現状を学ぶ。 ② 理学療法士・作業療法士の国際社会における活動について理解し、今後の可能性や果たすべき役割について学ぶ。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	グローバルヘルスの理念と戦略	グローバルヘルスの理念と歴史的経緯、現状	グローバルヘルスの生まれる背景とその理念、目的、具体的戦略を理解する。	
2	国際的な健康問題	健康格差、人権と倫理、人間の安全保障	国際的な健康問題とその背景要因について現状を理解する。	
3	グローバルヘルス活動の実際（1）	グローバルヘルス活動の実際：各種国際機関による取り組み	国際連合、世界保健機関、国際協力機構などによるグローバルヘルスの実践的活動について学ぶ。	
4	グローバルヘルス活動の実際（2）	グローバルヘルス活動の実際：各種民間組織による取り組み	民間支援団体によるグローバルヘルスの実践的活動について学ぶ。	
5	貧困問題と健康	国際社会における貧困問題	世界における貧困とそれが原因となる病気や健康への影響について理解する。	
6	支援活動の実際（1）	カンボジアにおけるリハビリテーション分野の支援活動	カンボジアにおける障害観念やリハビリの現状について理解する。	
7	支援活動の実際（2）	チリにおけるリハビリテーション分野の支援活動、CBR（地域リハビリテーション）活動	チリにおけるリハビリの現状について理解する。	
8	グローバルヘルスの課題と展望	今後のグローバルヘルスのゆくえと、そこで理学療法、作業療法士が果たすべき役割	国際的な保健医療活動において理学療法士、作業療法士がどのような役割を果たしうるか理解する。	

評価方法	定期試験(80%)、課題提出(20%)
課題に対するフィードバック	授業をとおしてフィードバックする。
教科図書	講義資料を配布する。
参考図書	講義中に指示する。
学習の準備	毎回のテーマについて下調べをすること（計 4 時間）

オフィスアワー	講義の前後とする。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	